

Hanno Municipal Museum  
Annual Report 2020

飯能市立博物館館報（実績報告書）

# きつとすしレポート

第3号

通巻第18号(令和2年度)



飯能市立博物館

## あいさつ

飯能市立博物館「きつとす」の実績報告書第3号(通巻18号)をお届けいたします。対象は新型コロナウイルス感染症が全世界を席卷し、大きな影響を与えた令和2(2020)年度になります。

当該年度は、4月7日の政府による緊急事態宣言の発出から始まりました。県内でも県立館を初め多くの博物館が2月下旬から3月上旬にかけて休館となっていくなか、飯能市においては、4月8日に開催された新型コロナウイルス対策本部会議で翌9日から5月6日までの休館が決まりました(その後5月31日まで延長)。全国的には、緊急事態宣言が解除された後も、多くの館で展示会やイベントの中止などを余儀なくされました。ただそうなったからといって、何もしないわけにはいきません。日本博物館協会の「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」にも書かれているとおり、創意工夫を図りながら新型コロナウイルスの感染防止策に取り組み、その活動を継続させて「社会基盤としての役割」を果たす必要があります。このようなときにこそ博物館はその存在意義を高めていく努力をすべきです。私たちは「不要不急」ではないことを自らが示さなければならないのです。

一方で、コロナ禍において社会教育機関としてのあり方について考えさせられることもありました。例えばSNSに投稿された「#ミュージアムをあきらめない」で指摘されるように、公衆衛生の維持を優先するあまり、誰でもが利用できるという博物館のもつ社会的包摂性を失わせる危険性があるということです。また、日本博物館協会の感染予防ガイドラインには「来館者の氏名及び緊急連絡先を記載した名簿を作成することも考えられる」とされながら、半数以上の館で名前と連絡先の提出が求められました(日本博物館協会アンケート、『博物館研究』55-11)。本来、博物館は誰でもが気軽に立ち寄ることができる場所のはずです。しかしコロナ禍という非常事態の論理の中で、本来社会教育機関としてわれわれが守っていかなければならないものへの感度を自らが弱めてしまったように思いました。無批判にそれを受け入れてしまった居心地の悪さを感じざるを得ません。もう一度原点にかえって、博物館が社会に求められる役割を再確認する必要があるのではないのでしょうか。

さて、ご多分にもれず当館もコロナ禍によって大きな影響をうけました。来館者は前年度比で35%の減、リニューアルオープンのため10ヶ月間休館していた平成29年度を除けば、6年ぶりに3万人を割り込みました。そのような中で私たちは、十分な感染対策を取ったうえで、できるだけ事業を中止しないよう工夫しながら活動を行ってまいりました。未だかつて経験しなかった社会状況の中で、当館における新型コロナとの格闘の一年をご覧いただきたいと思います。

令和3年11月

飯能市立博物館  
館長 尾崎泰弘

# 目次

---

あいさつ	1
目次	2
沿革	3

---

## 第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設等修繕	7
常設展示・名栗くらしの展示室	8

---

## 第2章 事業

ミッション	12
令和2年度の事業	14
コロナ禍における当館の運営について	15
令和2年度の重点施策とその評価	18
展示	
(特別展)	19
(その他の展示)	26
講座・学習会	30
交流	35
博学連携	39
資料・施設の利用	45
レファレンスの対応	49
講師派遣	50
収集	51
整理・保存	53
調査研究	56
情報発信	59
事業支援	62
博物館協議会	63
博物館実習	64

---

## 第3章 各種データ

利用者数	68
歳出予算・決算	69
図書資料寄贈機関	70
飯能市立博物館条例・施行規則	72

職員	75
利用案内	76

---

表紙写真：コロナ禍下での当館における小学3年生の社会科学習

## 沿革

年月日	できごと
昭和46(1971)年3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄附された1千200万円が予算化される。
昭和61(1986)年3月	(株)丸広百貨店より寄附された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61(1986)年6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62(1987)年3月	飯能市文化財保護審議委員会から郷土館建設基本構想・基本計画が答申される。
昭和62(1987)年7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62(1987)年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63(1988)年6月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元(1989)年4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1・係員1)が配置される。
平成元(1989)年6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着手する。
平成元(1989)年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2(1990)年4月	<b>飯能市郷土館が開館する。</b> (常勤職員は館長・学芸員1・主事補1)
平成2(1990)年4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物ー思い出に残る品々ー」開催。
平成2(1990)年8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年実施)
平成2(1990)年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され、現在も自主活動をつづける。
平成3(1991)年4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。(10月にも特別展を開催し、以後平成10年秋まで春・秋の年2回特別展開催となる)
平成3(1991)年7月	郷土館友の会主催による郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成4(1992)年8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージⅠ」を開催。(生涯学習課と共催で平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
平成4(1992)年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。(平成14年秋の「うちおり」展まで)
平成5(1993)年1月	郷土館友の会主催による「まゆ玉づくり」開催、以後平成22年1月まで毎年実施。(それ以後は館主催事業として平成29年まで実施)
平成5(1993)年6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成6(1994)年4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で初めて特別展の図録をつくる。
平成6(1994)年10月	特別展「ジャパン・マイセンー瀬戸の磁器人形ー」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展を除く)
平成7(1995)年7月	常勤職員が4人(館長・学芸員2・主事補1)となる。
平成8(1996)年5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成8(1996)年8月	常設展示等企画委員会が発足し、当館の改善すべき点をまとめる。(任期は平成10年3月まで)
平成9(1997)年3月	『館報』第1号発行。
平成10(1998)年9月	「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年実施)
平成10(1998)年11月	市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
平成11(1999)年3月	収蔵品展開催。(これ以降、毎年春に収蔵品展、秋に特別展という枠組みになる)
平成11(1999)年12月	開館以来の入館者数が30万人を突破。

年月日	できごと
平成12(2000)年1月	第I期市民学芸員養成講座開始。
平成12(2000)年3月	博物館法に基づく登録博物館となる。
平成13(2001)年3月	『研究紀要』第1号発行。
平成13(2001)年9月	これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小・中学校社会科研究展」として開催。
平成14(2002)年10月	当館ホームページをインターネット上で公開し始める。
平成15(2003)年3月	『収蔵資料目録1 写真資料目録I』発行。
平成15(2003)年7月	市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15(2003)年8月	開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成16(2004)年10月	入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 ーその流域の今昔ー」開催。
平成17(2005)年1月	名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。
平成19(2007)年3月	当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
平成19(2007)年4月	開館以来の入館者数が50万人を突破する。
平成19(2007)年6月	市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、平成23年まで7回実施)
平成22(2010)年3月	『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
平成22(2010)年11月	開館以来の入館者数が60万人を突破する。
平成23(2011)年4月	飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討を始める。(平成25年3月まで)
平成23(2011)年10月	特別展飯能戦争「飯能炎上 ー明治維新・激動の6日間ー」開催。会期中に展示図録が完売し、300部増刷する。(当館発行の刊行物増刷は初めて)
平成24(2012)年4月	当館館長に初めて学芸員有資格者が就任する。
平成24(2012)年6月	史料集活用講座「地域を学ぶ・調べる・歩く」実施。(全3回)
平成25(2013)年10月	収蔵絵画のうち216点を精明小学校内絵画保管室に移す。(計342点を同室で保管)
平成26(2014)年5月	開館以来の入館者数が70万人を突破する。
平成26(2014)年6月	名栗くらしの展示室を開設する。
平成28(2016)年8月	「飯能市郷土館常設展示改装に関する計画」策定、郷土館協議会で承認される。
平成28(2016)年9月	(株)ムラヤマによる常設展示改装展示設計業務を開始する。(平成29年2月完成)
平成29(2017)年6月	展示改装工事のため休館し(6月1日から平成30年3月31日まで)、常設展示改装工事を開始する。(平成29年12月完成)
平成30(2018)年4月	飯能河原・天覧山周辺のデジタルセンター的機能を追加し、「飯能市立博物館」としてリニューアルオープンする。
平成30(2018)年4月	リニューアルオープン記念写真展「春を告げるものたち」開催(～5月)
平成30(2018)年4月	春の自然観察会「里山の草花をたずねて」開催。
平成30(2018)年5月	開館以来の入館者数が80万人を突破する。
平成31(2019)年3月	年間入館者数が始めて40,000人を超える。(平成31年度の入館者数は41,533人)
令和元(2019)年5月	令和に改元
令和元(2019)年10月	開館30年記念特別展「飯能の名宝」開催。
令和2(2020)年3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月28日(土)・29日(日)・4月4日(土)・5日(日)が臨時休館となる。
令和2(2020)年4月	新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されたことを踏まえ休館する。(4月9日～5月6日、のち5月31日まで延長)
令和3(2021)年2月	新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした国庫補助金により、歴史展示室・展示ホール、管理室、学芸研究室の空調設備改修工事が完了する。



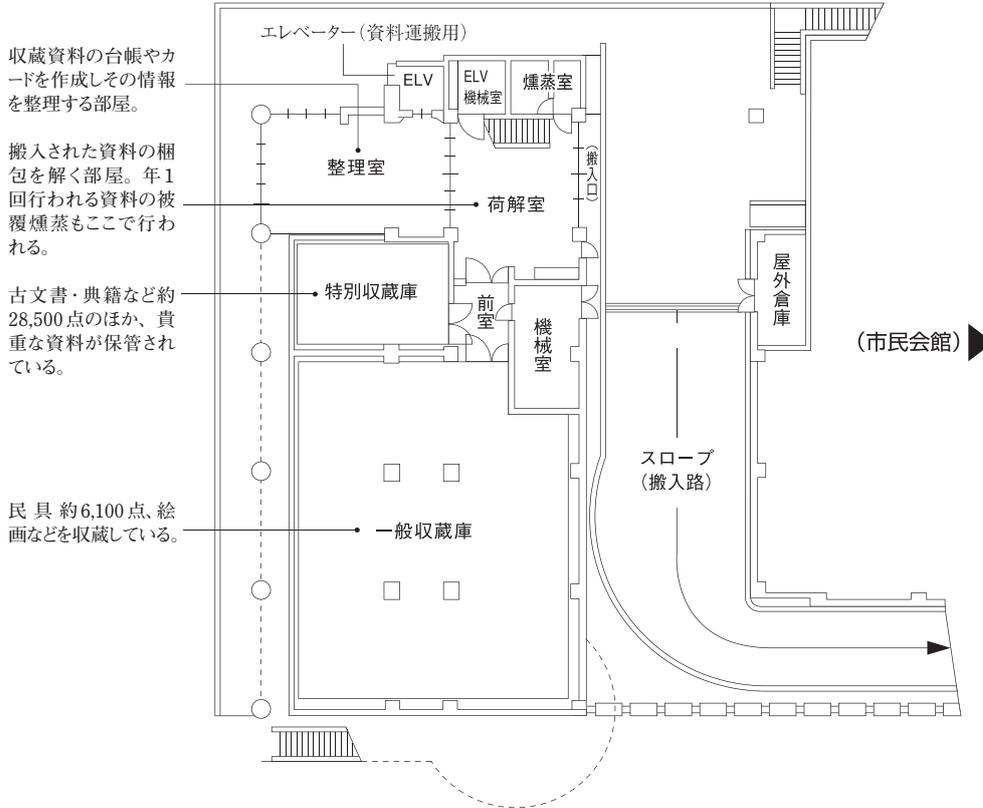
# 第 1 章

– Chapter 1 –

## 【 施 設 】

# 建物平面図

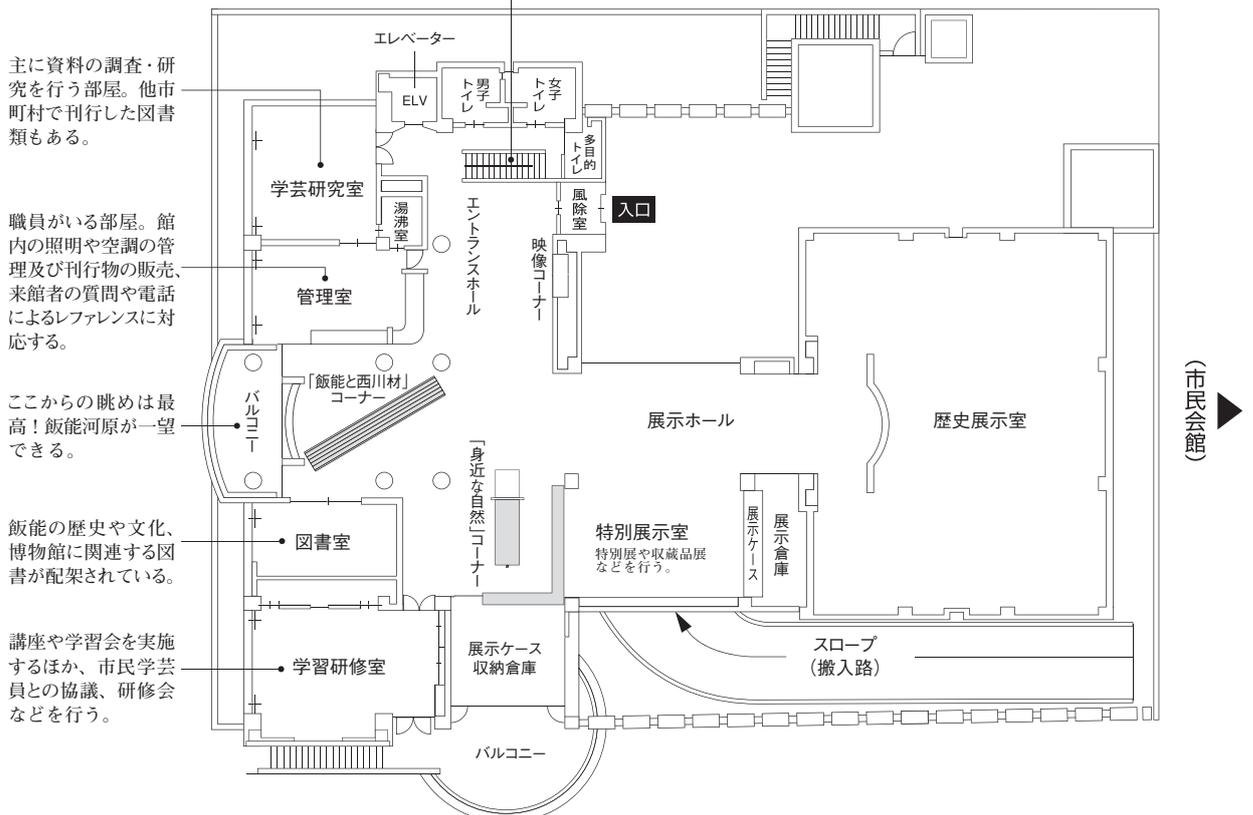
## < 1 階 >



## ※(R階)

階段をあがるとテラスがあり、龍崖山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

## < 2 階 >



## 面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
<b>1 階</b>	<b>497.458</b>	「飯能と西川材」コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
<b>2 階</b>	<b>959.774</b>	<b>R階</b>	<b>40.040</b>
歴史展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
「身近な自然」コーナー等	139.750		
展示ホール	88.128		
エントランスホール	103.131	<b>合計</b>	<b>1,497.272</b>

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積(㎡)	割合(%)
教育普及	展示(歴史展示室・特別展示室・展示ホール等)	561.693	37.5
	その他(学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.720	25.2

敷地面積 3,626.120㎡ 建築面積 1,165.999㎡

## 施設等修繕

- ・ エントランスホール蛍光灯安定器交換(6月)
- ・ 歴史展示室、展示ホール空調設備改修(9月～2月)
- ・ 防犯カメラ用レコーダーのファン取替え(10月)
- ・ 屋外排水管詰まり修繕(10月)
- ・ 管理室空調設備改修(11月～2月)
- ・ 学芸研究室空調設備改修(12月～2月)
- ・ (小学3年生見学対応用)自転車パンク修繕(1月)
- ・ 特別展示室固定ケースクロス貼替え(2月)
- ・ 正面入口上の誘導灯取替え(2～3月)
- ・ 「身近な自然」コーナー展示ケース修繕(3月)

## 常設展示

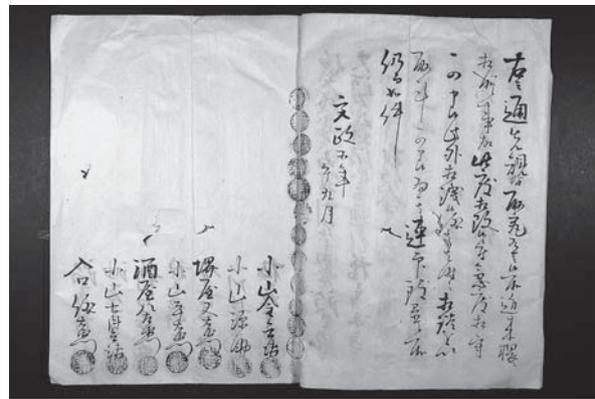
### ◇歴史展示室

歴史展示室は、「里」「町」「山」「飯能今昔」の4つのゾーンからなり、最新の情報・知見を常に反映させることができるよう展示替えが容易な構造とし、「更新される展示」を目指している(『常設展示改装に関する計画』平成28年8月)。ここでは、訪れた来館者をまちなか、山間地へと誘うため「おでかけガイドマップ」と称する歴史文化資源を紹介する地図を5種類、そのほか展示内容や資料の解説シートである「もっと知りたい「飯能の歴史」」カードを5種類配布している。

また常設展示による資料の劣化を防ぐため、里ゾーンの「うちおり」と町ゾーンの引札はほぼ2ヶ月に1回の割合で展示資料を取り替えている。当該年度は、うちおり、引札ともに4回実施した。さらに6月2日の再開に合わせて「町」ゾーンの「町に集まった産物」(炭)のコーナーの、享保17(1732)年2月「覚」(大河原律子家文書)を、文政5(1822)年9月「炭問屋仲間議定書」(平沼優家文書)

に取り替えた。

そのほか子どもたちがいつでも歴史展示室を楽しく学ぶことができるようにするため、子ども向けワークシート「歴史展示室クロスワード」を4月に作成した。しかし、6月2日の再開後に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため館内におけるハンズオン展示を撤去することとなり、設置に至らなかった。



新しい常設展示資料「炭問屋仲間議定書」(平沼優家文書)

### ◇「身近な自然」コーナー

このコーナーは、当館近くにある飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンター的機能を担うところである。当館を訪れた人々に天覧山や多峯主山といった里山、そして飯能河原の自然の魅力を伝えるために、分野ごとに生息している生き物を紹介している。また、訪れた人々が季節ごとの旬な情報を手に入れてから散策を楽しんだり、散

策後に気づきを与えられたりできるように、随時情報を発信している。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、なかなか外出することが難しい中で、定期調査による情報を随時発信することで、少しでも楽しんでいただけるように努めた。ハンズオン展示以外については、従来通りの発信を行うことができたと考えられる。

#### ●天気予報の更新

この掲示は、登山や散策を目的とする来館者に、一日の天気予報を伝えることを目的として、令和2年度から始めたものである。

#### ●季節の自然情報の紹介

「旬の自然情報発信板」は、コルクボードを使って、常に掲示している天気予報と花暦の他に、不定期に発信している自然情報である。当該年度は、おおよそ月に1回以上、合計13回の更新を行った(9P表)。昨年度に作成した「〇月の花暦～



「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」(7月の更新時)

30種セレクション～」などを活かし、定期的に貼り替えるように留意した。

●「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」の更新

現在の具体的な自然情報を得ることができるのが、このマップである。定期調査をもとに、植物や動物に関する写真を位置情報とともに掲示し、更新している。当該年度の更新頻度は1ヵ月に2回を目標とし、年間18回の更新を行った。更新日に追加した写真の種および掲示枚数は10Pの表の通りである。1年間の掲示写真枚数は、288枚であった。

●観察・体験コーナー

中央の大きな机を使って、自然に触れ、体験できるようにしたのが、このコーナーである。しかし、新型コロナウイルス感染症の接触感染リスクを鑑み、当館では基本的に消毒が難しい、触ることのできる飯能河原の石、矢風テフラ層を観察する顕微鏡といったハンズオン展示を中止した。また自然に関する図書も撤去した。

一方で7月に新たに「クモの巣(点つなぎ)パズル」を設置した。これは、もともと「おうちできっとす」のコンテンツとして作成されたもので、紙に書かれたひらがなを矢印の順番通りに鉛筆でなぞると、クモと同じように網をはることができるものである。巣は、オニグモの貼り方をモデルにして作成した。パズル用紙のそばには、網のはり

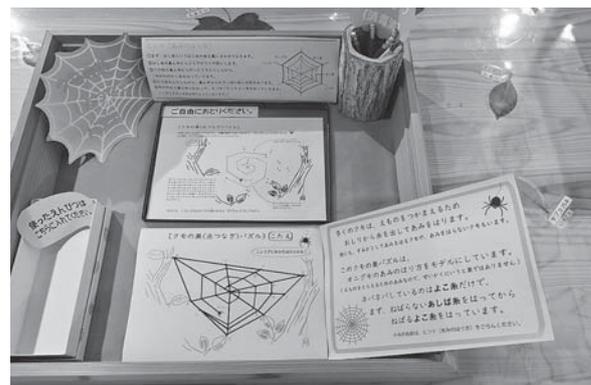
◆「身近な自然」コーナーコルクボード更新一覧

回	日付	内容	備考
1	4月3日	4月の花ごよみ～30種セレクション～	
※臨時休館中は更新なし			
2	5月29日	かくれんぼクイズ 6月の花ごよみ～30種セレクション～	
3	7月3日	ホテルの季節になりました！	
4	7月12日	7月の花ごよみ～30種セレクション～	
5	7月31日	セミの羽化を見てみよう！ 8月の花ごよみ～30種セレクション～	
6	9月1日	タカの渡り	令和元年度作成原稿をもとに再作成
		9月の花ごよみ～30種セレクション～	
7	10月2日	モズの高鳴き	
		10月の花ごよみ～30種セレクション～	
8	11月7日	コウヤボウキのレストラン	
		11月の花ごよみ～30種セレクション～	
9	12月6日	冬の天覧入り谷津田の鳥たち	自然写真展で使用するため5月に作成
		12月の花ごよみ～30種セレクション～	
10	1月5日	カモシカ、鹿かも！？…実はウシ。	
11	2月7日	ウグイスカグラの開花	
		冬芽ってなあに？	
12	3月3日	おたまじゃくしが生まれたよ！	
		3月の花ごよみ～30種セレクション～	
13	3月31日	ケヤキの花が咲きました！	
		OH!!!×飯能市立博物館連携事業チラシ	

「花ごよみ」は令和元年度に作成したものを活用した

方や答えを置き、答えは持ち手で持ち上げてめくると提示されるようにした。鉛筆は、ペン立てや箱を使って消毒済のものと使い終わったものを分けられるようにした。コロナ禍前ほどではないが、ワークシートがコンスタントに減っている様子から少なからず好評であったように思われる。

次年度以降、新型コロナウイルス感染症の様子を見ながら、観察・体験コーナーの充実を図っていきたい。



くもの巣(点つなぎ)パズル

◆「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」更新一覧

回	日付	分野	追加写真	総掲示枚数	追加枚数
1	4月2日	草本	スギナ、ミノフスマ、アリアケスミレ、ミツバツチグ	15	10
		木本	ヤマザクラ、ヤマツツジ、クサボケ、アオキの雄花、クロモジの雄花、アセビ		
		その他	アズマヒキガエルの卵		
※臨時休館中は更新なし					
2	6月2日	草本	ホタルブクロ、ヤブヘビイチゴ(実)	13	13
		木本	スイカズラ、バイカツツジ、コアジサイ、マユミ、ヤマウグイスカグラ(実)、サルトリイバラ(実)、ヒメコウゾ(雄花)、ハナイカダ(実)、ハナイカダ、ネジキ		
		その他	イラガのまゆ		
3	6月13日	草本	オカトラノオ、アキノタムラソウ、ドクダミ	14	7
		木本	ユキシタ、クリ		
		その他	キアゲハ、ベニシジミ		
4	7月2日	草本	ホタルブクロ、ヒメジョオン、ハエドクソウ、オオバジャノヒゲ、ヒメヤブラン	16	8
		木本	ヤブコウジ		
		その他	シマヘビ、クロウリハムシ		
5	7月15日	草本	オトギリソウ、コバノカモメヅル、ジャノヒゲ、チダケサシ、ミノソバ、ミツバ	16	7
		その他	オバボタル		
		草本	ヤマユリ、ミズタマソウ、オニドコロ、ヤブラン		
6	7月31日	木本	イヌザクラ(実)、クサギ(蕾)、コナラ(実)、ヤブハギ	19	9
		その他	クロノマチョウの幼虫		
		草本	ガンクビソウ、マツカゼソウ		
7	8月15日	木本	フユイチゴ、ナガバノコウヤボウキ、ヌスビトハギ、クサギ(花)	18	8
		その他	スジアカハシリグモ、カマキリのぬけがら		
		草本	ヒメキンミズヒキ、センニンソウ、ヤブミョウガ(実)、ボントクタデ、イストウバナ		
8	9月2日	木本	アオハダ(実)、クリ(実)	18	10
		その他	ハイロチョッキリの産卵痕、キンモンガ、ヒメウラナミジャンメ		
		草本	ノダケ、コバノカモメヅル、サクラタデ、フジカンソウ、ミズヒキ		
9	9月16日	木本	アオツツラフジ(実)、サワフタギ(実)	20	12
		その他	オナガガモ、オオトリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ(卵のう)、イチモンジセセリ、ツマグロヒョウモン(さなぎ)		
		草本	コメナモミ、ミノソバ、ヤブマメ、ノササゲ、ボントクタデ		
10	10月6日	木本	オトコヨウゾメ(実)、ガマズミ(実)、クサギ(実)	15	10
		その他	タマゴタケ、モズ		
		草本	ツリガネニンジン、ヤマハッカ、ユウガギク、ハナタデ		
11	10月16日	木本	サワフタギ(実)、コナラ(実)、コバノガマズミ(実)	18	9
		その他	アサギマダラ、ハナサナギタケ、ジョウロウモ(巣)、イオウイロハシリグモ、ナガコガネグモ(卵のう)		
		草本	ヤマノイモ		
12	11月7日	木本	サルトリイバラ(実)、ナツハゼ(実)、シロダモ(実)、ムラサキシキブ(実)	14	5
		草本	ノササゲ(実)、ヤブマメ(実)、ヨシ、ムラサキシキブ(冬芽)		
		木本	シロダモ(実)、コナラ(実)		
13	11月23日	その他	ヌルデの虫こぶ、アオハダの幹にある動物の爪痕?、ツノロウムシ、ムラサキシジミ	16	10
		草本	キチジョウソウ(実)、ヤブラン(実)、アマチャヅル(実)、コシロノセンダングサ、ハキダメギク、ジャノヒゲ(実)		
		木本	ヤブツバキ		
15	1月13日	草本	キッコウハグマ(種)	15	9
		木本	コウヤボウキ(綿毛)、ヒサカキ(実)、ヤマコウバシ、アオキ、ヤブコウジ(実)、マンリョウ(実)、リョウブ(冬芽)、テイカカズラ(種)		
		木本	アセビ、ヤマウグイスカグラ、ヒサカキ(つぼみ)、マユミ(実)、ヤブムラサキ(実)、ウメ、スギ(実)		
17	3月2日	草本	コハコベ、ヒメカンズゲ、オオイヌノフグリ、スズメノエンドウ、タチツボスミレ	13	6
		その他	アカタテハ		
		草本	アオイスマレ、フキ		
18	3月19日	木本	ソメイヨシノ	14	5
		その他	センシヨウグモ(卵のう)、ミヤグモの仲間の巣		

総数 288 152

## 名栗くらしの展示室

名栗くらしの展示室は名栗地区行政センターの2階にあり、平成17(2005)年1月に合併により吸収された名栗村時代より収集されてきた民具の活用と、平成21年度に完結した名栗村史編さん事業の成果を展示することを目的としている。

展示は、2階へ向かう階段部分の導入展示「名栗の風景」、シンボル展示「西川林業」、名栗の歴史をパネルで紹介する「歴史の回廊」、炭焼き、養蚕・機織り、麦つくりといった名栗での生業を紹介する「くらしの展示室」で構成されている。



名栗くらしの展示室「炭焼き」のコーナー



## 第 2 章

– Chapter 2 –

# 【 事 業 】

### 飯能市立博物館ミッション(使命)



博物館には3つの価値があります。1つは知的な体験をするという一般的な人々にとっての「個人的な価値」、2つめが資料を集積し調査研究の成果を発信していることによる専門家にとっての「学術的価値」、3つめは、博物館の活動がその時の社会、経済、教育、文化などに影響を与えることによって生じる「社会的価値」です。飯能市立博物館は、これら3つの価値を意識しながら、以下に掲げるミッションを達成することで、市民文化の向上と社会の発展に寄与していきます。

#### I 飯能の新たな魅力に出会える博物館をめざします。

古くからの歴史と多彩な自然を有する飯能には、まだ知られていない魅力(宝物)がたくさんあります。当館は資料の収集・保存及び調査研究活動により地域の新たな魅力の発見に努め、展示や学習活動などを通してそれらをストーリーとして発信し続けることで、人々の知的好奇心に応えていきます。またその魅力を活かして個性豊かで活力のある地域づくり・人づくりに取り組んでいきます。

#### II 「学び」の入口となる博物館をめざします。

当館は、着実な博物館活動を通してさまざまな「学び」への欲求に応え、支援していくとともに、学習者の交流の場となることを目指します。そのために情報の蓄積を進め、図書館などの社会教育施設や地域の団体、企業などと連携・協働していきます。

#### III 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館をめざします。

当館が収蔵する資料は市民共有の財産として永く継承され、市民の学習活動に活用されますが、同時に学術研究の資料でもあります。それら資料を用いた研究者による学術研究を支援するとともに、当館学芸員の研究と交流させることで、広い視点から資料の価値を高めるとともに、地域の特色を明らかにし、市民の地域への愛着を育てていきます。

#### IV 学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館をめざします。

当館と学校が連携して、収蔵資料などを活用しながら、子どもたちが自ら体験・観察することができる学習プログラムを作り、質の高い学習活動を支援します。それにより自らの頭で考え、見て、確かめることの大切さを伝え、変化の激しい時代を生き抜くために必要な学びへとつなげていきます。

#### V 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館をめざします。

歴史・文化とは、はるか昔から続く人々の営みの積み重ねであり、そこには先人たちの知恵や教訓がたくさん含まれています。当館は、地域文化発信の核として、地域の歴史・文化情報を積極的に発信するとともに、例えば災害記憶を伝承し安全なまちづくりに寄与するなど、歴史・文化を現代そして未来に活かすことに努めていきます。

#### VI 飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館をめざします。

当館が所在する飯能河原・天覧山周辺地域は、豊かな自然に恵まれ、多くの方が来訪します。当館は、この地域における自然のビジターセンターとしての機能も果たし、自然環境についての情報を集め、提供していくことにより、自然と人間との共生に貢献していきます。

(2018年3月23日策定)

◆飯能市立博物館ミッションと館報「きつとすレポート」掲載内容対応表

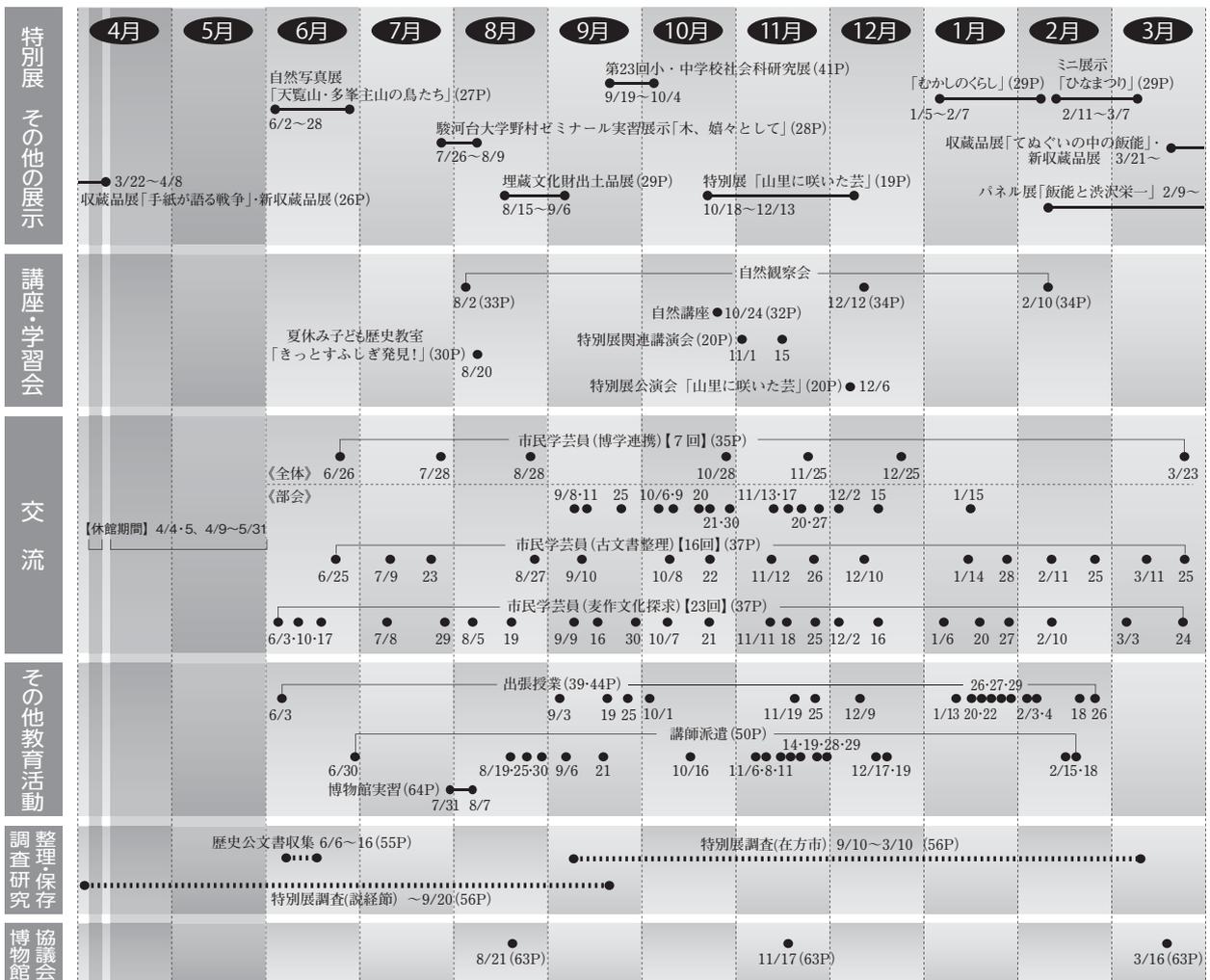
項	価値	博物館ミッション(項目)	本文	館報(見出し)	活動内容	ページ
I	個人	飯能の新たな魅力に出会える博物館をめざします。	古くからの歴史と多彩な自然を有する飯能には、まだ知られていない魅力(宝物)がたくさんあります。当館は資料の収集・保存及び調査研究活動により地域の新たな魅力の発見に努め、展示や学習活動などを通してそれらをストーリーとして発信し続けることで、人々の知的好奇心に応じていきます。またその魅力を活かして個性豊かで活力のある地域づくり・人づくりに取り組んでいきます。	常設展示(「歴史展示室」)	展示資料の展示替え	8
				名栗くらしの展示室		10
				展示	特別展	19
					収蔵品展	26
				講座・学習会	夏休み子ども歴史教室	30
					歴史講座(一般対象)	—
					現地見学会	—
情報発信	ホームページ	59				
	SNS	59				
	That'sきつとす	61				
II	個人	「学び」の入口となる博物館をめざします。	当館は、着実な博物館活動を通してさまざまな「学び」への欲求に応え、支援していくとともに、学習者の交流の場となることを目指します。そのために情報の蓄積を進め、図書館などの社会教育施設や地域の団体、企業などと連携・協働していきます。	展示	駿河台大学野村ゼミ実習展示	28
				交流	市民学芸員(全体)	35
					市民学芸員(博学連携)	36
					市民学芸員(古文書整理)	37
					市民学芸員(表作文化)	37
				博学連携	社会体験チャレンジ	—
				施設の利用	施設の利用	48
				講師派遣(歴史・文化)	講師派遣(災害史など)	50
				レファレンスの対応	レファレンスの対応	49
				事業支援	事業支援	62
博物館実習	博物館実習	64				
III	学術	常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館をめざします。	当館が収蔵する資料は市民共有の財産として永く継承され、市民の学習活動に活用されますが、同時に学術研究の資料でもあります。それら資料を用いた研究者による学術研究を支援するとともに、当館学芸員の研究と交流させることで、広い視点から資料の価値を高めるとともに、地域の特色を明らかにし、市民の地域への愛着を育んでいきます。	展示	今月の一品	29
				収蔵資料の利用	収蔵資料の利用	45
				収集	寄贈資料受入	51
					寄託資料受入	51
					資料購入	52
					歴史公文書の収集	55
				整理	民具	53
					古文書	53
					写真	53
				保存	資料の保全	54
					燻蒸	55
					環境調査	55
				調査研究	調査(歴史分野)	56
研究紀要の発行	—					
IV	社会	学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館をめざします。	当館と学校が連携して、収蔵資料などを活用しながら、子どもたちが自ら体験・観察することができる学習プログラムを作り、質の高い学習活動を支援します。それにより自らの頭で考え、見て、確かめることの大切さを伝え、変化の激しい時代を生き抜くために必要な学びへとつなげていきます。	博学連携	小学3年生見学対応	39
					小・中学校社会科研究展	41
				出張授業	44	
				交流	市民学芸員(博学連携)	36
V	社会	歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館をめざします。	歴史・文化とは、はるか昔から続く人々の営みの積み重ねであり、そこには先人たちの知恵や教訓がたくさん含まれています。当館は、地域文化発信の核として、地域の歴史・文化情報を積極的に発信するとともに、例えば災害記憶を伝承し安全なまちづくりに寄与するなど、歴史・文化を現代そして未来に活かすことに努めていきます。	展示	特別展	19
				講師派遣	講師派遣(災害史など)	50
				調査研究		—
VI	社会	飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館をめざします。	当館が所在する飯能河原・天覧山周辺地域は、豊かな自然に恵まれ、多くの方が来訪します。当館は、この地域における自然のビジターセンターとしての機能も果たし、自然環境についての情報を集め、提供していくことにより、自然と人間との共生に貢献していきます。	展示(ビジターセンター)	常設展示(「身近な自然」)	8
				展示	自然写真展	27
				講座・学習会	自然講座	32
					自然観察会	33
				講師派遣	講師派遣(自然分野)	50
調査研究	自然調査	57				

# 令和2年度の事業

令和2年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、4月から5月にかけて47日間休館となった。その結果、上半期の事業は、日程変更や中止、延期などの措置が取られた。また6月2日の再開後も団体見学受け入れや学習研修室利用可能人数の制限を余儀なくされた。

上半期は、収藏品展「手紙が語る戦争」がわずか10日ばかりの公開に留まったが、他の展示は概ね予定していた会期で実施することができた。秋の特別展は、市有形民俗文化財となった「落合家人形芝居用具及び説経節関係資料」を取り上げた「山里に咲いた芸」で、現在ではほとんど接する機会がなくなってしまった芸能・説経節に光を当て再評価するものであった。これに関連し隣の市民会館でも徹底した新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながら説経節の公演会を行い、大盛況であった。コロナ禍は凶らずも文化、芸術活動が私たちの生活に不可欠のものであること、そして社会における博物館の存在意義を再認識させる契機となった。

また教育活動は、年度当初と2月から3月に埼玉県に出された緊急事態宣言によって、この時期に予定されていた事業が中止となった。市民学芸員は特に博学連携事業参加型が、令和元年度に養成講座を実施したことで人数が増え、利用人数が制限された学習研修室に入りきらないため、例会の会場を中央地区行政センターの集会室などに移さざるを得なかった。一方で、新型コロナウイルス感染拡大によって公演や展覧会の中止等を行った文化施設に対し、再開にあたっての感染症予防策などを支援する国庫補助事業によって、老朽化が進んでいた歴史展示室や展示ホールなどの空調設備を改修することができたのは不幸中の幸いであった。当該年度はこれまでにない運営を迫られた年として、長く当館の歴史に刻まれることになるであろう。



## コロナ禍における当館の運営について

### 1. 当館における新型コロナウイルス感染拡大防止策

わが国で新型コロナウイルス感染症感染者が最初に確認されたのは、令和2年1月16日のことである。4月7日に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令され、埼玉県新型コロナウイルス感染症対策本部会議の決定を経て4月8日に開催された第14回飯能市新型コロナウイルス感染症対策本部会議(以下「市対策本部会議」と略)において、4月8日から5月6日までの公共施設の休館が決定した。その後、緊急事態宣言は延長され、休館期間も5月31日までとなった。この間、市主催のイベント・行事は原則中止又は延期となった。5都道府県の緊急事態宣言は5月25日に解除され、第20回市対策本部会議の決定(5月26日開催)により、公共施設等の利用については、感染拡大を予防する「新しい生活様式」を実践することを前提として、6月1日以降、国が示す基本的対処方針による一定の移行期間を設けながら、段階的に利用条件を緩和することとなった。当館では日本博物館協会が策定した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を基に「新しい生活様式」をとりまとめ、6月2日(火)から活動を再開した。また6月24日には施設の利用制限を一部緩和した。

当館における令和2年3月以降の新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策は以下の通りである。

#### ○令和2年3月4日～4月8日

##### ・学習研修室

利用団体に、消毒・手洗い・マスクの着用・適宜な換気などの感染症対策の徹底を依頼。

##### ・図書室

椅子の数を10脚から6脚に減らし、滞在の長い利用者への声がけと1時間に1回程度の換気の励行

##### ・団体見学

新規の申込みがあった場合の中止の要請

##### ・展示解説

原則実施しない

#### ○令和2年3月28日(土)・29日(日)・4月4日(土)・5日(日)、4月9日(木)～5月31日(日)まで休館

#### ○令和2年6月2日～(再開)

#### ア、再開しないサービス

##### ・団体見学の受け入れ

##### ・展示解説

##### ・歴史展示室の子ども向けワークシート「クロスワード」

##### ・「身近な自然」コーナーでのハンズオン展示(飯能河原の石、矢風テフラ層を観察する顕微鏡など)

#### イ、来館者の安全確保のために実施したこと

##### ・マスクの着用、手洗い・手指の消毒の徹底、洗面所での手洗い、咳エチケットの励行

##### ・来館者同士の距離を2メートルほど空けることへの協力要請

##### ・来館前の健康状態の確認と検温

##### ・来館者自身が来館日時を記録することを要請

##### ・来館自粛を求める条件(発熱、咽頭痛がある場合など)の設定

以上をホームページならびに入口外の看板に掲示した。

#### ウ、施設管理

##### 〈館内〉

##### ・エントランスホールに手指消毒用ボトルを設置

##### ・午前と午後に1回ずつ館内の把手、手すり、ケースなどのアルコール消毒

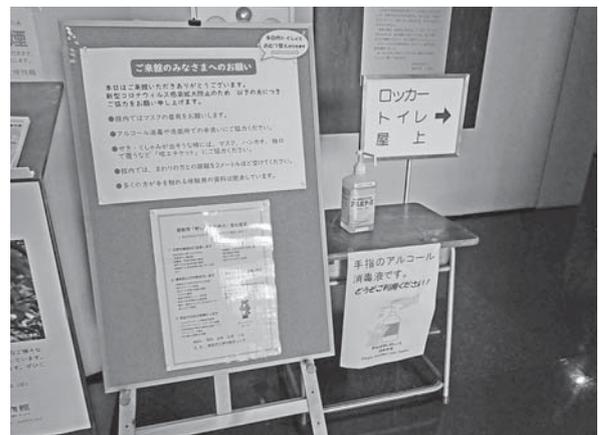
##### 〈窓口〉

##### ・窓口で行列ができた場合、1mの間隔を保てるようにするためのフロアマーカの設置

##### ・窓口にビニールカーテンの設置と金銭授受の際のトレーの使用

##### 〈図書室〉

##### ・6脚に減らしていた椅子を4脚に減らし、向



再会時の入口表示とアルコール消毒液

かい合わないよう配置

- ・対面する席の間にビニールカーテンを設置

〈常設展示〉

- ・「飯能と西川材コーナー」の西川材製品の椅子（スツール）を12脚から3脚に減らし、西川材製品の小物を撤去

エ、事業の実施に当たって留意した点

- ・屋外における自然観察会や館内における講座などの募集人員を15人までに制限
- ・自然観察会における新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを策定
- ・特別展示室は10名まで、展示ホールは15名までに入館制限
- ・展示は、観客同士の距離を保てるような配置を心がけ、アンケート台には使用前と使用後の鉛筆立てを用意。

○令和2年6月24日～(改訂)

ア、実施しないサービス

- ・15名を超える団体見学の受け入れ  
→団体見学の受け入れを15名まで緩和  
上記以外は再開時と同じ

## 2 コロナ禍における当館の運営

令和2年度に当館が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館したのは1回のみで、県内他館と比較して期間も短かった。多くの博物館ではこの間、中止もしくは規模を縮小した事業・イベントに替え、SNSの活用や動画の配信など新たな手法で補うことで利用者の期待に応えようとした。この間の博物館におけるデジタル化の加速は、コロナ禍の1つの「功」として評価されている。

当館では、館の規模やこれまでの入館状況に加え休館期間も短かったこともあり、定員を減らすことも含めて十分な感染予防策を講じながら、できるだけ事業を実施することとした。来館者の安全を図ることは何よりも優先させなければならないが、この先当館が博物館として社会に認められる存在であり続けるためにはその運営ノウハウの継承が不可欠であると考えた。コロナ禍はそれを阻む要因となる。

しかし、多くの館では従来のような活動の継続は不可能と判断したため、喫緊の課題(デジタル化)をより強力に進めながら、求められる役割に応え

ていくという方向で活動を展開していった。事業を可能な限り継続するという当館の姿勢は、周辺の博物館から「強気の経営」などと揶揄されたが、(結果的に感染者が出なかったからいえることではあるが) 職員のモチベーションを下げないという意味でも良かったと思う。ただそのことがかえってデジタル化への移行による新たな教育プログラムの立ち上げへの動きをにぶらせたともいえる。

そうした中で開始した新たな教育サービスが、デジタルアーカイブと「おうちミュージアム」である。「きっとデジタルアーカイブ」は、休館期間を利用してクラウド型収蔵品管理システム「I.B.Museum Saas」に近代絵画資料登録を進めたことがベースになっている(ただしウェブサイトでの公開は令和3年4月)。また、北海道博物館がはじめた「おうちミュージアム」に参加したのもこの時期である。これはミュージアムが持っているリソースを、おうちで楽しく学べるコンテンツとして学校に行けない子どもたちやその保護者のもとに届けるもので、当館では本市の歴史や天覧山・多峯主山の自然に関わるものを塗り絵に仕立てて提供した。最初のコンテンツをアップしたのは5月15日で、以後順次増やしていき、最終的には8つの「ぬりえコレクション」とクモの巣(点つなぎ)パズル、変体がなクロスワードの10点となった。

ただ、もっと深刻にとらえるべきことは別にある。それは施設の利用制限による学習サークルへの影響である。館報でもここ数年、学習サークルによる当館学習研修室の利用件数が漸減傾向にあることを指摘してきたが、コロナはこの課題を一気に顕在化させた。活動の場である同室の利用が15人までに制限されたことで、それ以上の出席が見込まれる団体の利用ができなくなってしまったのである。新型コロナの場合、高齢者の方が重症化しやすいという傾向が指摘されているため、会合自体を開くことができず、合わせて機動力も弱いことが再開の時期を遅らせることにつながった。こうした団体は単に当館の施設利用団体というだけでなく、展示や教育活動の主たる参加者層でもあるため、今後の運営を考えるとその影響は甚大といえる。活動の再開や継続に対し積極的に支援していくとともに、新しい自主的な学習活動のあり方を模索していく必要がある。

## 令和2年度新型コロナウイルス感染症拡大防止のため変更された事業

### 展示

#### 【全般】

- ・展示解説の中止
- ・ハンズオン展示の撤去

#### 【個別事業】

展示名	影響	実施予定日・変更の内容など	備考
収蔵品展「手紙が語る戦争」	会期短縮	終了:5/10(日)→4/8(水)	臨時休館による
自然写真展「天覧山・多峯主山の鳥たち」	会期短縮	開始:5/17(日)→6/2(火)	臨時休館による
駿河台大学野村ゼミナール実習展示「木、嬉々として」	会期変更	会期:6/7(日)～6/21(日)→7/26(日)～8/9(日)	
飯能市平和都市宣言記念「ヒロシマ・ナガサキ原爆資料展」	延期	令和3年度に延期	東京2020の延期による代替として埋蔵文化財出土品展を実施

### 教育活動

#### 【全般】

- ・定員数の縮減
- ・学習研修会の利用可能人数の制限による会場変更  
…特別展関連講座、市民学芸員(博学連携)定例会など

#### 【個別事業】

学習会名	影響	実施予定日・変更の内容など	備考
自然観察会「身近な自然を見る！春のミニ植物観察会」	中止	予定日:4月14日(火)	
第531回日曜地学ハイキング「名栗の自然と地質、人々の暮らし」	中止	予定日:4月19日(日)	地学団体研究会埼玉支部と共催
小学3年生見学対応展示「むかしの暮らし～民家の台所再現～」関連事業「火のし・炭火アイロン／石臼体験」	中止	予定日:2月7日(日)	
現地見学会「戦国の中山と「天神様のお祭り」を訪ねて	中止	予定日:3月28日(日)	
市民学芸員全体研修会	中止	予定日:6月／3月	6月は館外研修会、3月は活動報告会など

### その他の教育活動

#### 【個別事業】

事業名	影響	実施予定日・変更の内容など	備考
中学生社会体験チャレンジ(職場体験)の受け入れ	中止	実施時期:12月	市内4校
小学3年生社会科「市の人々の暮らしのうづりかわり」学習	変更	小規模校のみ見学受け入れ、それ以外は出張授業	1校不参加

令和2年度 飯能市立博物館の重点施策とその評価（ミッション対応）

教育振興基本計画の項目	事業名	目標	目指す達成点・到達点	達成指標と目標値	達成結果とその成果	達成率	分野	博物館ミッション(項目)	価値		
(4)	① 地域の情報センター機能の充実	古文書、民具、自然写真などの収蔵資料の整理を推進し、市民に提供できる情報の充実を図る。	古文書、写真資料については、資料カード作成と台帳登録を行う。また、一般収蔵庫に収蔵されている民具については、棚の清掃と資料の確認及びデジタルカメラでの撮影を行う。自然の写真については、『天覧山・多摩主山の植物』に掲載した写真を中心に収蔵資料管理システムにアップする。	収蔵資料の整理をすすめ、古文書200点以上、古写真40点以上。また、一般収蔵庫に収蔵されている民具については、棚の清掃と資料の確認及びデジタルカメラでの撮影を行う。自然の写真については、『天覧山・多摩主山の植物』に掲載した写真を中心に収蔵資料管理システムにアップする。	古文書は、当年度に寄贈を受けた平沼俊孝文書など13の史料計195点を、また写真資料は平成30年度にまちづくり推進員より寄贈された写真など333点のカードを作成し台帳登録した。また民具は資料の確認をしながらデジタルカメラでの撮影を行い、939点の整理を行った。いずれも目標を達成することができた。また自然写真は84点を収蔵資料管理システムにアップしたが、目標には達しなかった。なお収蔵資料の整理については、第2期教育振興基本計画の5年間で着実に進められたことで、収蔵資料の価値をより高めることができた。	95%	B	整理	3	学術	常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館をめざします。
		新学習指導要領の内容に対応した小学3年生の見学プログラムを市民芸芸員とともに開発し、質の高い学習活動を支援する。	前年度に開発したプログラム「町のうつりかわり」を検証、評価し、教育センター指導主事や学校の先生方との意見もかかっているが、市民芸芸員とともにさらに磨き上げ、充実させる。	小学3年生見学対応マニュアルを改訂しそれに合わせて学習ノートの内容も変更する。それに基づき3学期に小学3年生の見学を受け入れ、それを評価したうえでプログラムとして完成させる。	小学3年生見学対応用のプログラム「町のうつりかわり」については、市民芸芸員(博学連携)の中に検討部会を設置し、教育センター指導主事の支援を得てタブレットを使って内容をさらに充実させた。それによって内容をさらに充実させることができた。結果として新型コロナウイルス感染症拡大のため来館したの2校にとどまったが、9校で出張授業を行い、併せて11校で実施した。	100%	A	教育	4	社会	学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館をめざします。
(5)	① 地域情報の積極的な発信と地域の活性化支援	東高野地区に建てる施設館の調査研究によって地域の新たな魅力を掘り起こし、それを個性豊かな個性館として発信し、個性館で活力のある地域づくり、人づくりに取り組んでいきます。	優秀にある著名個人形芝居及び脱線館関連資料が飯能市有形民俗文化財に指定されたことを記念し、本市域における脱線館の受容と展開の検討を掘り起こし、地域の歴史や文化の魅力を明らかにする。また市民会館と協働し20年ぶりの八王子重人形の公演を実現する。	・特別展の1日平均入館者数が120人以上であること。 ・入館者のアンケートによる満足度80%以上であること。 ・八王子重人形の公演を実施し、定員の7割以上の人が来場すること。	・特別展の1日平均入館者数が131.3人でありアンケートで「満足」と回答した入館者の割合は90.5%であった。 ・八王子重人形の公演は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため定員は338席で実施し、チケットは完売した。当日は92.6%にあたる313人の来場があった。 ・コロナ禍における入館者数としては驚異的であり、感染拡大防止策を取りながら開催したことは、展示会と釣りあがる館が多い中で社会教育機関としての存在意義を示すことができ、期待を上回る成果といえる。	105%	S	展示	1	個人	飯能の新たな魅力に出席する博物館をめざします。
		飯能河原・天覧山周辺の自然の魅力を多くの人に知ってもらうため、関係団体と連携しながら、博物館を拠点とした観覧会等を実施します。	・博物館を拠点として、飯能河原・天覧山周辺の自然の魅力を理解するための企画運営する。 ・関係する専門家や市民の意見を聞きながら、博物館の協力を得ながらすすめる。	・自然観覧会は、①「さとやまの小さな生き物観覧会」(8月)、②「冬の森へ出かけよう」(12月)、③「初めての「おさんぽさーどウォッチング」」(3月)の3回実施した。参加者数は、3月の観覧会のみが定員に達しなかった。 ・アンケートによる参加者の満足度は、いずれも80%を超え目標を達成することができた。	・自然観覧会は、①「さとやまの小さな生き物観覧会」(8月)、②「冬の森へ出かけよう」(12月)、③「初めての「おさんぽさーどウォッチング」」(3月)の3回実施した。参加者数は、3月の観覧会のみが定員に達しなかった。 ・アンケートによる参加者の満足度は、いずれも80%を超え目標を達成することができた。	90%	B	教育	6	社会	飯能河原・天覧山周辺の自然の魅力を発信し、観覧会等を実施します。



I 飯能の新たな魅力に会える博物館

V 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館

博物館事業の中心は展示であり、展示を通して地域の新たな魅力を発見し、人々の知的好奇心に応えることが求められている。

## 特別展 山里に咲いた芸

— 説経師・薩摩千代太夫と幻の『片瀬人形』 —

期 間	令和2年10月18日（日）～12月13日（日）				
開館日数	48日				
入館者数	6,302人（1日平均131.3人）				
展示点数	114点				
経 費	1,720,729円（入館者1人当たり 273.0円）				
（内 訳）	印刷費 618,035円	展示委託料 290,000円	通信運搬費 460,043円		
	消耗品費 84,803円	報 償 費 68,000円	非常勤報酬 154,546円		
	手 数 料 19,000円	会場借上費 5,700円	旅 費 5,536円		
	駐車場整理委託料 15,066円				

### 1 趣旨

本展は、「落合家人形芝居用具及び説経節関係資料」の市有形民俗文化財への指定を記念して開催されたものである。

本展の主題である説経節とは、仏の教えを説く説経に節をつけたものを始まりとする芸能である。江戸時代に三味線伴奏や人形芝居を加え人気が高まるが、他の芸能に押されるなどして衰退・再興を繰り返しながら各地に広まっていった。初代若松若太夫の登場により、明治から大正にかけてその人気は頂点に達したが、時局の悪化や娯楽の多様化により衰退し、今日ではほとんど接する機会のない芸能となっている。

本市大字虎秀に所在する落合登美子家は、説経節の太夫（説経師）及び人形芝居の座元の家であった。現当主である登美子氏の曾祖父・祖父に当たる落合亀次郎・濱次郎父子は「薩摩千代太夫」を名乗り、幕末から昭和にかけて活躍した。特に濱次郎は名人として名高く、薩摩派説経節の重鎮として初代若松若太夫も一目置く人物であった。

落合家の説経節は、濱次郎の逝去により途絶えたが、台本類や「片瀬人形」と呼ばれる人形芝居の人形など数多くの資料が、同家に伝えられてきた。ただ、上演形態など詳細が不明なことから「幻」とも呼ばれた「片瀬人形」をはじめ、同家資料群の全貌は長らく不詳であった。そこで、平成28年ごろ

から、本市生涯学習課を中心に同資料群の調査が進められ、その結果として、令和2年3月に「落合家人形芝居用具及び説経節関係資料」として本市の有形民俗文化財に指定された。

本展は、この膨大な資料群の全貌を紹介するとともに、絶大な人気を博しつつも今日ではほとんど見ることが無くなってしまった芸能・説経節に光を当て、かつて当地で花開いた芸能や文化について紹介することを企図して開催した。

### 2 展示構成と内容

本展の展示構成を構想する際に苦心したのが、今の人にとってほとんど馴染みのない説経節という「語りの芸」をどれだけ分かりやすく伝えることができるか、ということであった。

そのため、説経節の基礎知識に関する導入部の展示に比較的広めのスペースを割り、徐々に落合



展示風景

家の資料群へ誘って行く構成を企図して設計した。決して十分とはいえないが、ポイントは抑えることができたのではないと思う。

各章の内容は、以下のとおりである。

#### 第Ⅰ章 説経節を知っていますか

展示の導入部として、中世以来の歴史を持ち一世を風靡した芸でありながら今日ではほとんど触れる機会のない説経節について、その歴史や内容など基礎的な事項を展示した。特に、説経節の2大流派である薩摩派・若松派を中心に、薩摩派の系譜や一世を風靡した初代若松若太夫について紹介した。また、飯能出身の西川古柳により創始された八王子車人形についても説経節ゆかりの芸能として触れた。

#### 第Ⅱ章 説経師・薩摩千代太夫

説経節関係資料を伝承してきた落合家、中でも「薩摩千代太夫」の芸名で活躍した落合亀次郎・濱次郎父子について展示した。特に、濱次郎は初代・若松若太夫も一目置いた名人であることから、活発な公演活動の様子や芸を通じて培われた豊かな交友関係についても触れ、当地に一流の芸人がいたことを示した。

#### 第Ⅲ章 幻の「片瀬人形」

～落合家人形芝居及び説経節関連資料の世界～

今回指定となった資料群について、代表的な資料を展示した。コーナー内には人形芝居の舞台を再現し、往時の理解を促す一助とした。なお、昭和31年に落合家より早稲田大学坪内博士記念演劇博物館に寄贈された人形を借用し、約60年ぶりとなる里帰り展示を行った。落合家当主の登美子氏と人形の久方ぶりの再会が実現したのは、本展の白眉とも言うべきエピソードであった。

#### 第Ⅳ章 その後の「片瀬人形」と説経節

今日ではほぼ目にする機会のない説経節であるが、それを基にした演劇や文芸作品は見受けられる。また、三代目若松若太夫師などにより現在も公演・伝承活動が各地で続けられている。本章では、一流の芸能研究者たちによって実施された昭和31年の復活上演など、薩摩千代太夫没後の落合家の資料保存の動きや現代における説経師の活動などを紹介し、芸能の伝承と未来について考える契機とした。

#### 《視聴コーナー》

説経節についてより理解するために、三代目若松若太夫師の活動風景を記録した映像(遠藤協氏

作)を上映した。

### 3 印刷物

ポスター(B2判カラー)	300枚
チラシ(A4判カラー)	7,000枚
はがき(官製はがきサイズ・カラー)	1,000枚
図録(A4判カラー・56ページ)	800部

※チラシとポスターは市民会館と共同で印刷。

### 4 関連事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特別展では毎年恒例となっていた現地見学会とギャラリートークは、実施しなかった。また、同様な理由により、団体見学も受けず、また個別の見学者に対する展示解説もお断りした。

一方、以下の事業については、広い会場の使用や定員を減らしてソーシャルディスタンスを確保するなどのコロナ対策を行った上で実施した。

#### ◎関連講座

- ①「説経節若松派と飯能」 ※説経節の実演あり  
日時 11月1日(日) 午後2時～4時  
講師 三代目若松若太夫(小峰孝男)師(説経節若松派家元)  
会場 市民会館会議室 202  
参加者 32名
- ②「説経節考 一親の物語から子の物語へ」  
日時 11月15日(日) 午後2時～4時  
講師 上田 薫 氏(日本大学芸術学部教授)  
会場 市民会館会議室202  
参加者 25名

#### ◎公演会「山里に咲いた芸 一説経節と八王子車人形」

※市民会館主催事業

- 日時 12月6日(日) 午後1時～3時30分  
会場 市民会館大ホール  
出演 三代目若松若太夫師、説経節の会、八王子車人形西川古柳座



入館状況



関連講座①「説経師若松派と飯能」

入場料 1,000円 (全席指定)

当日見学者 313名(チケットは完売)

当公演は、市民会館の主催であり、当館は「企画・製作」として関わった。費用分担の都合により共催とはならなかったが、実際には両館の共同事業であり、日ごろの連携の成果が反映された事業と言えよう。

## 5 評価

文化財指定された虎秀・落合家に所在する資料は、「片瀬人形」と呼ばれる人形芝居用具と説経師関連資料群からなる。実は、構想段階においては、前者の人形芝居用具を主にしようと考えていた。「語り」という目に見えない芸を主に展示するよりも、人形という圧倒的インパクトを有する資料を軸に展示した方が見栄えも良く、多くの人にとって分かりやすい展示となると考えたからである。また、人形芝居は研究の蓄積が厚いのに対して、説経師、特に地方の説経師の研究はあまり進んでいないこともあった。

しかし、落合家の資料整理を進めていくと、従来、言われていたほどには人形芝居の座元としての活動が盛んであった形跡が無く、それ以上に説経師としての活動の活発さと資料の充実ぶりを感じざるをえなかった。そのため本展では、人形芝居ではなく、説経師という「語りの芸」を軸に展示を組み立てることにしたのである。

ただ、説経師という今日では極めてマイナーな芸能を軸に据えることには、ためらいもあった。「語り」という目に見えない事柄を展示で表現することは、意外と難しい。しかも今でも容易に見ることができる落語・講談ならいざ知らず、説経師というほとんどの人が接したことの無いマイナーな芸能を主題とするのであるから、基礎的な事柄から丁寧に説き始める必要があると思われた。

そこで本展では、落合家の説経師に留まらず、説経師の歴史や物語世界などの基礎知識について導入部でしっかりと押さえ、より多くの人に少しでも興味を持ってもらえるように設計した。そのため多少まわりくどい感じは否めない構成となってしまった。

かつての特別展に比して本展が特異であったのは、コロナ禍での開催であったことであろう。関連事業に大いに制約が生じたのはもちろん、展示においても見学者の密・滞留の回避、通気などを意識せざるを得ず、当初の展示設計の修正も迫られた。

例えば、特別展示室では、FKeパネルを極力少なくして通気を良くするとともに、展示ホールでもFKeパネルを立てず人と空気の流れを極力妨げないようにした。また、当初は再現舞台を展示ホールに設置した上で、その前に客席を並べ、説経師の映像を流したり説経師ライブを行ったりするプランであったが、特別展示室内で完結するように配置し、客席も設置しなかった。そのために空いてしまった空間を補うべく、大きなバナーを作成して吊るすこととした。苦し紛れの案ではあったが、想像以上に映え、会場を華やかにする効果が顕著であったのは怪我の功名であった。

解説パネルについても、滞留を生じさせず輕易に読めるようサイズをB2からA1にし、フォントも大きくした。そのため文字数を抑え解説内容も可能な限り簡潔にしたのだが、見学者の理解にとって十分であったかは疑問が残る。ただ、例年のアンケートでは、文字が小さいとの意見が寄せられるのが常であったが、今回はほとんど見られなかった。パネル及び文字サイズの拡大と字数減に伴う内容の簡素化との両立は、今後も最適解を見出すために試行錯誤を繰り返さざるを得ない課題と言えよう。

本展は、芸能をテーマとしていることから、展示での紹介に加えて、実際にそれに触れることも不可欠であると考えた。そこでアプリ「ポケット学芸員」を活用し、初代若松若太夫らの説経師を聴くことができるようにした。当初は、会場内で流すことも検討したが、見学者の滞留が生じる恐れがあるのでアプリでの配信に留めた。

また、早い段階から関連講座及び公演会の開催に向けて準備を進めた。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の勢いは止まることを知らず、



展示風景

実施を危ぶまれる場面も多々あった。それでも可能な限り実施できるよう対策を講じ、準備を進めた。例えば、ソーシャルディスタンスを確保するため、会場の変更(講座は学習研修室から市民会館会議室へ、公演会は市民会館小ホールから大ホールに変更)を行うなどなどの工夫をした。その甲斐もあり、無事に開催することができたばかりでなく、ほぼ満席となったのは素直に嬉しいことであった。公演は、展示だけではイメージしにくい芸能の世界を理解する一助となったとともに、説経節という芸の普及に関しても貢献したものである。

落合家の資料については、文化財指定という目標もあったことから、約3年もの時間をかけてじっくりと整理・調査を進めることができた。その間、故・小野寺節子氏(飯能市文化財保護審議委員会委員)や小峰孝男氏(説経節若松派家元)らの助力を得られたこともあり、当初の想定以上に成果を得ることができたと言えよう。

地域に埋もれた文化資源を発掘し、十分な調査・研究を経たうえでその成果を展示し、広く教育普及を図ると言う、ある意味、理想的なサイクルを経て本展は実施することができた。一方で、資料数が膨大であることや五月雨式に落合家から新資料が発見され資料群の全貌が未だにつかめていない状況にあること、当地における説経節に関する先行研究がほとんど行われていないこと等もあり、展示内容には掘り下げ不足の感も否めず、更なる調査の深化に取り組む必要を感じた。多摩地域や埼玉県北部、秩父地域の説経節については、それぞれ調査・研究が行われているが、飯能などの埼玉県西部地域における説経節については、ほとんど研究成果がない。落合家の資料を入口に説経節という新たな視点から当地域の文化に関する

研究を行い、新たな地域像を提示することができるよう、研究を更に進めていく必要性を痛感させられた。

本展は、コロナ禍と言う未曾有の事態に直面しながら、試行錯誤の末に開催した特別展である。準備を進めつつも、本当に開催して良いのかという迷いが常にあったのも事実である。

「不要不急」という言葉が盛んに喧伝され、一時は、博物館をはじめ劇場や寄席などの文化施設が閉鎖された。多くの文化・芸術活動が休止せざるを得なくなったのだが、それでも人々の文化・芸術活動を止めることはできなかった。「ステイホーム」で家から出られなくとも、多くのアーティストたちは、ネットに舞台を移して発信を続け、人々を慰め、励まし続けた。文化・芸術は、決して「不要不急」ではないのだ。

本展でも、急遽、図録や展示パネルに「文化・芸術の持つ力」について訴える項目を追加した。来館者数は、コロナ禍にあっては高い数値とはいえ、関連事業は満員御礼であった。公演は不入りも覚悟していたが、チケットは早くに完売し、その後も問い合わせがひっきりなしの状況であった。本展は少なくとも、「不急」はともかく「不要」でなかったのは確かである。そして、そのことは社会教育施設であり文化施設である博物館も、同じではないだろうか。

奇しくも本展で取り上げた落合家当主である薩摩千代太夫親子も、時代の荒波に翻弄されながら、芸と共に生き地域に文化の花を咲かせた人物である。コロナ禍という災厄下において、私たちは多くのことを学び、再認識させられている。その中には、文化・芸術の持つ意味や力についても含まれていよう。

本展は、図らずも博物館そして文化・芸術の持つ力や意味について、改めて考える契機となった点においても、特筆すべき展示であったと総括するものである。



公演会「山里に咲いた芸」(市民会館主催)

## ◆展示資料目録

No.	章	名 称	指定	所蔵者・提供者(敬称略)	備考(敬称略)
1		『人倫訓蒙図彙』		埼玉県立歴史と民俗の博物館	
2		台本『ひらかな七行 説経浄瑠璃 三庄太夫一代記』	◎	落合登美子	
3		台本『ひらかな七行 説経浄瑠璃 高野山墨染桜』	◎	落合登美子	
4		門弟連名控		八王子市郷土資料館	
5		門弟連名控		八王子市郷土資料館	
6		初代薩摩若太夫像		八王子市郷土資料館	
7		写真「五代目薩摩若太夫墓前での記念写真」	◎	落合登美子	写真パネル
8		レコード「石童丸」		当館	寄贈: 桑原幸雄
9		番組「若松会第七回若松会大演芸会」	◎	落合登美子	
10	I	番組「皇太子殿下御降誕記念若松会大演奏会」	◎	落合登美子	
11		番組「若松崎太夫襲名披露大演奏会」	◎	落合登美子	
12		番組「新年若松会大演芸会」		落合登美子	
13		番組「薩摩・若松合同大演芸会」		落合登美子	
14		番組「若松会慰問袋献納会」		落合登美子	
15		『説経浄瑠璃若松若太夫語本』	◎	落合登美子	
16		チラシ「朝日稲荷大善神祭典余興」		落合登美子	招待券付き
17		『若松若太夫芸談』		落合登美子	
18		初代若松若太夫書「明治天皇御製いとたけの」		落合登美子	軸装
19		当村会規則		当館	東吾野村役場文書No.431-5
20		写真「落合亀次郎」		落合登美子	写真パネル
21		鍛冶職看板		落合登美子	
22		(虎秀村村会議員当選に付報告)		落合登美子	
23		「うめみくさ」乾		落合登美子	
24		「うめみくさ」坤		落合登美子	
25		台本『一ノ谷装束立段』	◎	落合登美子	
26		写真「落合濱次郎」		落合登美子	写真パネル
27	II	企業許可令第七條ニ依ル事業報告書		落合登美子	
28		石材通		落合登美子	
29		遊芸稼人鑑札	◎	落合登美子	大正9年度分
30		遊芸稼人鑑札	◎	落合登美子	大正10年度分
31		台本『説経浄瑠璃 海尊常陸落』	◎	落合登美子	
32		熊野大神例祭諸懸勘定帳		落合登美子	明治29年
33		初代若松若太夫書状	◎	落合登美子	昭和9年5月7日付
34		初代若松若太夫書状	◎	落合登美子	昭和9年10月8日付
35		弁天講日待薩摩連姓名記		落合登美子	明治21年
36		結城孫三郎墨絵		落合登美子	芳名帳の1頁
37		幕「贈薩摩千代太夫丈」	◎	落合登美子	川越・鶴川座
38		見台		落合登美子	内部収納物一式あり
39		三味線	◎	落合登美子	
40		肩衣	◎	落合登美子	2点
41		義太夫本『神霊矢口渡 四之切』	◎	落合登美子	
42	III	台本『貳上浄瑠璃 一ノ谷嫩軍記 太刀打の段』	◎	落合登美子	
43		台本『説経浄瑠璃 一ノ谷嫩軍記 鷲の尾出世』	◎	落合登美子	
44		台本『せつきやう 照手姫大津別の段』	◎	落合登美子	
45		台本『説経浄瑠璃 法道丸母対面』	◎	落合登美子	
46		台本『説経浄瑠璃 石童丸』	◎	落合登美子	
47		台本『古典説経 武蔵野鉄道開設由来』	◎	落合登美子	
48		台本『吾野観音霊験記 岡部六弥太霊夢の段』	◎	落合登美子	

No.	章	名称	指定	所蔵者・提供者(敬称略)	備考(敬称略)
49		台本『飯能の嵐 渋沢平九郎自刃の段』	◎	落合登美子	
50		写真『『片瀬人形』の抜魂式』		当館	
51		人形「男」	◎	落合登美子	三番叟
52		人形「男」	◎	落合登美子	老爺
53		人形「男」	◎	落合登美子	
54		人形「男」	◎	落合登美子	男武者
55		人形「男」	◎	落合登美子	
56		人形「男」	◎	落合登美子	男武者
57		人形「男」	◎	落合登美子	
58		人形「男」	◎	落合登美子	坊主
59		人形「女」	◎	落合登美子	老婆
60		人形「女」	◎	落合登美子	
61		人形「女」	◎	落合登美子	
62		人形「女兒」	◎	落合登美子	
63		人形「男児」	◎	落合登美子	
64		人形頭「男」	◎	落合登美子	
65		人形頭「男」	◎	落合登美子	
66		人形頭「女」	◎	落合登美子	
67		人形頭「男」	◎	落合登美子	
68		人形頭「男」	◎	落合登美子	
69		人形頭「男」	◎	落合登美子	
70		人形頭「男」	◎	落合登美子	
71		人形頭「女」	◎	落合登美子	
72	III	祈祷札	◎	落合登美子	
73		人形「娘」		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	落合家寄贈
74		人形頭「若男」		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	落合家寄贈
75		人形衣装「長着」	◎	落合登美子	
76		人形衣装「羽織」	◎	落合登美子	
77		人形衣装「裃」	◎	落合登美子	
78		人形衣装「鎧」	◎	落合登美子	
79		幕「龍・二代目薩摩千代太夫丈江」	◎	落合登美子	
80		人形の手(未完成)	◎	落合登美子	
81		小道具「たんす」	◎	落合登美子	
82		小道具「笠」	◎	落合登美子	
83		小道具「高札」	◎	落合登美子	
84		小道具「桶」	◎	落合登美子	
85		小道具「煙草盆」	◎	落合登美子	
86		小道具「枕」	◎	落合登美子	
87		小道具「幣束」		落合登美子	
88		小道具「ひょうたん」		落合登美子	
89		小道具「箏」	◎	落合登美子	
90		小道具「櫛」	◎	落合登美子	
91		舞台装置「釜」	◎	落合登美子	
92		舞台装置「障子」	◎	落合登美子	
93		舞台装置「襖」	◎	落合登美子	
94		幕「落合家家紋」	◎	落合登美子	再現舞台に使用
95		舞台装置「襖」	◎	落合登美子	再現舞台に使用
96		写真「おぶすま福祉会飯能事業所による再現舞台制作風景」		当館	
97	IV	写真「片瀬人形復活公演(上演風景)」		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	写真パネル

No.	章	名 称	指定	所蔵者・提供者(敬称略)	備考(敬称略)
98		写真「片瀬人形復活公演(客席風景)」		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	写真パネル
99		写真「片瀬人形復活公演(庭の風景)」		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	写真パネル
100		(薩摩千代太夫供養公演片瀬人形実演案内状)	◎	落合登美子	はがき
101		暮雪帖		落合登美子	復活上演の芳名帳
102		(八王子近郊民俗芸能観賞会案内)	◎	落合登美子	東京国立文化財研究所
103		(友の会見学会依頼状)		落合登美子	東京国立博物館
104		人形首展開催に当り御出品依頼について	◎	落合登美子	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
105	IV	謝状	◎	落合登美子	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
106		『飯能なんでも大全集』		当館	
107		絵はがき「片瀬人形 説経浄瑠璃の世界」		落合登美子	東吾野公民館創立60周年記念品
108		写真「文化財指定書の交付」		飯能市教育委員会生涯学習課	
109		写真「説経節の会」		説経節の会	写真パネル
110		写真「二代目若松若太夫」		三代目若松若太夫	写真パネル
111		お守り入れ		三代目若松若太夫	二代目若松若太夫使用
112		撥		三代目若松若太夫	初代・二代目若松若太夫使用
113		二代目若松若太夫色紙		三代目若松若太夫	
114		写真「三代目若松若太夫」		三代目若松若太夫	写真パネル
115		映像「説経浄瑠璃 三代目・若松若太夫 一声二節のわざ」		三代目若松若太夫	撮影・構成・編集(著作):遠藤協
116		音声「説経節 義経主従奥州落 勸進帳の段」		当館	語り:薩摩千賀太夫(昭和31年録音)
117		音声「説経節 小栗判官」		当館	語り:初代若松若太夫(昭和5年録音)

※「指定」欄に◎印のある資料は、飯能市指定有形民俗文化財「落合家人形芝居及び説経節関連資料」の構成資料

## 来館者の声

- かつて板橋で二代目若松若太夫の公演を聞き、説経節に興味を持っていたので、今回、飯能にも説経節の太夫がいたとの話に興味を持ちました。『聴く』と言う芸能を伝えていかなければなくなってしまうことは残念です。(60代)
- 人形たちの迫力に驚きました。(70代)
- 説経節について知ることができて面白かった。今度実際に聞いてみたいと思った。(30代)
- 図録も大変分かりやすく良かった。(50代)
- 古のエンターテイメントに触れることができました。山奥に住んでいても生き生きと楽しむ時間をもって暮らしていたと思うと感慨深いです。(60代)
- 抜魂式の写真が印象に残りました。人形を見るのは苦手ですがこの写真を見て少し楽に見ることができました。(60代)
- 地元こんな立派なものが残されていたとは…。宝として保存してほしいと思う。(70代)
- 飯能に貴重な芸能があったことが驚きでした。(80代)
- 貴重な資料(人形や幕など)を見ることができてとても良かったです。西川古柳座の舞台を見たことがあるので親しみがわきました。(50代)
- 濃い内容だったと思います。面白かったです。(10代)
- こういう伝承文化に着目し、研究などを公の機関でやることは意義深い。各地の農村芸能などとのつながりも研究してほしい。(60代)
- とても一つひとつの展示が丁寧で見やすかったです。また機会があったら来館したいと思います。(中学生)
- 本格的な企画に敬意を表します。飯能の宝物を見る思いです。(70代)
- こういったものがあることを知らなかったので知る良い機会でした。(50代)
- 説経節と飯能とのつながりについて全く知りませんでした。この企画展のお陰で以前より一層説経節に興味を持ちました。飯能の奥深い所でこの芸能が栄えていたことも非常に興味深く思います。(70代)

# 収蔵品展 手紙が語る戦争

— 兵士の思い —

期 間 令和2年3月22日(日)～4月8日(水)  
開館日数 10日間  
入館者数 1,003人(1日平均100.3人)  
展示点数 100点

## 1 趣旨

本展は戦後75年および飯能市平和都市宣言1周年を記念して開催したものである。戦争と平和について改めて考えるとともに、本市の平和都市宣言をより定着させることを目的とした。具体的には、日露戦争から太平洋戦争にかけての手紙や郵便関係資料、特に軍事郵便を通して、当時の世相や兵士たちが目の当たりにした悲惨な戦闘の様子、そして彼らが故郷や家族たちに抱いた思いなどを伝えることを目指した。

なお期間中は、令和元年度に寄贈された資料の一部を紹介する「令和元年度 新収蔵品展」を展示ホールにて同時開催した。

## 2 展示の構成

「手紙の中に見る戦争」を大きなテーマとし、その中に「戦地からの手紙」「ある兵士の記録」「故郷を思う」「絵葉書と戦争」の4テーマ(展示コーナー)を設定した。各コーナーは独立させ、展示全体を貫くストーリーは設けなかった。これはいわゆる三密を防ぐためのもので、見学者がどこでも空いているコーナーから好きな順番で見られるようにしたものである。

## 3 印刷物

ポスター (B2判カラー) 300部  
※新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりチラシは作成せず

## 4 評価・反省

展示に際しては、出来得限りの新型コロナウイルス感染症対策を講じた。前述した展示構成のほか、展示室の通気性を高めるためパネルなどで空間を区切らないようにした。また、ケース同士の距離をなるべく広く取り、距離が取れない部分については見学者が背中合わせになるように配置した。

しかし、感染の拡大に伴い3月および4月第1

週の土・日曜日、そして非常事態宣言が発出された4月9日(木)以降の休館が決まったため、期間中開館できたのはわずか10日間であった。

以上のような状況の中で終了した本展ではあるが、ほんの短い期間の中でもアンケートには平和を願うメッセージがいくつも見られ、「戦争と平和について考える」という展示の目的はある程度果たせたと言える。

一方で、「手紙の文字が見にくい(小さい)」といった指摘や、キャプションの内容に対する指摘もあり、今後この点については検討及び改善が必要である。また、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を途中で断念せざるを得なかったことも悔やまれる点である。

もう一度同様の展示を開催することは難しいと思うが、本展を契機として今後も様々な形で軍事郵便を通して戦争の記録を伝承し、平和について考えていく試みは続けていきたい。



ポスター

## 参加者の声

- 子供の頃、目にしたものに6、70年振りに目にし、驚いた。若い叔父が戦死し、祖母が大切に保管していたものも。(中略)次の世代に語り継がれることが本当に今大切だと思った。(70代)
- 新型コロナウイルス騒動のなか開館してくれてうれしかったです。とはいえ、軽い気持ちで観てはいけないうらい内容の濃いものでした。いろいろ考える貴重な時間となりました。(50代)
- 拡大レンズなどで手紙を読める大きさにしたほうがよいと思います。(60代)
- 「軍国主義に染まった世相の恐ろしさ…」という文言があるが、写真資料に何が書かれているかよく見えないので、なぜその様な断定的なことが言えるのか不明である。単に印象操作をねらった展示なのではないか。(60代)

# 自然写真展 天覧山・多峯主山の鳥たち

期 間 令和2年6月2日(火)～6月28日(日)  
開館日数 24日間  
入館者数 1,968人(1日平均82.0人)  
展示点数 35点

## 1 趣旨

景観緑地自然環境調査報告書(令和2年3月、飯能市)によると、天覧山・多峯主山では、現地及び聞き取り調査で鳥類51種が確認されている。しかし、実際にその姿を間近で見ることがなかなかできない。そこで天覧山・多峯主山に生息する鳥類を写真で紹介し、鳥類への愛着を育み、里山の自然を楽しんでもらうことを目指した。なお、当館はリニューアルするまでは自然のビジターセンター的機能を有していなかったことから、自然分野にはあまり馴染みがない入館者が多いと考え、初心者の方に親んでもらうように意識した。

## 2 展示の構成

鳥類は、季節によって繁殖行動をしたり、集団で移動したりと行動に変化がある。そこで、まず「鳥の1年」として、留鳥のヤマガラを取り上げ、四季の様子や専門用語(繁殖期など)を説明した。次に、「子育ての季節」とし、子育ての様子と夏鳥を紹介した。続いて、天覧山山頂で見られるタカの渡りについて解説した後、「厳しい冬」として、越冬期における行動様式(単独行動・混群・1種による複数行動)の写真を展示した。最後に、フィールドマナーへの協力をお願いした。

来館者が展示を見終わった後にフィールドで鳥を探せるように、新しい取り組みを3つ実施した。イラストマップ「冬の鳥たちに会いに行こう!」の展示とアオバズクやエナガなどの塗り絵(「おうちできっとす」のコンテンツ)配布、及びポケット学芸員を使った鳥のさえずり試聴コンテンツの提供である。

## 3 印刷物

ポスター (B2班カラー) 12枚  
チラシ (A4判モノクロ) 250枚

## 4 反省と評価

本展は、新しい取り組みに挑戦したためか、来館者の反応は好評であった。アンケート結果によると、フィールドに行きたい気持ちになったという方が77%で、少なからず鳥類への愛着を育み、里山の自然を楽しんでもらえるような展示となったと考えられる。ただし本展示はこれまで鳥にあまり関心がなかった人をターゲットにしたのだが、実際は鳥に興味があるという方が約60%を占めていた。次回は、対象とする層の関心に応えられるような企画を考案していきたい。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発出により当館は6月1日(月)まで休館していた。そのため、本展の開始は当初の5月17日(日)から6月2日(火)に変更となっている。



入館状況

## 参加者の声

- 鳥に特化した企画を待ちかねてました！本当にありがとうございました。自粛中にもかかわらず、展示への準備ありがとうございました!! (40代)
- 良い展示のしかたで判り易かった。 (80代以上)
- ふだんから近所の鳥の様子を楽しんでいますが、写真で細かいこともわかり、楽しかったです。 (50代)
- 河合さんのお写真とても良かったです。谷津田の鳥の解説も力作ですね。今後、羽毛、巣なども展示できると良いですね。ヤマガラの文化的な解説(おみくじ)などもあれば良いですね。 (70代)
- すばらしい企画、続けてほしい。 (70代)
- 河原の近くに住んでいるので、何種類もの野鳥を見かけます。写真展を見て、自分が思っていたより3倍くらいの種類の鳥が身近にいるのが分かりました。 (60代)
- ポケット学芸員で鳴き声がきけてとてもよかったです。(市内・60代) 同意見他1名(30代)

駿河台大学野村ゼミ実習展示

# 木、嬉々として

— 食べて、着て、一緒に暮らす —

日時 令和2年7月26日(日)～8月9日(日)  
開館日数 13日間  
入館者数 1,173人(1日平均90.2人)  
展示点数 48点

## 1 趣旨

現在飯能市の林業は、国産材の低迷による林業経営の不振、後継者不足、森林の育成不足による荒廃といった様々な問題が危惧されている。それに対し飯能市では、西川材補助制度や飯能市森林認証協議会の設立などの対策を行っているが、顕著な林業の振興には結びついていない。そこで、木から作られた糸や服、ウッドパウダーなどの木の新しい活用方法を提案することで、西川材に新たな価値を付与し、需要を高め、供給源である林業及び飯能市の経済発展へと繋げたい。また、材木の建築材としての視点から一度脱却し、「木を木材として扱わない」視点も提案することで、需要と創造の連鎖が起きることを願った。

## 2 展示の構成

### (1) はじめに

展示趣旨を示した。

### (2) 木との出会い

西川材についての説明を行った後、現状と比較するために、これまで飯能市ではどんな活用を行っていたのかを説明した。

### (3) 新しい活用

ここでは「木からエネルギーへ」「木を新素材へ」「木を日用品へ」「林業のハイテク化」の4部門

に分け、新しい活用について展示した。

### (4) 木と共に暮らす

新しい活用をふまえた新しいライフスタイルをモデル空間で提案した。

### (5) おわりに

以上をふまえた新しいライフスタイルを提案した。

## 3 印刷物

ポスター・チラシ

## 4 反省と展望

今回のゼミ展示は、新型コロナウイルス感染症の影響によりハンズオンの設置や展示室へのゼミ生の常駐ができず、それに対しうまく対応することができなかった。以下アンケートを基に反省点をまとめた。

- ・木からどのような過程を経るとCNFという新素材になるのか、もう少し詳しく知りたいと思った。  
→タイトルパネルでいきなり【CNFとは】と出てきたため、木とどんな関係があるのかがわかりにくくなっていた。
- ・チラシに食についての記載があり、期待していたが粉末があるだけだったため、もっと話しの広がりがあった。  
→チラシやサブタイトルで食についてアピールしている割には、扱いが小さすぎた。
- ・トルソーにネクタイとスカートを着用させて展示したが、肌に触れる物だったので直接さわって感触をたしかめたかった。端布でもいいので、置いてほしかった。  
→ハンズオンの設置が出来なかったかわりに、パネルに質感等を記述すべきだった。

(野村ゼミナールによる同展報告書より抜粋)



学生たちによる展示作業風景



展示風景

〔その他の展示〕

○令和2年度「埋蔵文化財出土品展」

期 間 令和2年8月15日(土)～9月6日(日)  
 開館日数 20日間  
 入館者数 1,507人 (1日平均75.4人)  
 展示点数 15点

○小学3年生見学対応展示「むかしのくらし  
 ～民家の台所再現～」

期 間 1月5日(火)～2月7日(日)  
 開館日数 30日間  
 入館者数 2,216人 (1日平均73.9人)  
 展示点数 47点

※関連事業の「火のし・炭火アイロン／石臼体験」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

○ミニ展示「ひなまつり」

期 間 2月11日(木)～3月7日(日)  
 開館日数 20日間  
 入館者数 2,458人 (1日平均122.9人)  
 展示点数 15点

※関連事業の「折り紙でおのおひなさま」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

○戦後75年・飯能市平和都市宣言記念  
 「飯能が見た戦争」

期 間 6月30日(火)～7月12日(日)  
 開館日数 13日間  
 入場者数 3,235人 (1日平均244.8人)  
 展示点数 25点  
 会 場 市民活動センター交流広場(丸広百貨  
 店飯能店7階)



市民活動センターでの展示「飯能が見た戦争」風景

◎今月の一品

エントランス入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示しているもので、その活用の方というだけでなく、最近の資料整理や調査研究活動など日頃の地道な資料研究の成果を発表する場にもなっている。当年度に展示した資料は、下表のとおりである。

月	タイトル	資料番号等	担当者
4月	正丸峠厚生道場リーフレット	令和元年度購入資料	尾崎
5月		臨時休館のため休止	
6月	伝染病予防清潔方法	中藤中郷自治会415	金澤
7月	天覧山(多峯主山)遊覧コース御案内	牛米努氏蒐集No.25	長谷川
8月	水筒	民具No.1245	実習生
9月	四季打鉄砲の鑑札	民具No.2573	尾崎
10月	双眼鏡	民具No.2280・2・3	尾崎
11月	写し絵の種板	民具No.2405(幻燈)	引間
12月	ミノペラ	民具No.5007	引間
1月	清酒造・濁酒造・醤油造税金減納嘆願書	浅見譲二家文書No.113	金澤
2月	台紙付写真4点	写真原板No.34(金子写真館)・341(新井写真館)・347(津森写真館)・851(篠原写真館)	尾崎
3月	桑切り包丁	民具No.1739・2311	引間

# 講座・学習会



I 飯能の新たな魅力に出会える博物館

VI 飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館

資料収集や保存、調査研究の成果が新たな地域の魅力発見につながり、講座や見学会、体験学習会などの学習活動によって伝えられる。

## 夏休み子ども歴史教室 「きっとすふしぎ発見！」

日 時 令和2年8月20日(木)  
午前9時30分～正午  
対 象 小学生  
参加者数 8名(定員10名)  
会 場 当館歴史展示室・学習研修室  
指 導 者 金澤花陽乃・尾崎泰弘

### 1 趣旨

本事業は、当館の展示室を利用したゲームやキャプション作りを通して、子どもたちに「物をじっくり見る楽しさ」を知ってもらい、観察力を養うことを目的に開催した。また、子どもたちが製作した成果物を展示室内に設置することで、参加者の家族や友達など、普段あまり来館することのない小学生とその親世代の来館を促すことも目指した。

### 2 内容

当日は、資料探しゲーム「ふしぎハンターへの道」(以下「資料探し」)とオリジナルキャプション作り(以下「キャプション作り」)の二部構成とした。

資料探しは、展示資料の一部を写した画像とその資料にまつわるクイズを載せたワークシートを配り、画像の資料を探し出すとともに、クイズに挑戦してもらうというゲームである。ゲーム終了後には問題となった資料について、学芸員による解説も行った。

キャプション作りでは、資料探しゲームでお題



資料探しゲーム「不思議ハンターへの道」風景



資料探しゲーム「不思議ハンターへの道」風景

とした資料の中から参加者それぞれが気に入った物についてのキャプションを作成した。資料をじっくりと観察しながら気に入った部分やおすすめポイント、説明などを書いてもらい、思い思いの色を塗ってもらった。出来上がったキャプションは展示室の該当する資料の横に掲示し、一般の来館者の方にも見てもらえるようにした。

### 3 評価・反省

本事業の周知は広報やホームページなどで行った。申込状況が芳しくない場合は学校へチラシを配布する予定であったが、募集開始2日目には申込数が定員の8割に達したことから配布は取り止めた。結果として参加人数は定員に達しなかったが、チラシにかかる諸コストや新型コロナウイルス感染症の流行下という状況等に鑑みれば妥当な判断であったと考えている。

当日の運営は、各プログラムとも大きな問題もなく、ほぼ時間通りに進行できた。

資料探しは、高学年の参加者が多いことをふまえて問題の難易度を高めに設定した。その上で、低学年の参加者や個人の能力の差をフォローするために、学年に応じた枚数の「ヒントカード」を配布した。同カードについては半数程度の使用を予想していたが、実際にはほとんど使われることが無かった。時間内に解き終わらなかった参加者が少なからずいたことから考えると、これは問題が想定よりも易しかったというよりも、わからなくても最後まで自力で挑戦する、という子どもたちの意思の表れであったといえよう。

キャプション作りは、参加者の多くが「キャプション」という言葉を聞くこと自体初めてということもあり、説明の段階では戸惑いを感じられた。しかし、作業を始めるとすぐに慣れたようで、展示室で資料を観察しながら文章やデザインを考えたり、学習研修室で色を塗ったり、思い思いに製作している様子が見受けられた。

早く作り終わってしまったときのために台紙を複数用意しておいたが、設定時間を少し短めにしたことと、歴史展示室と学習研修室を行き来しながら作るものであったことから、全員が1枚ずつの製作となった。

事業終了後にとったアンケート(回答者7人)によれば、7人中6人が親または友達からの誘いにより参加したとのことであり、必ずしも本人の希望によるものでは無かったことがわかった。しかし、満足度(楽しかったか否か)の問いに対しては5人が「とても楽しかった」、2人が「楽しかった」と回答し、また参加したいかどうかについては6人が「ぜひ参加したい」、1人が「できれば参加したい」と回答した。自主的な参加でなかったにも関わらず、参加者の満足度が高いという結果を得られたのは、大変喜ばしいことといえる。

難易度に関しては、「とても難しかった」1人、「難しかった」3人、「ふつう」2人、「まあまあやさしかった」1人という結果であった。これらの回答はほぼ学年に対応しており、「まあまあやさしかった」「ふつう」と答えたのはいずれも高学年の子であった。全ての参加者に合わせた難易度を設定するのは困難であるが、前述の満足度に対する回答と併せて考えると、今回に関しては妥当な難易度であったと言えるのではないだろうか。

課題については、以下の2点があげられる。

1点目は、キャプションの説明についてである。当日は最初のガイダンスとキャプション作り



オリジナルキャプション作りに取り組む参加者

の説明の時に、キャプションというものについて見本を見せながら説明した。しかし、参加者の反応を見ると、もう少し丁寧な説明若しくは「キャプション」という言葉に拘らない説明が必要であった。

2点目は、事業の準備についてである。今回、資料探しゲームの解答解説時における担当間の割り振りを決めるのが直前となり、解説の準備に時間が割けなくなってしまった。その結果、ゲームの答えとしてのみならず後半のキャプション作りのヒントともなる重要なものであったにもかかわらず、解説が不十分なものとなってしまった。準備不足は参加者の満足度や理解度にも直結しかねない問題であるため、余裕をもって計画的に準備を進めていかなければならないと感じた。

以上のような課題はあるものの、当日の参加者の様子や出来上がったキャプションを見ると、当事業の目的である「資料をよく観察する」ということは達成できたといえる。また満足度をはじめとしたアンケート結果をみても事業は概ね成功であったと言って差し支えないだろう。もう一つの目的である「普段あまり来ない層の来館促進」については残念ながら目立った成果は見られなかった。しかし、このような試みは今回が初めてであったこと、そして新型コロナウイルス感染症による影響で入館者自体が少なかったことを考えると可能性は未知数であり、今後も改善しながら同様の試みを続けていく価値はあると考える。

### 参加者の声

- 色々な道具などがあって楽しかったです。(4年)
- 賞じょうがもらえたのでうれしかったです。(5年)
- 物を見つけるのがすごく楽しかったです。またやってほしいです。(5年)



オリジナルキャプション作りの説明

自然講座  
カヤネズミの巣を  
見に行こう

日 時 令和2年10月24日(土)  
午前9時15分～正午  
対 象 小学生以上(小学生は保護者同伴)  
参加者数 8人  
会 場 天覧入り谷津田・当館学習研修室  
講 師 対馬良一氏  
(全国カヤネズミネットワーク)



現地でのカヤネズミの巣の解説風景

カヤネズミの巣の塗り絵を配布した。

### 1 趣 旨

本講座は、天覧入り谷津のカヤネズミの巣を観察し、その生態を学ぶものである。草地を利用して巣作りを行い、草地の生態系に依存しているカヤネズミは、草地環境の多様度の高さを示す指標種である。このカヤネズミが生息する草地を守るとは、カヤネズミだけでなく、多くの生きものの生息場所を守ることにつながる。

カヤネズミが身近に生息していることの重要性を学ぶことで地域の自然への興味関心を高めるとともに、生物多様性への理解を深めてもらうことを目的とした。

### 2 内 容

本講座は、カヤネズミの巣がある天覧入りの谷津で約2時間ほどフィールドワークを行い、その後、館に戻っての座学という流れで実施した。

天覧入りの谷津まで、周辺の自然環境を観察しながら歩き、到着地点では谷津の動植物の話をした。特にカヤネズミの天敵や、巣作りする素材の草などについて説明することで、生息環境の理解を深めてもらった。その後参加者が現地でカヤネズミの巣を探し、その観察を行う予定であったが、巣を発見できず、当日は持参した巣をもとに観察することとした。

座学では、カヤネズミの生体の動画やクイズ等を織り交ぜたスライドや職員が作成した模型を使って講師が解説をした。参加者へはフィールドワーク用のカード型資料のほか、持ち帰り用にカ

### 3 反省・評価

カヤネズミの巣を観察できることを前提に事業計画をしていたが、下見の時点で発見できなかった。そのため、過去に採取した巣を現地にそれらしく設置し、見つからなかったことも含めて解説することにした。なおNPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会で実施している調査では、春と秋のどちらの季節にも巣が確認されなかったのは初めてであったが、本観察会終了後に作られた巣が見つかった。

今年作られた巣が見られないことから、参加者の満足度が低くなることが懸念された。しかし、アンケートでは保護者の満足度は8割を超え、子どもたちは「とても楽しかった」「楽しかった」と全員が回答していた。「本物の巣を見ることができて感動した」「次に会えるときが楽しみ」という前向きな感想が多く、中にはカヤネズミの棲む場所が減っていることを知り保全への意識が高まった、という参加者もいた。

現地では保護者が関心を持って質問する姿も見られ、子どもたちは巣の観察や自然と触れることそのものを楽しんでいる様子であった。フィールドワークを講座に組み込むことによりカヤネズミに関わる動植物、周辺環境などを実際に見ることができ、身近な自然に興味関心を持ってもらうことができたと考える。

概ね目標を達成することはできたが、今後同様の事業を実施する際は、現地で目当ての物が見つからない可能性も視野に入れて計画すべきだと感じた。

自然観察会  
さとやまの  
小さな生きもの観察会

日時 令和2年8月2日(日)  
午前9時30分～午後0時30分  
対象 小学生(小学4年生以下保護者同伴)  
参加者数 16人(子ども10人、保護者6人)  
行程 博物館→諏訪八幡神社→天覧入りの  
谷津田→博物館  
講師 大石章氏(自然観察指導員)  
嶋田順一氏(東京蜘蛛談話会)  
協力者 博物館実習生(3人)

### 1 趣旨

本観察会では、天覧入り谷津の草原や田んぼ周辺で、現地の自然に詳しい地域の方々を講師とし、昆虫やクモを探して観察を行った。昆虫は動物の中でもっとも数が多く、環境に適應するために様々な形や生活様式をもっている。その面白さを伝えることで、子どもたちの身近な自然への興味関心を高めることを目的とした。また、野外で昆虫探しをするにあたり、危険な生物がいることについても触れ、自然との付き合い方を学ぶ場とした。

### 2 内容

新型コロナウイルス感染症対策のため、開会行事などはすべて野外で行い、解説時のマイクの使用や消毒などの感染症対策に力を入れて実施した。密集を避けるため、参加者を2班にグループ分けし、1グループにつき講師1名がついて行動した。さらに参加者への注意事項として「1m以上の距離を空けた移動」「観察時の場所の交代」などを呼びかけ、水分補給をする場合はさらに距離を空けることをお願いした。

博物館を出発後、まずは隣の諏訪八幡神社でセミの抜け殻や樹液に集まる昆虫の観察と、石垣や軒下のクモの観察をした。その後カヤ原で観察しながら谷津田を目指し、到着した班から順番に、水田のため池で、水の中の生きものをすくって観察した。

### 3 反省・評価

本観察会の大きな課題は、新型コロナウイルス感染症と熱中症に対するリスクマネジメントに



大石章氏による解説風景

あったが、当日は大きなトラブルもなく終わることができた。

アンケートで子どもたち全員が、新しく学んだことや、興味をもったことが「たくさんあった」もしくは「あった」と回答した。また、「虫をつかまえたり見たりしたことが楽しかった」「田んぼのぬかるみを歩いたことが楽しかった」という感想から、参加者が自然との触れ合いを楽しんだ様子が伺えた。学んだことについては、特にクモについて触れた子どもが多く、クモ1つを挙げて多様な種がいることに驚いたようであった。多くの昆虫がいたことから「もっと知りたい」と興味がわいた参加者もあり、趣旨に掲げた目標は達成できたと考える。2名の講師の解説により、詳しい種の観察ができた半面、一部の保護者からは「一般的な昆虫についてもっと知りたかったのでは」という意見が寄せられた。

また、自然との付き合い方を学ぶという点では課題が残った。軽装の参加者がいたこと、危険な昆虫についての周知があまりできなかったこと、昆虫の触り方を正しく指導できなかったことなどが理由である。今後生きものと触れ合う観察会を行う場合、最初に捕まえ方をレクチャーするなど、基本的な触れ合い方を教える時間をとりたいと考える。



嶋田順一氏による解説風景

自然観察会  
冬の森へ出かけよう

日 時 令和2年12月12日(土)  
午前9時15分～午後0時15分  
対 象 一般(小学生は保護者同伴)  
参加者数 8名  
行 程 博物館→天覧入りの谷津田→博物館  
講 師 山下裕氏(日本薬科大学特命講師)



天覧入りの谷津田での観察風景

1 趣 旨

冬の季節は花を咲かせる植物こそ少ないが、実や冬芽など冬ならではの様子を見ることができる。春に向けて花や葉を展開する準備をしている様子や様々な種子散布の方法があることを解説し、植物のおもしろさを伝えることを目的とした。

2 内 容

下見時点で主なコースの草刈りがされていたことから、どんぐりや紅葉を見ることができる公園やお寺を通過して天覧入りの谷津田までを往復した。若年層の参加者向けに動物散布型で衣服につくコセンダングサやキンミズヒキの種、形の面白い種の紹介など体験ができるものも織り交ぜた。

当日は植物以外にもネズミや秋に渡りをするタカなど、生き物との出会いがあった。また、リピーターの参加者から観察会で見つけたかったもの(クヌギのどんぐり)の希望を聞き、参加者全員で探す場面もあった。

自然観察会  
初めての“おさんぽ  
バードウォッチング”

日 時 令和3年2月10日(水)  
午後9時30分～正午  
対 象 一般(小学生は保護者同伴)  
参加者数 10人  
会 場 当館学習研修室  
行 程 博物館→飯能河原→割岩橋→諏訪沢→博物館  
講 師 河合裕氏  
(モニタリング1000里地調査鳥調査員)

1 趣 旨

野鳥は鳴き声も変化に富み、間近で姿を見れないためきっかけがないと観察を始めにくい。そこで、木が落葉して観察しやすい冬に、見通しが良い飯能河原を観察場所とした初心者向けの野鳥観察会を企画した。近場でよく見ることのできる野鳥の観察を通して、市民の身近な自然への興味関心を高めることを目的とした。



講師の河合裕氏

2 内 容

初めに、野鳥観察の基本的な方法について講師からレクチャーがあり、その後飯能河原周辺で観察を行った。変化があり、見晴らしがよい観察ポイント(諏訪沢を通る林、飯能河原の堰やウッドデッキ、割岩橋)を設定し、肉眼で見つけた鳥を参加者持参の双眼鏡や講師のカメラで観察した。冬場特有の数種が混ざる群れのほか、飯能河原では同じ種を繰り返し見ることができ、下見と当日を併せて11～20種の野鳥が観察できた。



## Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

## Ⅳ 学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館

市民学芸員の活動とは当館における学習の交流の場の設定であり、また博物館と市民との双方向性の情報交換の機会ともなっている。

## 市民学芸員

**令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策をとりながら全体で63回、のべ518人が参加！**

### 1 これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている(当館『研究紀要』第1号)。当館の場合、教育活動や資料整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点に特徴がある。

令和2年度末現在で活動しているのは、博学連携、古文書整理、麦作文化探求の3分野合わせて44名で、前年度よりも3名減少した。2分野以上にまたがって活動している方もいるので、各分野の内訳は、博学連携が35名、古文書整理が12名、麦作文化探求型が8名であった。

### 2 活動の概要

#### ◎全体の活動

新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されたことを受けて、当館では令和2年4月7日から6月1日まで臨時休館となり、この間市民学芸員の活動は停止となった。

また、当館の市民学芸員の活動は、基本的に博学連携、古文書整理、麦作文化探求といった活動分野ごとに行われるが、異分野どうしの交流をはかるため館外研修等は全体で行っている。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会と各分野の活動報告会等全体で行う活動は中止した。

この3分野以外にも当館のイメージアップなど養成分野に関係なく気軽に行えるサークル活動も設定されている。当該年度の活動は以下のとおりである。

#### (1) 生花サークル

このサークルの活動は、当館入口風除室に生花を展示することである。臨時休館期間と、生花が傷みやすい7月から9月までを除き、展示は1週間(火曜日の朝から日曜日まで)単位で行い、市民学芸員3名が交代で担当した(前年度より1名減少)。当該年度活動した日数は84日でのべ84人の参加があった。

#### (2) 花サークル

花サークルは、当館駐車場から入口へ向かう途中にある花壇に花を植えて、来館者を歓迎する雰

### ◆令和2年度市民学芸員(博学連携)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	担当	内 容	会場	参加人数
	4/21	火		4月例会		(非常事態宣言発出により休館)		
	5/29	金		5月例会		(非常事態宣言発出により休館)		
1	6/26	金	13:30~15:00	6月定例会	金澤・尾崎	館報『きつとすレポート』に基づき平成30年度の実績報告、当館における新型コロナウイルス対策、令和2年度小学3年生社会科見学対応などについて	飯能中央地区行政センター	22
2	7/28	火	10:00~11:10	7月定例会	金澤・尾崎	小学3年生社会科見学対応について(新型コロナウイルス感染症の影響、火のし・炭火アイロンプログラムの見直し、分科会方式によるプログラム検討について)	飯能中央地区行政センター	19
3	8/28	金	14:00~15:50	8月定例会	金澤・尾崎 長谷川	小学3年生社会科見学対応について(火のし・炭火アイロンプログラム検討後、各グループに分かれて話し合い)	飯能中央地区行政センター	13
4	10/28	水	10:00~11:20	10月定例会	金澤・長谷川	小学3年生社会科見学対応について(事業全体の状況、グループワークの進捗状況報告)	飯能中央地区行政センター	13
5	11/25	水	10:00~11:00	11月定例会	金澤・長谷川	小学3年生社会科見学対応について(事業全体の状況、グループワークの進捗状況報告)	飯能中央地区行政センター	15
6	12/25	金	10:00~11:00	12月定例会	金澤・尾崎 長谷川	館報『きつとすレポート』第2号に基づき令和元年度の実績報告、小学3年生社会科見学対応について(担当の割り振り、各校のプログラム説明)	飯能中央地区行政センター	13
7	3/23	火	10:00~11:20	3月定例会	金澤・尾崎 長谷川	当年度の小学3年生社会科対応の結果報告、来年度の活動について	飯能中央地区行政センター	17

囲気を表そうとするものである。当該年度は職員が花壇の手入れや植え替えを行い、市民学芸員の参加はなかった。

### ◎博学連携事業参加型の活動

「博学連携事業参加型」の活動の中心は、毎年1月～2月に実施している小学3年生の社会科見学対応(以下「小3対応」)である。

定例会は令和2年6月26日から再開し、小3対応のプログラムの検討を行った。「町の移り変わり」「石臼・昔のアイロン体験/民家の台所」「昔の道具探しクイズ」の3つの分科会に分かれて、それぞれプログラムの見直しを図った。

「町の移り変わり」は新しいプログラムであった



博学連携型・小学3年生見学対応プログラム検討(12/2)

ことから、新型コロナウイルス感染症対策も考慮しながら見学対応、出張授業に限らず見直した。特に出張授業では、町の移り変わりをイメージするために、昔や今の町なかの写真をモニターやタブレット端末にデータ配信する形での実施を検討した。

「石臼・昔のアイロン体験」は、石臼体験についてはほぼ従来通りとし、1人が体験するごとに石臼の把手をアルコール消毒した。一方、昔のアイロン体験は、消毒用アルコールを用いる中で火気があるのは危険なことから実施しないこととした。また民家の台所では、炭・昔の台所用具と囲炉裏空間の説明を行うこととした。台所用具は、「比べて探そう!昔の台所用具」として、現代の台所用具のカードを児童に選んでもらい、そのカードをもとに同じ昔の台所道具を探してもらった。

「昔の道具さがし」クイズは、例年だと薄縁の上並べた20点の昔の道具を自由に触れてもらう形で行っているが、それだと「三密」の状況が発生してしまう。そこで、机の上に等間隔で道具12点を並べ、児童同士の距離を保ちながら観察する方式に変更した。

なお、新型コロナウイルス感染症は感染すると高齢者が重症化しやすいといわれていることから、

### 市民学芸員(博学連携)・小学3年生見学プログラム検討部会の活動一覧

【昔の道具さがし】担当:長谷川

回	活動日	曜日	時間	内 容	会場	参加人数
1	9/8	火	14:00～15:30	新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながらのプログラム検討など	学習研修室	5
2	10/6	火	10:00～11:55	当館による基本方針説明、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながらのプログラム検討、学習ノート・マニュアルの確認	飯能中央地区行政センター	4
3	10/20	火	14:00～15:55	新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながらのプログラム検討	学習研修室	5
4	11/17	火	14:00～15:55	説明用パネルと昔の道具の配置検討	学習研修室	5
5	12/2	水	10:00～12:00	見学プログラムプレ、マニュアルや民具の配置などの再検討	学習研修室	4

23

【石臼体験・民家の台所】担当:金澤

回	活動日	曜日	時間	内 容	会場	参加人数
1	9/11	金	10:00～11:30	石臼体験プログラム、火のし・炭火アイロンに代わるプログラムの検討	学習研修室	7
2	10/9	金	13:30～15:00	石臼体験、特別展示室を活用したプログラムの検討	学習研修室	3
3	10/21	水	10:00～11:40	民家の台所説明プログラムについて(炭の説明、「比べて探そう!民家の台所クイズ」、囲炉裏の説明内容検討)	学習研修室 歴史展示室	7
4	11/20	金	10:00～11:50	民家の台所空間の資料検討、「くらべて探そう!昔の台所道具」で題材とする道具・囲炉裏で説明する道具の選定	学習研修室	7
5	12/15	火	13:30～15:30	(記録なし)	学習研修室	5
6	1/15	金	(午前)	会場設営について	学習研修室	5

34

【町のうつりかわり】担当:尾崎

回	活動日	曜日	時間	内 容	会場	参加人数
1	9/11	金	10:00～11:15	課題の抽出、基本方針の提案	歴史展示室	7
2	9/25	金	10:00～11:30	全体の枠組み説明、写真で見る町の移り変わりのプログラム、大通りの模型を使った交通の発達説明プログラム検討	学習研修室	9
3	10/9	金	10:30～12:00	写真で見る町の移り変わりのプログラム検討	学習研修室	9
4	10/30	金	13:30～15:30	写真で見る町の移り変わりのプログラムで使用する写真の検討	学習研修室	7
5	11/13	金	13:30～15:00	写真で見る町の移り変わり(昭和35年前後と平成元年度前後)、交通の発達(大通りの模型)プログラムの検討	学習研修室	6
6	11/27	金	10:00～11:30	写真で見る町の移り変わりプログラムの内容・マニュアル、学習ノートの検討	学習研修室	8

46

部会計 103人

当該年度は市民学芸員の小3対応への参加は見合わせ、対応はすべて職員が行った。すべての学校の見学受け入れ、出張授業が終了した後、職員の反省点を集約したものを定例会で報告した。

その他小3対応以外の活動として、毎年ミニ展示「ひな祭り」で配布しているおひな様カードの作成を当該年度も行ったが、昨年度に引き続き「折り紙でおひな様」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

### ◎古文書整理型の活動

「古文書整理(参加)型」の活動は、学習成果を当館の事業に関わる形で還元することに活動の中心がシフトしてきている。

当該年度は、令和元年度に開催された「はじめての古文書講座」受講者によって立ち上がった学習サークル「古文書を読む会」の指導役を引き続き担当した。運営は、それぞれ3人からなるグループ2つがテキストごとに交代して行い、グループ内の3人は役割を分担して指導にあたった。

また、前年8月から開始した、歴史展示室の「飯能今昔」ゾーンの地域遺産のコーナーの展示替え準備として、東吾野地区の旧井上村に関わる古文書の翻刻を行った。

このほか、市民学芸員が自ら住んでいる地区の歴史を調べ案内する地域めぐり(旧久下分村)を実



古文書整理型・古文書を読む会の指導風景

施したが、他の博物館を見学する館外研修会や、歴史展示室「飯能今昔」ゾーンの「旧中山村の地域遺産」の内容を多くの人に知っていただくために中山地区を案内する事業は、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

### ◎麦作文化探求型の活動

「麦作文化探求型」市民学芸員の活動目標は、次の3点である。

- ①伝統的な麦作及び加工等に係る技術を身に付け、伝承する。
- ②麦に関する知識を深め、地域の麦作文化を探求する。
- ③活動や調査の成果を、館の教育事業の中で積極的に活用する。

### ◆令和2年度市民学芸員(古文書整理)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	内 容	会場	参加人数
	4/9	木		4月例会①(非常事態宣言発出により休館)		
	4/23	木		4月例会②(非常事態宣言発出により休館)		
	5/14	木		5月例会①(非常事態宣言発出により休館)		
	5/28	木		5月例会②(非常事態宣言発出により休館)		
1	6/25	木	10:00~11:28	6月例会(平成30年度の当館実績について)	学習研修室	11
2	7/9	木	10:00~11:35	7月例会①(史料集『須田家日記(1)』について、井上村研究⑥)	学習研修室	11
3	7/23	木	10:00~11:32	7月例会②(井上村研究⑦)	学習研修室	9
4	8/27	木	10:00~11:37	8月例会(井上村研究⑧)	学習研修室	10
5	9/10	木	10:00~11:35	9月例会(井上村研究⑨)	学習研修室	9
6	10/8	木	10:00~11:34	10月例会①(井上村研究⑩)	学習研修室	10
7	10/22	木	10:00~11:32	10月例会②(井上村研究⑩、古文書を読む会の指導について)	学習研修室	9
8	11/12	木	10:00~11:34	11月例会(井上村研究⑪、今後の地域めぐりについて)	学習研修室	9
9	11/26	木	9:30~11:08	地域巡り⑪旧久下分巡見	(現地)	9
10	12/10	木	10:00~11:32	12月例会(令和元年度の当館実績について、井上村研究⑬)	学習研修室	10
11	1/14	木	10:00~11:37	1月例会①(井上村研究⑭、旧中山村の魅力案内事業について)	学習研修室	10
12	1/28	木	14:00~15:35	1月例会②(井上村研究⑮)	学習研修室	7
13	2/11	木	10:00~11:35	2月例会①(井上村研究⑯)	学習研修室	11
14	2/25	木	10:00~11:35	2月例会②(井上村研究⑰)	学習研修室	10
15	3/11	木	10:00~11:34	3月例会①(井上村研究⑱)	学習研修室	10
16	3/25	木	10:00~11:35	3月例会②(井上村研究⑲、古文書を読む会の指導について)	学習研修室	10
	3/28	日		「戦国の中山と「天神様のお祭り」を訪ねて(旧中山村の魅力案内事業)	(現地)	

合計 のべ 155



麦作文化探求型・大麦の播種 (11/11)

令和2年度の活動は、当館の臨時休館を受け、6月3日から開始とした。休館期間中は、畑作作業が中断されたため、職員が麦畑の手入れを行った。活動再開後は、時期がずれたがサツマイモの苗植えや堆肥の手入れ等を行い、麦作を秋から再開した。また、今期から「麦作こよみ」を作成することとした。麦作こよみとは、市民学芸員の畑作

の作業記録であり、作物の生育状況、作業等を書き入れるものである。今までは活動記録として基本的には文章で事務局が発信していたが、これにより市民学芸員が自らの活動を記録し、状況把握がしやすくなった。今後、市民学芸員(麦作文化探求型)の活動をまとめるときにも役立つものと期待される。

学習活動としては、前年度(令和元年度)に引き続き、平成30年度にリスト化した市立図書館所蔵の関連図書を中心に書誌紹介を行った。書誌紹介は2回行い、疑問点などを意見交換した。また、令和元年度の市民学芸員全体研修で行っていた各分野の活動報告が中止となったため、活動の一環として市民学芸員が会の中で報告した。

また今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中学生社会体験チャレンジ事業が中止となったことや飲食を伴う活動を制限したことから、麦に関わる料理の実習などは出来なかった。

◆令和2年度市民学芸員(麦作文化探求型)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	内容	会場	参加人数
	4/8	水		(非常事態宣言発出により休館)		
	4/15	水				
	4/22	水				
	5/13	水				
	5/20	水				
	5/27	水				
1	6/3	水	9:30~11:45	今後の活動予定の話し合い、サツマイモの苗植え、陸稲の播種	学習研修室・西側畑	7
2	6/10	水	9:30~10:35	サツマイモの苗植え、陸稲の苗植え、畑の手入れ	西側畑	7
3	6/17	水	9:45~11:25	書誌紹介(2名)、ノラボウの種取り	学習研修室・西側畑	6
4	7/8	水	9:40~11:45	館報『きつとすレポート』の説明、書誌紹介(1名)、今後の活動予定の打合せ	学習研修室	7
5	7/29	水	9:35~11:30	サツマイモ苗床の反省について、堆肥づくりについて、今後の活動予定について	学習研修室	6
6	8/5	水	9:30~11:20	堆肥づくり、畑の手入れ	西側畑	6
7	8/19	水	9:30~11:20	サツマイモのツル返し、畑の手入れ	西側畑	3
8	9/9	水	9:30~11:20	令和元年度の活動発表について、土壌について、今後の活動予定の打合せ	学習研修室	7
9	9/16	水	9:30~11:30	今後の活動予定の打合せ	学習研修室	7
10	9/30	水	9:30~11:30	サツマイモの収穫、ダイズの収穫、畑の耕耘	西側畑	6
11	10/7	水	13:30~14:20	ノラボウの播種、堆肥のすき込み	西側畑	6
12	10/21	水	13:30~15:50	畑の耕耘	西側畑	6
13	11/11	水	13:30~15:10	大麦の播種	西側畑	6
14	11/18	水	13:30~15:20	小麦の播種	西側畑	7
15	11/25	水	13:30~15:20	サツマイモのスライス	西側畑	7
16	12/2	水	13:30~15:45	来年の計画づくり	学習研修室	7
17	12/16	水	13:30~15:45	サツマイモの製粉、麦踏み	1階スロープ、西側畑	7
18	1/6	水	13:30~15:45	麦踏み、今後の活動予定の打合せ	西側畑、学習研修室	7
19	1/20	水	13:30~?	麦踏み、サツマイモの苗床づくりの話し合い	西側畑	6
20	1/27	水	13:40~14:55	麦踏み、サツマイモの苗床づくりの話し合い	西側畑、学習研修室	7
21	2/10	水	13:30~15:00	サツマイモの苗床づくり	西側畑	7
22	3/3	水	13:30~14:40	サツマイモの苗床づくり(種イモ入れ)、麦の土入れ、看板設置案の配付	西側畑	7
23	3/24	水	13:30~14:50	サツマイモの苗床の手入れ、畑の手入れ、堆肥のすき込み(ダイズ播種の準備)	西側畑	6

合計 のべ 148人



## Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

## Ⅳ 学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館

学校の先生と当館学芸員が連携し、学校における質の高いプログラムを提供することにより、豊かな歴史と自然に恵まれた飯能の子育て環境をアピールできる。

# 小学3年生社会科学習支援

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小規模校のみ見学を受け入れ、他は出張して対応

小学3年生の社会科「市の人々のくらしのうつりかわり」の学習支援は、市内すべての学校に来館してもらい、市民学芸員とともにプログラムを進めていくのが通常である。しかしコロナ禍にあっては小規模校のみ見学を受け入れることとし、それ以外は出張授業とした。見学で一度に受け入れ可能な人数は18名以下としたが、これは昔の道具探レクイズの受け入れ可能な人数の上限を6名としたためである。見学の場合、同時に3つのプログラムを並行して行うこととなるので、6×3で18名となる。

また当初は市民学芸員が指導することを前提に、見学対応用のプログラムの見直しを行っていた。しかし令和3年1月8日に緊急事態宣言が発出され、高齢者が多く感染すると重症化するリスクがある市民学芸員の参加はとりやめざるを得なかつ

た。その結果職員4名と非常勤職員3名で見学並びに出張授業の対応を行うこととした。

各小学校には、「見学」「出張授業」「リモート」「実施しない」の4つの選択肢から意向を聞いたところ、リモートを希望する学校はなく、「実施しない」とした学校が1校あった。

### ①当館での学習

例年行っている昔のアイロン体験は、消毒用アルコールを用いる中で火気があると危険なので、プログラムから外した。その代わりに民家の台所で行う「比べて探そう！昔の台所用具」を新しく考案し、囲炉裏空間の説明を入れた。これは児童が現代の台所用品の写真が貼ってあるカードを引き、その写真の道具と同じ役割を果たしていたものを展示の中から探すというものである。資料を探した後で児童には引いたカードと見つけた道具

### ◆令和2年度小学3年生見学対応一覧

#### 《来館》

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	備考
1	2/2(火)	名栗小	1	6	市バス	9:08	11:40	152	0	
2	2/5(金)	飯能第二小	1	10	市バス	9:03	11:26	143	0	
		合計2校	合計児童数 16人		市民学芸員延べ人数 0人					

#### 《出張》

No.	実施日	学校名	会場	学級数	児童数	プログラム				開始時刻	終了時刻	時間(分)	職員数	対応市民学芸員数
						クイズ	体験学習	解説	移動					
1	1月13日(水)	南高麗小	体育館	1	14	●	●			10:41	11:26	45	4	
2	1月20日(水)	加治小	体育館	3	95	●	●	●		8:40	12:00	200	3	
3	1月20日(水)	原市場小	体育館	1	20	●	●	●	●	13:35	15:12	97	3	
4	1月22日(金)	富士見小①	体育館	2	56	●	●	●	●	8:38	12:07	209	4	
5	1月26日(火)	精明小	体育館	1	17	●	●			9:33	10:26	53	3	
6	1月27日(水)	美杉台小	体育館	3	97	●	●			8:35	11:22	167	3	
7	1月29日(金)	富士見小②	体育館	1	27	●	●	●	●	9:25	11:15	110	4	
8	2月3日(水)	飯能第一小①	体育館	2	63	●	●			9:40	11:35	115	3	
9	2月4日(木)	奥武蔵小	体育館	1	11	●	●	●	●	10:50	12:25	95	4	
10	2月18日(木)	飯能第一小②	体育館	1	31	●	●			9:40	10:26	46	3	
11	2月26日(金)	双柳小	理科室など	2	59	●	●	●	●	8:35	12:15	220	5	
		合計9校	合計児童数 490人		市民学芸員延べ人数 0人									

の番号や気づいたことを発表してもらった。また、囲炉裏空間の説明では、児童に囲炉裏を囲んで座ってもらい、そこで調理をしたり、暖を取ったりしたほか、家族の団らんであったことを説明し、また囲炉裏の煙により、家が長持ちすることなどを伝えた。石臼体験は、1人ずつ石臼を回し、交代するたびに把手の部分アルコール消毒した。

「昔の道具さがしクイズ」は、例年薄緑(昼表)の上に昔の道具を広げて、実際に触れながら自由に観察してもらおうが、今回は机の上に等間隔で道具を並べ、順番に回っていくことで児童同士の距離を保つこととした(右下図)。

### ②学校への出張授業

出張授業は1クラスごとに行い、一度に受け入れる児童数の制限は設けなかった。これは、博物館で実施する場合は入館する人数に制限があるが、学校にはそれがなかったためである。会場は、基本的には体育館とし、広く使って各プログラムの実施場所を離れた。終了後は、石臼等児童が触れた道具を消毒した。当館においては「昔の道具さがしクイズ」は40分かけて行うが、石臼などの体験は20分1セットなので、出張ではどのプログラムも20分とし一律で児童が動けるように設定した。なお当館での見学も出張授業の場合も会場への入退室、来館時の手指消毒を徹底した。

### ③両方共通のプログラム

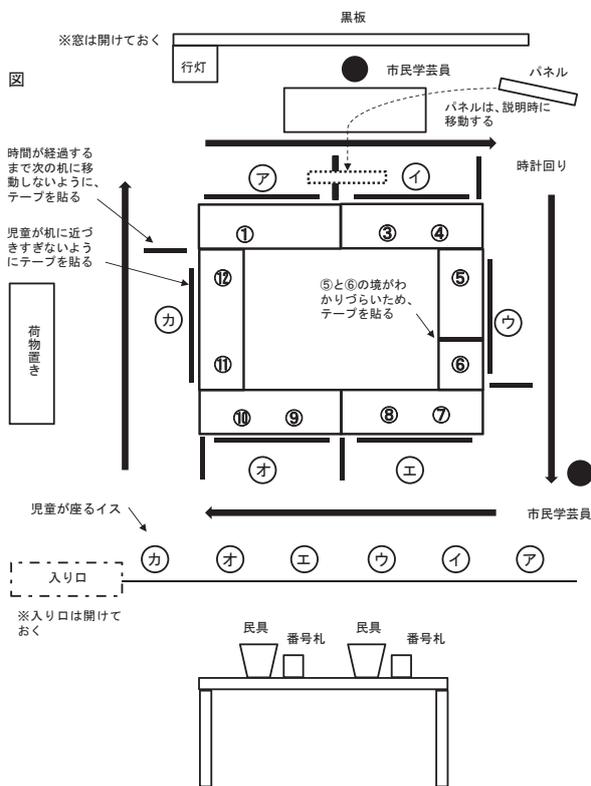
「町の移り変わり」は、令和2年度に新しく創出したプログラムであるため、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら見学・出張授業両方に対応できるものとした。内容は町の移り変わりをイメージするために、児童の祖父母が子どもの頃(昭和35年前後に設定)や両親が子どもの頃(平成元年頃に設定)の写真を比較して今との違いを見つけるといったものであったが、出張授業では教室でモニターとタブレット端末に画像データを配信して取り組んでもらった。このタブレット端末は、飯能市GIGAスクールにより市内小・中学校の児童・生徒へ1台ずつ貸与されたものである。

実際に始まってみると学校の状況によるスケジュールや内容の変更が生じ、先生と協議しながらその都度対応していくこととなった。例えばある小学校は当館に来館し見学する予定であったが、

緊急事態宣言の発出を受けて保護者から見学を不安視する声があったため、担当教員より相談を受け出張授業に切り替えた。また別の小学校では、保護者が濃厚接触者となったため、担当教員から予定していた日取りでは実施が難しいとの話があり、実施日を変更した。出張では1つのプログラムに1人の職員が指導するため、10人以上をまとめることは一苦勞であった。

実施校からは、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校のイベントが少なくなっている中、その実施はありがたかったという意見を数多くいただいた。また、「町の移り変わり」でのタブレット端末の活用も好評であった。

今後は、当該年度の反省を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の状況を見極め、より安全で内容の充実したプログラムの検討が必要である。また市民学芸員の関わり方、タブレット端末のさらなる活用なども課題である。出張授業が好評であったこともあり、今後コロナ禍でなくとも出張授業を希望する学校が出てくる可能性もあるが、終息後は以前のようにすべての小学校の3年生が来館し、「博物館体験」を楽しんでもらいたい。



新型コロナウイルス感染症拡大防止のための「昔の道具さがしクイズ」会場配置

# 小・中学校社会科研究展

## 1 概要

小・中学校では、夏期休業中にいろいろな教科で自由研究の課題が出される。このうち、理科や技術家庭、美術科ではその作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているのに対し、社会科には学校の外でその成果を発表する場がない。しかし児童生徒の地域研究の意欲は強く、その中には研究の質として高いものも見受けられる。このような作品を地域の博物館で公開し、多くの人に見てもらうことは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より飯能市教育研究会社会科部会と共催で行っているのが本事業である。出展された作品のうち優秀な研究に対し、右下に掲げた基準に基づき教育長賞、館長賞及び学芸員賞を選んでいる。

なお、保護者が仕事帰りに見に来ることができるよう、会期中の金曜日(2日間)、開館時間を午後7時まで延長した。



親子で協力して研究発表！



社会科研究展・小学校の部 (特別展示室)

## 2 展示概要

期 間 令和2年9月19日(土)～10月4日(日)

開館日数 14日間

入館者数 1,318人(1日平均94.1人)

展示点数 小学生 85点(86人)

中学生 15点(15人)

会 場 当館特別展示室・学習研修室

## 3 関連事業「研究発表会」

日 時 令和2年10月4日(日)午後2時～3時

発表数 7点(7人)

会 場 市民会館会議室202

参加者数 37人

### ○教育長賞

No.	題 名	児童名	学 校 名	学年
83	ナンバープレート大研究	近正 柑太	奥武蔵小学校	5

### ○博物館長賞

No.	題 名	児童名	学 校 名	学年
52	身近にある橋	円山 夏実	加治東小学校	3

### ○学芸員賞

No.	題 名	児童名	学 校 名	学年
62	一度はよ やってみんなべえ ぼうさいくんれん	影森 俊哉	双柳小学校	2
27	動物たちから飯農(能)たすけ隊！！	遠藤 美羽 遠藤 春翔	南高麗小学校	2 4
15	ぼくのまち飯能の100年企業～コロナに負けない！ためのヒントを探る～	小室 瑛	飯能第一小学校	4
86	色々な物の移り変わり 明治～現代	伊古田 悠斗	飯能第一中学校	1

特別賞の基準は以下のとおり。

#### ○教育長賞

例年の館長賞の候補より特に優れ、数年に一度しか見られないようなもの。

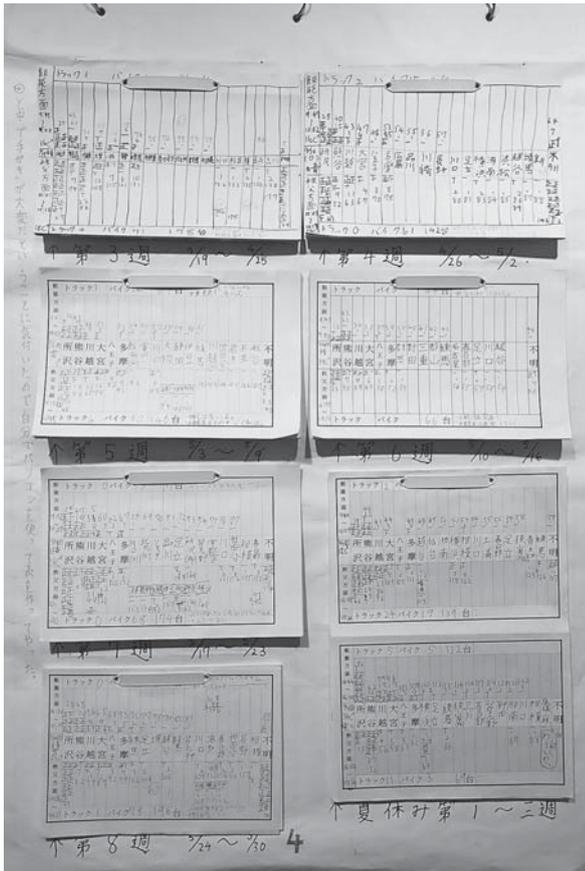
#### ○館長賞

学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校1研究ずつ。

#### ○学芸員賞

- ・地域を対象としている。
- ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
- ・調査結果がわかりやすくまとめられている。

以上に該当する作品で小・中学生合わせて4点まで。なお、作品が展示されたすべての児童生徒には、賞状と参加賞を贈っている。



教育長賞  
「ナンバープレート大研究」  
近正柑太さん（奥武蔵小学校5年）

【講評】

他の研究を寄せつけない圧倒的な情報量とその多様な分析、そして周辺への興味の広がり。例年の館長賞作品にとどまらず、数年に一度しかお目にかかれないくらいの優れた作品です。

新型コロナウイルスの影響による休校期間と夏休みを利用して、これだけの長い期間、飽きることなくデータをとり続けた驚異的な根気は、研究に人生を捧げる大学教授をイメージさせます。成果をわかりやすく伝える工夫も数多く見られ、当館の学芸員たちをして「まいりました！」と言わしめたこの研究からは、調べること、究明することの楽しさも伝わってきます。



タブレットを使っでの近正さんの発表



③ 斜張(しちやう)橋...主塔からななめにケーブルをはいて橋の本体を支える。

☆ちちぶ橋(ちちぶ市・あらか川・153.1m・1985年)

- 国道299号線の橋。げんごい車が通るのは3代目となる。2代目(旧ちちぶ橋)は1931年に架けられた橋で今は遊歩道として使われている。しよ代ちちぶ橋は、1885年に架けられた。今でも川の中にその橋きくがのこっている。
- ちちぶ橋は、ちちぶ地方でさい古のれきしを持ち、埼玉県でははつつのしちやう橋。5年かけてつくられた。
- 日本百名橋の一つ。あらか川の風けいごとでもきれいだ。かん光している人が多くいた。
- とうがどしりしててピシッとはられたケーブルなど、見た目がからこしい。

ちちぶ置大橋は長さ530m、1992年にけんせつされたしちやう橋。主塔の形やケーブルの形がこなる。

⑥ ラーメン橋...上げた橋台・橋きくが一体化した橋。

☆谷川橋(嵐山町・つぎ川・20m・1962年)

- おいそいな名前だけと食べるラーメンはかん係ない。「Rahmen」はドイツ語で「ほね組みを意味する。
- 橋きくつけたが一体せりけいされている。けた橋にあるようなしん水そうがなないね、車の走行がスムーズでしん動音もおおしないと本で知った。
- 三角のたて橋をささえている。また、橋の下に大きなスペースがでるので、川の流れをじましない。
- 橋全体を横から見たとき、漢字の「四」みたいな形だと思つた。

2019年10月の台風19号によって付近の道路はくずれていたが、谷川橋はこわれていなかった。昔から水がいが多かったから、じょうぶなラーメン橋にしたのかな？

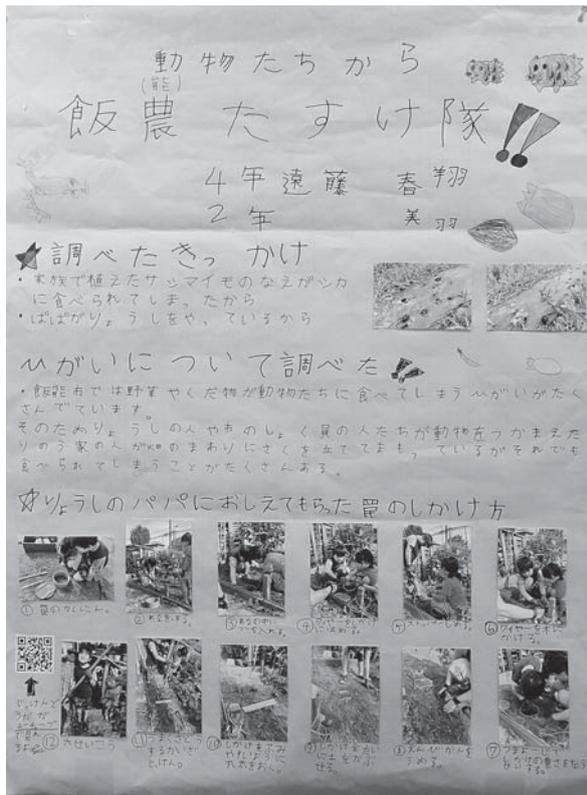
ラーメン橋は橋きくをつくるのがむずかしい、深いけい谷に使われるこが多いので山間部や高速のジャンクションなどで見られるそう。もって見つけてくらべてほしい。

博物館長賞「身近にある橋」  
円山夏実さん（加治東小学校3年）

【講評】

飯能に引越してきて、身近にある橋に注目して始まった研究です。まず橋そのものの役割や作り、種類といった基礎的なことを確認してから、実際に現地に行っているの、観察のポイントも的確で、写真も説明文とつながる意味のあるものとなっています。また橋のつくりの図によって他の橋との違いがわかり、3年生とは思えないいいな作りになっています。

身近なところから調査の対象を広げ、実際に自分で見て考え、その成果がわかりやすくまとめられている、まさに学芸員賞の基準を高いレベルで満たしている点で、博物館長にふさわしい研究といえます。



学芸員賞  
「動物たちから飯農(能)助け隊!!」  
遠藤春翔さん(南高麗小学校4年)・美羽さん(同2年)



学芸員賞  
「一度はよ やってみんなべえ ぼうさいくんれん」  
影森俊哉さん(双柳小学校2年)



学芸員賞  
「ぼくのまち飯能の100年企業  
～コロナに負けない! ためのヒントを探る～」  
小室咲さん(第一小学校4年)



学芸員賞  
「色々な物の移り変わり 明治～現代」  
伊古田悠斗さん(飯能第一中学校1年)



社会科研究発表会の発表者

## その他の博学連携事業

小・中学校への出張授業件数はここ数年5～6件で推移していたが、今年度は8件と前年度より3件増加した。ただしそのうちの1件は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発出のため、休校していた4年次に学習できなかった社会科の武蔵野鉄道(単元名は「きょう土をひらく」)についてを、5年次の再開冒頭に行うことを依頼されたものである。

また、平成30年度のリニューアルオープンによって、周辺の自然分野のビジターセンター的機能が加わったことにより、飯能河原、天覧山周辺の自然分野についても引き受けることが可能となった。件数の増加はその影響もあると思われる。

中学校からの依頼は昨年度に引き続きなかった。



奥武蔵小学校5年生出張授業「武蔵野鉄道」風景

### ◆令和2年度出張授業一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	6/3(水)	奥武蔵小学校	5年	社会	武蔵野鉄道	新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校のため実施できなかった、4年生社会科の「武蔵野鉄道」の単元を実施した。	尾崎	15
2	9/3(木)	加治小学校	3年	総合学習	加治地区にあるもの	総合学習「加治っ子タイム」として、加治地区にある神社や寺、自然などについて紹介した。	金澤	96
3	9/19(土)	飯能第一小学校	3年	総合学習	天覧山の自然と歴史	「天覧山探検隊」として天覧山中段で、天覧山の歴史、生きもの(動物)、植物についてそれぞれ15分1コマで3回説明した。	長谷川 金澤 本橋	92
4	9/25(金)	飯能第一小学校	4年	総合学習	飯能河原の自然や歴史	「ぼくたち飯能河原探検隊」として、飯能河原の歴史や動物、地質について説明した。※雨天のため会場を飯能河原のウッドデッキから小学校に変更。	長谷川 金澤 本橋	100
5	10/1(木)	飯能第一小学校	5年	総合学習	飯能の町の歴史や文化	「伝えよう飯能の昔発見」として、飯能の町の古くからある店、伝説・言い伝え、交通など9つのテーマについて説明した。	尾崎 引間 金澤	105
6	11/19(木)	双柳小学校	4年	社会	武蔵野鉄道	鉄道開通に対する飯能の人々の思いと、武蔵野鉄道の開通後のまちの変化について説明した。	尾崎	80
7	11/25(水)	加治小学校	4年	社会	地域に伝わるお祭り	下名栗の獅子舞、飯能まつり、落合西光寺双盤念仏など4つを取り上げて説明した。	引間	95
8	12/9(水)	加治小学校	4年	社会	武蔵野鉄道	鉄道開通に対する飯能の人々の思いと、武蔵野鉄道の開通後のまちの変化について説明した。	金澤	95

合計 のべ 678人

### ○社会体験チャレンジ

「社会体験チャレンジ」は、本市の中学1年生が勤労の尊さや働く意義を学び、正しい職業観を身につけるために、市内の事業所や公共機関等で3

日間、職場体験をするものである。

当該年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

# 資料・施設の利用



## Ⅲ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

収蔵資料は、市民はもちろん、学術研究の資料として研究者や他の博物館からも利用されることでその価値が高まっていく。また当館の学習研修室などは、さまざまな「学び」を間接的に支援する場となっている。

## 収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

コロナ禍の影響で、令和2年度の利用は85件にとどまるも堅調な利用が続いている。

当館で最も利用されているのは、文書や写真といった記録史料である。この点は一般的な博物館とは異なるが、これは当館がアーカイブズ(文書館)的な機能を有し、その利用を積極的に推進しているためである。文書を含めすべての資料について利用を希望する方には、資料利用許可申請書を提出していただき、資料の状態を確認し閲覧(熟覧)場所を確保した上でを行っている。

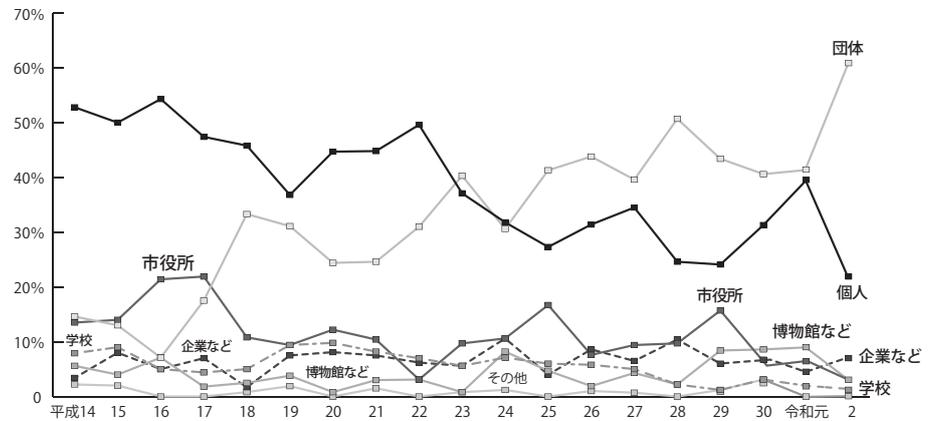
令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大による休館もあり、85件の利用にとどまった。1年の

利用件数が100件を下回るのは、ここ10年ではリニューアルオープンのため10ヶ月にわたって休館していた平成29年度以来である。ただし前年度が291日の開館日に対し115件(1日平均0.4件)であるのに対し、当該年度は1日あたり0.34件(250日で85件)なので、実態としては15%の減少にとどまった。

また、資料の種別ごとの利用の割合、利用者別の割合も例年と比べて大きな違いはなかった。

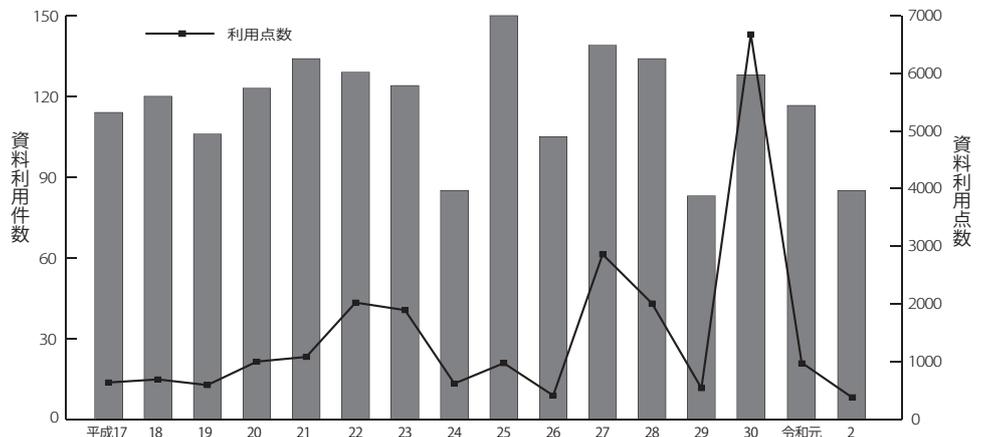
コロナ禍にありながらも収蔵資料は堅実に利用されていると評価してよいであろう。

平成14～令和2年度の資料利用者別推移



平成17～令和2年度の資料利用推移

利用件数・点数



※平成29年度は常設展示改装のため、2ヶ月間のみ開館。

◆令和2年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	岡部とよ子家文書「秩父木炭同業組合事件演説要旨」など	80	個人	研究	4/1～3/31
2	鈴木晃家文書「乍恐以書付御訴奉申上候」	1	個人	武州世直し一揆についての研究	4/2
3	写真「延宝八年からほう大し念佛御日記」(半田実家文書)など	2	個人	調査研究	4/12
4	写真「振武軍旗」	1	(一社)日本電気協会新聞部	電気新聞連載小説「土魂商才」の図版	4/15
5	『飯能河原周辺河岸緑地植生調査等自然環境調査報告書』	1	個人	調査研究	5/31～6/11
6	原市場役場文書「防空ニ関スル通知及報告書綴」など	2	個人	調査	6/3
7	図書『精明郷土史』	1	個人	調査・研究	6/10
8	須田省一郎家文書「明治三年午日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	6/13
9	須田省一郎家文書「明治四年未日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	6/20
10	図書『埼玉の淡水魚図鑑』など	2	個人	調査	6/21
11	図書『創立40周年記念誌 郷土芸能たゆまぬ歩み』	1	個人	調査	7/5
12	振武軍廻文など	4	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展「青天を衝け」資料調査	7/8
13	須田省一郎家文書「明治四年未日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	7/11
14	牛米努氏蒐集文書「天覧山(多峯主山)遊覧コース御案内」	1	個人	地方史研究	7/11
15	須田省一郎家文書「明治五年申日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	7/16
16	須田省一郎家文書「明治五年申日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	7/18
17	レコード「飯能祭りばやし」など	5	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く会」の準備	7/22
18	須田省一郎家文書「明治六年酉日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	7/29
19	図書『武蔵国田園簿』	1	個人	調査	7/29
20	図書『名栗川金属文化の会月報』など	2	個人	地方研究	8/2
21	写真「[入間川の製氷所]」	1	埼玉県立川の博物館	令和3年度春期企画展「天然水(仮)」の開催	8/4
22	レコード「飯能祭りばやし」など	5	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く会」の実施	8/8
23	中村正夫家文書「五人組御改帳」など	26	個人	五人組の調査	8/12
24	図書『埼玉県立博物館紀要 19』	1	個人	研究	8/14
25	図書『埼玉県の民謡』(付属カセットテープ)	1	個人	「飯能の”みんな”を聴く会」の準備	8/16
26	須田省一郎家文書「明治六年酉日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	8/20
27	レコード「飯能白ひき唄」など	8	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く会」の準備	8/22
28	図書『宮本町囃子連のあゆみ』	1	個人	学校の宿題	8/22
29	都市計画課文書「[あけぼの子どもの森公園開園式典不参加=付書状]」など	3	(株)テレビマンユニオン	テレビ番組「世界ふしぎ発見!」の制作	8/26
30	レコード「正丸小唄」など	2	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く会」の準備	8/28
31	図書『埼玉県の民謡』(付属カセットテープ)	1	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く会」の準備	9/1
32	レコード「飯能小唄」など	8	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く会」の実施	9/4
33	図書『埼玉県の民謡』(付属カセットテープ)	1	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く会」の準備	9/5
34	国民服など	21	加治東小学校	国語「ちいちゃんのかげおくり」授業	9/9～9/30
35	レコード「西川音頭」など	7	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く会」の実施	9/12
36	須田省一郎家文書「明治七年戌日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	10/7
37	森田永雲作囃子面	10	飯能市市民活動センター	展示	10/13～11/3
38	『郷土はんのう』綴	1	個人	調査	10/18
39	須田省一郎家文書「明治七年戌日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	10/22
40	レコード「正丸小唄」など	7	飯能の“みんな”保存会	「飯能の”みんな”を聴く集い」の実施	10/23
41	須田省一郎家文書「明治七年戌日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	10/24
42	須田省一郎家文書「嘉永元年戌申歳日記」など	5	個人	調査・研究(江戸時代末の村における治安活動の研究)	10/30
43	須田省一郎家文書「明治八年亥日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	11/5

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
44	レコード「あゝ振武軍」	1	飯能の“みんよう”保存会	「飯能の“みんよう”を聴くサロン」の実施	11/6
45	千歯こき	1	加治保育所	イネの脱穀体験	11/12～12/11
46	須田省一郎家文書「明治八年亥日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	11/13
47	レコード「吾野はたおり唄」など	2	飯能の“みんよう”保存会	「飯能の“みんよう”オールリクエスト」の実施	11/14
48	須田省一郎家文書「明治七年戌日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	11/14
49	中村正夫家文書「村入用諸掛覚帳(コピー)」	1	古文書を読む会	古文書学習教材の作成	11/18
50	都市計画課文書「[ムーミン谷建設了承に付き書状]」など	10	(株)NHKエンタープライズ	「ひるまえほっと」の制作	11/20
51	須田省一郎家文書「明治八年亥日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	11/21
52	カセットテープ「彩の国民謡紀行」など	2	飯能の“みんよう”保存会	「名栗をまっと知ろう」の準備	11/21
53	振武軍旗	1	渋沢平九郎プロジェクト実行委員会	「歌劇 幕臣・渋沢平九郎」公演の開催	11/27
54	写真「[大通り]」	1	黒田デザイン事務所	「飯能のコワ(商工会議所冊子)」の発行	11/27
55	写真「[入間川の製氷所]」など	15	飯能市教育委員会生涯学習課	文藝飯能41号の発行	11/30
56	女物給長着	1	飯能の“みんよう”保存会	「名栗をまっと知ろう」の実施	12/5
57	須田省一郎家文書「明治九年日記録」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	12/9
58	須田省一郎家文書「明治九年日記録」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	12/11
59	須田省一郎家文書「明治九年日記録」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	12/12
60	印ばんでん	1	飯能の“みんよう”保存会	「野辺の唄から～和楽器へ～そして洋楽器に」の実施	12/12
61	図書「精明村史稿」	1	個人	研究	12/23
62	須田省一郎家文書「明治九年日記録」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	12/26
63	須田省一郎家文書「明治十年丁丑日記録(コピー)」	1	古文書同好会	古文書学習の教材作成	1/7
64	原田雅義家文書「覚」など	103	個人	近世飯能・名栗地域の史料学的研究	1/8
65	須田省一郎家文書「明治九年日記録」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	1/9
66	須田省一郎家文書「明治十年丁丑日記録」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	1/14
67	ひな御殿など	2	絹甚運営委員会	雛飾り展の開催	1/14～3/11
68	須田省一郎家文書「明治十一年寅日記(コピー)」	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	1/21
69	写真「[大通り]」	1	テレビ朝日映像(株)	テレビ朝日「人生の楽園」の制作	1/29
70	須田省一郎家文書「明治十一年寅日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	2/2
71	臼田昭一家文書「飯能郷土の誌」など	2	個人	研究	2/7
72	須田省一郎家文書「明治十一年寅日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	2/13
73	写真「[筏流し]」	1	飯能ケーブルテレビ(株)	「飯能市森林啓発プロモーション動画」制作	2/19
74	須田省一郎家文書「明治十二年卯日記(コピー)」	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	2/20
75	須田省一郎家文書「明治十二年卯日記」	2	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	2/23
76	レコード「吾野はたおり唄」など	8	飯能の“みんよう”保存会	「飯能の“みんよう”を聞きチョット昔に思いをはせるサロン」の実施	2/27
77	振武軍旗など	3	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」の開催	3/3～6/4
78	須田省一郎家文書「明治十二年卯日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	3/13
79	写真「[飯能河原から見た覧山荘]」	1	(一社)奥むさし飯能観光協会	観光はんのうデジタルフォトコンテスト2021の広報	3/14
80	カセットテープ「飯能音頭2005」など	5	飯能の“みんよう”保存会	「南高麗のくらし、情景を知る」の実施	3/19
81	カセットテープ「飯能音頭2005」など	5	飯能の“みんよう”保存会	岩井堂観音についての事業の実施	3/27
82	写真「飯能戦争の砲弾」など	3	(宗)能仁寺	能仁寺と渋沢栄一との関係を伝えるパネルの作成	3/28
83	須田省一郎家文書「明治十三年辰日記(コピー)」	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	3/28
84	カセットテープ「飯能音頭2005」など	5	飯能の“みんよう”保存会	岩井堂観音についての事業の実施	3/30
85	須田省一郎家文書「明治十三年辰日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	3/30

合計 419点

## 施設の利用

### 学習研修室の利用率は例年並だが、その利用人数制限により、学習サークルは活動を再開できたところとそうでないところに二極化

飯能市立博物館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を博物館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

令和2年度は、特別展示室・図書室の利用申請はなかった。

学習研修室の利用状況を把握するため、目的により以下の4つに分類した。

- ①地域の歴史や地域文化に関わる学習活動を行っている団体、サークルなどへの貸出（「恒常的活動」）
- ②市内の小学生や市外からの団体の見学、視察の対応や資料の閲覧（「見学・閲覧」）
- ③市役所内各課の事業での使用（「他団体の主催事業等」）
- ④当館主催の講座・学習会、市民学芸員といった交流事業など（「当館の主催事業」）

これらの件数と人数を集計したのが下の表である。

これを見ると4月から5月にかけて2ヶ月ほどの休館期間があり、学習研修室の利用日数も減少しているにも関わらず、学習サークルによる恒常的な利用は件数、人数ともに前年度を上回っている。これは、6月2日の再開以降、学習研修室の利用の上限を定員の約半分の15人としたため、本来なら1回の開催で済むところを複数回に分けて実施していることによる。一方で、各団体ともサークル内での感染拡大を防ぐため6月は活動を見合わせていたところもあることや、飯能郷土史研究会や多聞の会などのように当館での活動を1度も行わなかった団体もあった。特に通常の活動の参加人数が15名を超えることの多い飯能郷土史研究会の場合は、活動の場を確保することが難しかったことも理由の1つである。つまり、当該年度はコロナ禍によって感染防止策を徹底するために活動回数を増やしたところと、ほとんど活動できなかったところとに二極化したといえることができる。当館の学習サークルは近年会員の高齢化によって活動が停滞する傾向にあり、そこにコロナ禍が到来し自主的なサークルの体力をさらに弱めていないか懸念される。

なお、当該年度の学習研修室の利用率（日単位）は60.0%であった。当該年度は、コロナ禍のため人の動きが抑制されており、学習サークルの利用のみならず、資料の閲覧や団体での見学に伴う利用件数も前年度の1/3ほどであった。非常事態ともいえる当該年度をこれまでと比較

して評価しても意味はないかもしれないが、今後の自主的な学習活動をどう支援していくのか、具体的な対策に取り組んでいかなければならない。

#### ◆学習研修室利用実績

利用種別	年度		平成30(2018)年度		令和元(2019)年度		令和2(2020)年度	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
①恒常的活動(学習サークル)	61	1,185	49	813	77	832		
②見学・閲覧	26	188	25	182	8	51		
③他団体の主催事業等	18	323	8	103	3	28		
小計	105	1,696	82	1,098	88	911		
④当館の主催事業	122	1,522	116	1,408	98	485		
合計	227	3,218	198	2,506	186	1,396		
年間利用日数	195日		198日		150日			

#### ◆令和2年度末現在で活動している学習サークル

団体名	会員数	活動日	目的	代表者名	設立
古文書同好会	20	毎月原則第2・第4土曜日	飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及び活字化	中里和夫	平成3(1991)年4月
多聞の会 (仏教美術学習会)	23	毎月第3木曜日	仏像・仏画・仏教建築など仏教及び仏教美術について広く学習する。	綾部光芳	平成6(1994)年11月
飯能郷土史研究会	63	年6回の例会	郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。	大野亮弘	昭和48(1973)年7月
飯能の“みんよう”保存会	26	不定期	民謡をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。	石井英子	平成8(1996)年
古文書を読む会	15	毎月原則第1・第3水曜日	飯能市内の古文書の解説をとおして歴史を知る。	朝日 正	令和元(2019)年12月

# レファレンスの対応



## Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

レファレンスサービスは個々の「学び」の欲求に応え、支援することである。それが利用者の満足感と当館への信頼性を高めていく。

### レファレンスの件数は、コロナ禍の影響で前年度比23%の減少 内容も観光が前年度の半数に減少し、当館の実績でも観光産業への影響が垣間見える

レファレンスとは、利用者からの様々な問合せのことで、利用者とのコミュニケーションを取りながら質問に回答することは博物館の教育サービスとして大きな意義があると言える。

令和2年度のレファレンスサービスの件数は、窓口・電話・E-mail及び「レファレンス対応記録票」(回答にあたって様々な資料を調べるなど時間がかかった事案に対する、その調査過程の記録)の件数を合わせて239件であった。ここ2年、300件を超えるレファレンスがあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、来館の機会が減り減少したと考えられる。また内容でみると観光が前年度14.9%から7.5%へと約半減しており、ここにもコロナ禍の影響をうかがうことができる。

問い合わせの手段では、窓口、電話・FAX・メールの順で割合が高いのは従来と変わらないが、電話・FAXとメールは、前年度比で約1.6倍となった。これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う臨時休館と、度重なる緊急事態宣言によって外出が抑制されていたことなどが

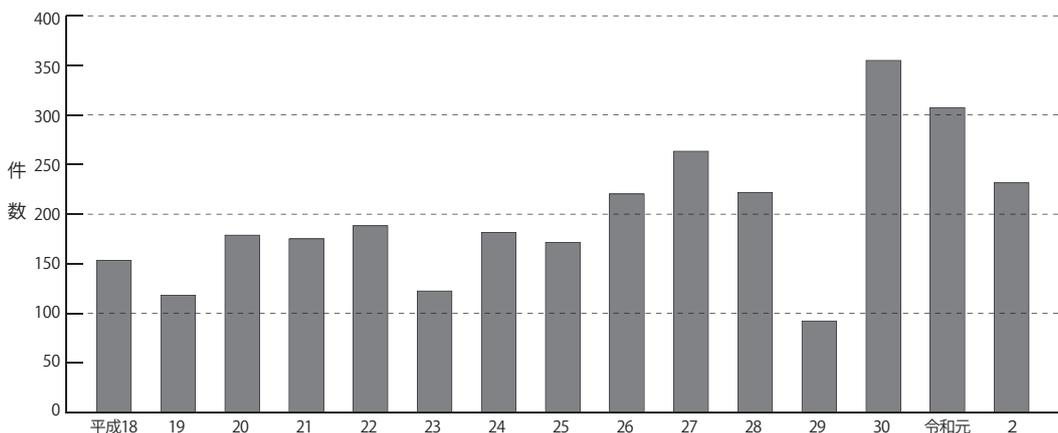
要因と考えられる。またメールの比率はまだ7.5%だが、一昨年度と比較すると4.5倍となっており、今後さらに増加していくと考えられる。

照会者ごとにここ数年の経緯を見てみると(下表)、小・中学生の利用が漸減傾向にある。平成27年度には17.5%であったものが、令和元年度には10%を切り、当年度はやや持ち直したものの、1割を切っている状況に変わりはない。その理由として、飯能GIGAスクールによりタブレット端末などが児童・生徒に貸与されたこともあり、よりインターネットを利用した調べ学習が進んでいることが予測される。そういった場面で利用してもらうためには、ウェブサイト上での、特に小学生向けコンテンツをより充実させていく必要がある。

飯能市立博物館レファレンス対応照会者別割合推移

	一般	小・中学生	高校・大学生	教師	職員	博物館	その他	不明
平成28年	76.4	14.1	2.0	0.5	5.5	0.5	0.5	0.5
平成29年	70.4	15.5	0.0	2.8	9.9	1.4	0.0	0.0
平成30年	78.0	13.4	1.2	1.2	5.6	0.0	0.3	0.3
令和元年	86.2	7.6	0.7	0.7	2.4	0.0	0.0	2.4
令和2年	80.8	8.4	0.4	1.7	6.7	1.3	0.0	0.8

平成18～令和2年度レファレンス対応件数の推移



# 講師派遣



## II 「学び」の入口となる博物館

## V 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館

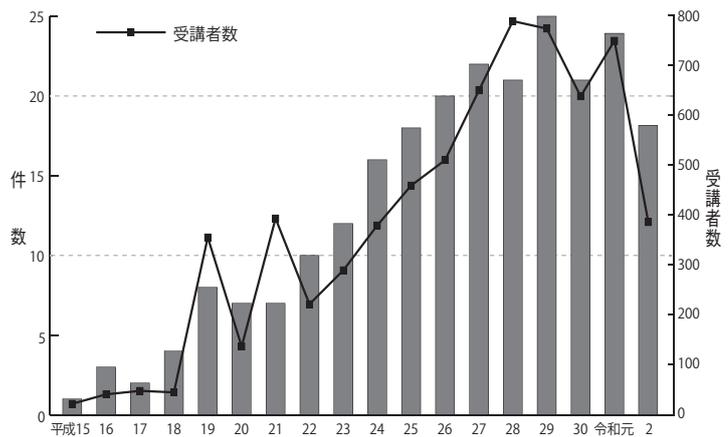
危機管理室と合同で行っている防災の出前講座は、市民の防災意識を高めることに貢献することで、歴史や文化を現在、そして未来へと生かしている。講師派遣は当館に来館したことのない市民に対し、当館の存在を知ってもらうよい機会ともなる。

### 緊急事態宣言発出による休館期間を除けば、ほぼ例年並みの実施件数を維持

当該年度は、件数、受講者数ともに実績値は平成24、25年頃の低いレベルであった。これもコロナ禍の中で、講師派遣依頼元の自治会や自主活動団体などが人の集まる機会をできるだけ少なくしたためである。実際、前年度は6月までに8件実施しているが、当該年度は4月7日から5月31日に緊急事態宣言が発出されていたため、その間は依頼がなかった。それ以後の依頼件数は例年並みであったといえることができる。

なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(45P)に掲載した。

平成15～令和2年の講師派遣件数・受講者数推移



### ◆令和2年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内容	対象者	人数	会場	担当学芸員
1	6/30(火)	13:00～14:50	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「職員として知っておくべき飯能の地理と歴史」	新規採用職員	15	富士見地区行政センター	尾崎
2	8/19(水)	14:00～15:30	飯能市教育センター	小・中学校初任者研修「市勢要覧を通して見る飯能市の歴史と地理」 ※オンラインで実施	市内小・中学校の教員初任者	17	飯能市教育センター	尾崎
3	8/25(火)	10:00～12:00	自治会連合会加治東支部	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	19	加治東地区行政センター	尾崎
4	8/30(日)	9:15～11:15	中山自治会	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	45	中山城会館	尾崎
5	9/6(日)	9:45～11:10	双柳・浅間・新光自主防災会連絡協議会	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	35	双柳地区行政センター	尾崎
6	9/21(月)	18:30～19:42	一丁目町内自主防災会	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	30	一丁目俱樂部	尾崎
7	10/16(金)	9:20～10:40	埼玉県高等学校生物研究会秋季現地調査会	天覧山周辺の動植物についての解説	会員	31	天覧山周辺	長谷川
8	11/6(金)	10:00～11:15	飯能の“みんなよう”保存会	出前講座「飯能戦争について」	参加者	15	当館学習研修室	尾崎
9	11/8(日)	10:00～12:00	自治会連合会美杉台支部	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	25	美杉台地区行政センター	尾崎
10	11/11(水)	13:30～15:00	精明郷土史研究会・双柳公民館	郷土史講座「飯能戦争について」	参加者	30	双柳地区行政センター	尾崎
11	11/14(土)	9:30～11:58	飯能中央公民館	飯能を知るウォーク「天覧山の秋の植物を見に行こう！」	講座参加者	10	天覧山周辺	長谷川
12	11/19(木)	10:30～12:00	飯能市エコツーリズム市民ガイドの会	出前講座「高山不動について」	会員	11	当館学習研修室	金澤
13	11/28(土)	10:00～11:30	第二区民児協	出前講座「土砂災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	21	中央地区行政センター	金澤
14	11/29(日)	10:00～12:15	自治会連合会名栗支部	出前講座「土砂災害に備える」(危機管理室と合同)	会員	15	名栗地区行政センター	尾崎
15	12/17(木)	10:40～11:55	飯能市エコツーリズム市民ガイドの会	出前講座「飯能のまちの歴史」	会員	10	富士見地区行政センター	尾崎
16	12/19(土)	10:30～11:30	飯能市立図書館友の会	研修会「中山信吉について」	会員ほか	23	飯能市立図書館	金澤
17	2/15(月)	13:35～15:10	飯能商工会議所女性会	出前講座「飯能と渋沢栄一」	会員	22	飯能商工会議所	尾崎
18	2/18(木)	10:35～11:50	飯能市エコツーリズム市民ガイドの会	出前講座「武蔵野鉄道」	会員	10	富士見地区行政センター	尾崎

合計のべ人数 384人



## Ⅲ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

博物館のコンテンツは資料（モノ）である。博物館が豊富に資料を収集し、保管することは、資料の比較研究を可能にし、博物館自体の価値を高めることでもある。

## 寄 贈 資 料

令和2年度に寄贈を受けたのは下記の50件である。

また、本市域の歴史や文化に関わる資史料のうち、特に貴重なものの劣化・散逸を防ぎ、後世に

伝えていくため、所有権を所蔵者に残したまま当館でお預かりする寄託も行っている。当該年度は新たに1件を受け入れ、受託資料は61件となった。

### ◆令和2年度寄贈資料一覧

(敬称略)

番号	資 料 名	点数	寄贈者名
1	古文書、生絹など	一式	平沼 伸雄
2	手紙、軍隊手帳など	一式	加藤 敏子
3	古文書	74点	平沼 尚
4	『郷土研究資料』(第二輯)・千家元麿『随筆 詩・美・自然』	2点	大野 正男
5	句集「鹿洲庵宗匠乃御撰」	1点	高木 久子
6	リーフレット「温泉クーポン 八塩温泉 黒山温泉」など	8点	佐藤 美知男
7	古文書「受傷証明書」、日章旗など	9点	大野 晴久
8	稚児装束・天童装束	2点	楞嚴寺 竹内正之
9	ひな人形・五月人形	15点	落合 登美子
10	DVD「飯能現代ご当地資料集第2版」	1点	加藤 寛之
11	写真「水道山」(紙焼き)	1点	(個人)
12	加治村全図など	4点	鈴木 恒子
13	DVD「聞き語り 明治～大正～昭和 河原町とふみ町通り」	1点	松下明正記念飯能・日高映像塾
14	コテ	1点	吉澤 光
15	面「ひよっとこ」	1点	中野 功
16	西武秩父線開通記念切符	2点	加藤 保夫
17	田中鎮次家文書田中かく関係史料写真	69枚	佐藤 繁
18	古文書	8箱	飯能市役所資産税課
19	図書『みぢかな樹木のえほん』	1点	(個人)
20	図書『東谷津レポート第一部』(東谷津レポートその1～その65)など	6点	(個人)
21	古文書「明治十一年寅九月管下市街地之價表」	1点	大野 哲夫
22	学校日誌	80点	飯能市立精明小学校
23	古文書、出征のぼりなど	一式	吉田 晃延
24	大野嘉太郎の書	1点	大野 晴久
25	本橋義治従軍関係書類など	一式	楞嚴寺 竹内正之
26	古文書「成田講者連名簿」、弓矢・オミキスズなど	一式	新井 光子

番号	資料名	点数	寄贈者名
27	図書『株式会社丸広百貨店創立50周年記念誌』など	3点	(個人)
28	福德寺阿弥陀堂厨子使用板など	2点	飯能市林業センター管理 西川広域森林組合
29	CD『『飯能の”みんよう”』収録曲音声データ』	4点	飯能の”みんよう”保存会
30	台紙付写真、古文書など	一式	佐野 和弘
31	CD「薩摩派説経節十代目薩摩若太夫集」	1点	説経節の会
32	古文書「入置申一札之事」	1点	大野 哲夫
33	図書『銀の糸と二つの十字架』	1点	杉崎 一雄
34	だるまストーブ、空撮写真など	36点	飯能市立飯能第一小学校
35	図書『ふるさとの渋沢栄一』	2冊	新井 慎一
36	CD「(高山の獅子舞音声)」、会報「奥武蔵」(コピー)	4点	奥武蔵研究会 小泉重光
37	図書『トロの森をつくる』	1点	対馬 良一
38	看板「飯能織物買継商組合員」	1点	大野 哲夫
39	絵葉書「飯能名所 新版八枚組」	1点	加藤 智司
40	市立病院写真パネル	1点	飯能市訪問看護ステーションほほえみ
41	手ぬぐい、地図「奥武蔵ハイキング」など	5点	秋田 芳浩
42	手ぬぐい	1点	宮崎 里子
43	図書『川越の自然』	1点	かわごえ環境ネット
44	図書『いしがきのすきまに』	1点	かわしま はるこ
45	『飯能市標準地写真集(平成元年3月)』・『標準宅地写真集(平成5年3月)』	2点	飯能市役所資産税課
46	10銭硬貨・5銭硬貨など	44点	(団体)
47	図書『秩父滝沢ダム水没地域総合調査報告書 上巻自然編』・『同 下巻人文編』など	2点	(個人)
48	刀 銘(表)武州吾野住小沢正寿作/(裏)應田中定雄氏寫昭和五十三年春	1点	田中 定雄
49	卒業記念寄書・蔵原伸二郎名栗中学校校歌作詞原稿など	一式	飯能市立名栗中学校
50	蔵原伸二郎関係写真	5点	田中 純司

## 購入資料

令和2年度に下記の資料を購入した。

A (資料名) 絵葉書「名栗八景」など4件(28枚)

(内訳) 「名栗八景」(8枚)

たて14.1×よこ9.1cm

「飯能 第一輯」(6枚、袋共)

たて14.0×よこ8.8cm

「飯能 第二輯」(6枚、袋共)

たて14.2×よこ8.8cm

「吾野名勝絵はがき」(6枚、袋共)

たて14.1×よこ8.9cm



「吾野名勝絵はがき」



### Ⅲ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

収集した資料を整理し、収蔵資料目録に記載して初めて資料の存在が社会に知られることになる。また、地域の視点で価値づけられた資料を市民共有の財産として後世に伝えていくには、その保存環境を良好に維持し、修復することが求められる。

## 整理（情報化）

**民俗資料の再整理を371点、古文書と写真は合わせて538点の資料カードを作成！  
少しずつではあるが着実に推進**

資料整理とは、資料について価値ある情報を抽出し博物館資料として利用可能な状態にする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。これを経ないと博物館資料として活用できなく、長期的な視野でみると活動が停滞することとなるので、当館ではここ数年、毎年重点施策のひとつに収蔵資料の整理を挙げ、整理点数を達成指標として積極的に取り組んでいる（15ページ「令和2年度の重点施策とその評価」参照）。

当館では、紙媒体の資料カードを基本としてきたが、平成29年10月より早稲田システム開発株式会社が提供するクラウド型収蔵品管理システム「I.B.Museum Saas」を導入した。このデータベースには絵画資料426点など合わせて2,961点を登録している（令和3年3月末現在）。民具、古文書、写真資料については、今後も紙媒体の資料カードを基本としていくが、それ以外のものについてはこのシステムで管理していくことになる。

また、当館は飯能河原・天覧山周辺の自然に関

するビジターセンターとしての機能もあわせもつが、自然標本は原則収集しないことになっており、ビジターセンターとしての資料は写真が中心となる。これについても収蔵品管理システムを活用することで今後貸し出し等の情報提供に関する利用を広げていく予定である。

#### ◆令和2年度文書整理実績

史料群名	整理点数	新・再	受入年度
大河原文子家(飯能・購入)	10	購	平成27(2015)
令和元年度購入C文書	1	購	令和元(2019)
出所不明	1	新	令和2(2020)
大野哲夫氏蒐集	2	新	令和2(2020)
平沼優家(久下分)	1	新	令和2(2020)
半田実家(中居)	2	再	平成4(1992)
大野貞家(上井上村)	8	再	
東吾野村	8	再	昭和51(1976)・54・60
佐野国太郎家(上名栗・13区)	38	再	
安井智幸氏蒐集	76	新	平成30(2018)
東吾野小学校(小林拾三宛書簡)	17	新	平成30(2018)
須田幸一家(下赤工)	27	新	令和元(2019)
吉田昭二家(上名栗)	4	新	
合計	195		

#### ◆資料の概要とカード作成もしくは目録登録済み資料点数

種別	資料の概要	収蔵点数
民具 (民俗資料)	人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具で、埼玉県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」などがある。他の分類に属さない資料もここに含めている。	6,173
古文書	紙に文字、記号、画像などが記録されている資料、典籍含む。ただし護符は民具に分類されている。	52,766
古写真	台紙付写真、紙焼き写真。個人や機関所蔵写真の複写物も含む。	7,132
絵画	軸装、額、屏風などに仕立てられた日本画及び白木正一・早瀬龍江・富山芳男・内田晃・小島喜八郎など本市に在住もしくはゆかりのある画家の油彩、デッサンなど	447
工芸	飯能焼(飯能市指定文化財双木本家飯能焼コレクションなど)、刀剣、金工など	278
文学	詩人蔵原伸二郎、俳人石田波郷らの直筆短冊、軸装など	29
考古	飯能焼原窯表採資料、板碑など	1,764
映像	本市の機関が製作した映像作品のほか当館の調査や事業の記録映像など	286
音声	レコード及びテープ、CD	1,014
図書	他の博物館が発行した図録・報告書・要覧のほか自治体史、本市の行政刊行物など。図書室に開架している一般書も含む。	18,629
合計		88,518

\*収蔵資料点数は、令和3年3月末現在のカード作成もしくは目録登録済みの点数。「絵画」は、絵画と古美術、「音声」は、レコードとテープ、CDを合わせた点数である。

当該年度の成果であるが、民具は、新収蔵資料68点の整理を行った。また平成28年度より一般収蔵庫内の資料の確認と棚の清掃及びデジタルカメラでの資料撮影を開始しているが、今年度は200点以上の目標値に対し、371点が実施することができた。

古文書は、前ページの表にあるとおり近年受け

入れたものを中心に13の史料群、195点を整理した。目標値は300点としていたもので、それには及ばなかった。

また古写真については、343点のカードを作成した。目標値20点としていたので大きく上回った。

## ●資料の保全

### ①映像資料のメディア変換

前年度に続き、VHSやベータなど磁気テープに記録された映像記録10本のデジタル化(メディア変換)を、株式会社金聖堂情報システムに委託して行内った。訳は右表のとおりである。

利用と保存の両面に配慮し、閲覧用・保存用DVDを別々に作成し、保存用はバックアップ用としてハードディスクにも書き込んだ。

### ②古文書(川寺村絵図)修復

当該年度修復したものは、天保5(1834)年の川寺村は図である。大きさは148×は75cmの大判で、墨書きのはか黄色、茶色、緑色などの色彩が施され、全面に裏打ちがなはれている。全体的に虫損と破れがあり、折り目の交差する箇所には大きな欠損が見られる。状態から補修は最低限に留め、安全な取扱いに支障のある箇所のみ繕うこととした。

まず最初に表面に付着した塵埃を刷毛で丁寧に除去したあと、本紙の継ぎ目の剥がれている部分に糊を使って継ぎ直した。また折り筋や大きな虫損箇所、亀裂部分は和紙及び正麩糊とメチルセルロースの混合糊で繕った。また位置が同定できる紙片はできる限り貼り戻し、全体にしわを伸ばしながら整形した。修復は(有)東京修復保存センターに委託して行った。

### ○令和2年度デジタル化映像資料一覧

No.	タイトル	ビデオ種類
1	テレビ埼玉「ごごはPiPoPa」(絵馬展)	VHS
2	昔遊びのすすめ「高麗の里の独楽展」	VHS
3	「猫・ねずみ絵ぞうし展」講演会「十二支の内外～猫・鼠・人～」	VHS
4	講演会「碑 一連帯のエネルギー」	S-VHS
5	はんのう文化フォーラムvol.1	S-VHS
6	はんのう文化フォーラムvol.2	S-VHS
7	飯能焼シンポジウムNo.1	VHS
8	飯能焼シンポジウムNo.2	VHS
9	飯能戦争	VHS
10	名栗川流域の金属文化と伝承	VHS

また工芸品のうち、収蔵・寄託されている日本刀は、年に1回油をぬぐって錆やキズなどがないかを確認し、再び油をひく作業を行っている。当該年度は3月6日に実施した。



修復前：折り筋が交差する部分が欠損



継ぎ目の剥がれを直す作業(東京修復保存センター)



川寺村絵図受け入れ時の調査風景

## 保存

### ●新収蔵資料の燻蒸

当館では、新規に収集した資料を対象にビニールシートで覆う被覆燻蒸を年1回実施している。場所は荷解室である。

令和2年度は、6月30日(火)午前11時30分から投薬を開始し、7月2日(木)午前9時30分までの46時間燻蒸処理をし、その後排気を行った。使用薬剤はエキヒュームSで、和光理化に委託して行わ

れた。このため6月30日(火)から7月4日(土)までを臨時休館とした。

また、名栗民俗資料保管庫(旧名栗村森林組合事務所)では、和光理化に委託してブンガノンを用いての殺虫燻蒸を行った。9月18日(金)午前10時から噴霧を開始し、4時間充填放置したのち排気を行い、午後3時に終了した。

### ●博物館・名栗村史史料保管室の環境調査

当館では、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象となるのは、1階が整理室・荷解室・収蔵庫前室・特別収蔵庫・一般収蔵庫、2階が歴史展示室・特別展示室・「身近な自然」コーナー・展示ホール・管理室・学芸研究室・図書室・学習研修室で、昆虫生息調査55ヶ所(歩行性昆虫トラップ48、飛翔性昆虫トラップ7)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。また名栗地区行政センター2階にある名栗村史史料保管室では、昆虫生息調査12ヶ所(歩行性昆虫トラップ10・飛翔性昆虫トラップ2)、空中浮遊菌調査2ヶ所、表面付着菌調査が2ヶ所である。令和2年度は1回目を6月4日(木)から6月25日(木)まで、2回目を9月4日(金)から9月24日(木)までの期間で実施した。

#### ①博物館

1回目の調査では、ステッキートラップによりチャタテムシが荷解室で、飛翔性昆虫用フェロモントラップによりタバコシバンムシが「身近な自然」コーナーで、メイガが「身近な自然」コーナー、荷解室、歴史展示室で確認された。またゴキブリも歴史展示室などで捕獲されたがいずれも少数であった。

2回目では、チャタテムシが整理室、一般収蔵庫1階奥でこれまでより多く捕獲された。そのほかタバコシバンムシが収蔵庫前室などで、また荷解室ではジンサンシバンムシ、タバコシバンムシも確認されたがいずれも極少数であった。

#### ②名栗村史史料保管室・名栗くらしの展示室

名栗地区行政センターにあるこの2室では、史料保管室でチャタテムシが1回目、2回目ともに確認されたが、名栗くらしの展示室では害虫は捕獲されなかった。

### ●歴史公文書の収集と保存

当館では、飯能市文書管理規則第34条及び飯能市教育委員会文書管理規程第2条に基づき、廃棄対象となった公文書のうち、歴史資料として重要と評価した文書の収集を行っている。

この作業は、これまで前年度末に廃棄決定され原課から集められた文書ファイルを、委託業者が廃棄文書目録と照合した後、別室に移動させそれを年度末の3月に行っていた。しかし、これだと移動作業の過程で廃棄文書ファイルの入った箱が課ごとではなく、バラバラな状態で積まれてしまう。そのため、廃棄文書目録との照合に手間取ることや、評価選別し終わった文書箱を別の場所に

新たに積み直す必要があるなど効率が悪かった。

そこで、文書管理を担当する庶務課の協力を得て、6月に委託業者による廃棄文書目録の照合作業を終了したすぐ後、その場所で評価・選別を行うこととした。これだと廃棄文書の箱が原課ごとにまとまっており、文書の確認が容易となる。

当該年度は、評価・選別作業を6月6日(土)から6月16日(火)にかけて実施し、のべ9日間で66箱分(L4箱・S62箱)を収集した。廃棄文書に対する比率は3.7%であった。選別した文書は、旧図書館の地下書庫へ移動させた。

# 調査研究



Ⅲ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館

Ⅴ 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館

資料や地域についての継続的な調査研究が新たな地域の魅力発見につながる。確かな根拠に裏付けられた調査研究成果とその的確な発信こそが博物館に対する信頼を支える。

## 特別展に関する調査

令和2年度は、資料寄贈に関わるものとして昔の生活道具や古文書などの調査を13件実施した。また、円福寺(赤沢)の堂宇修繕に伴い取り外された絵馬の調査や軍事郵便、渋沢栄一関係資料の調査など地域の歴史や文化に関わる調査を10件実施した。

その他、令和2年度特別展「山里に咲いた芸」及び令和3年度特別展「近世の在方市」(仮)のため、以下の調査を行った。



佐野敏夫家収蔵資料収集調査

- 5/26 落合家(虎秀・生涯学習課と合同)
- 7/2 国立国会図書館(千代田区)
- 7/17 落合家(虎秀)
- 7/31 加藤家(虎秀)
- 8/10 落合家(虎秀)
- 8/13 八王子市郷土資料館(八王子市)
- 8/18 国立国会図書館(千代田区)
- 8/26 埼玉県立歴史と民俗の博物館(さいたま市)
- 9/4 落合家(虎秀)
- 9/20 落合家(虎秀)



特別展「山里に咲いた芸」調査(5/22)

### ○特別展「山里に咲いた芸」調査

(令和元年度)

- 6/22 落合家(虎秀)
- 6/28 八王子市郷土資料館(八王子市)
- 11/29 生涯学習課と落合家片瀬人形調査(当館)
- 12/5 生涯学習課と落合家片瀬人形調査(当館)
- 12/19 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館(新宿区)
- 2/26 落合家(虎秀)
- 3/25 三代目若松若太夫師と落合家片瀬人形調査(当館)

(令和2年度)

- 5/14 落合家(虎秀)
- 5/22 落合家(虎秀・生涯学習課と合同)

### ○令和3年度特別展「近世の在方市」調査

- 9/10 小川町役場(小川町)
- 12/4 埼玉県立文書館(さいたま市)
- 12/23 榛名歴史民俗資料館(高崎市)
- 1/15 所沢市生涯学習センターふるさと研究(所沢市)
- 1/19 埼玉県立文書館(さいたま市)
- 3/10 入間市博物館(入間市)

## 古文書詳細調査

当館では、平成16年度から21年度にかけて飯能市教育委員会で行われた古文書所在確認調査を引き継ぎ、その補足調査や、当館で所蔵もしくは受託している史料の翻刻や内容分析及び特定のテーマを設定して行った関係史料の調査を行ってきた。

令和2年度は、新たに若松派説経節の家元としても活躍されるなど説経節に造詣の深い小峰孝男氏(元東村山ふるさと歴史館学芸員)に依頼し、借用資料である高麗郡虎秀村落合登美子家文書の整

理及び内容分析を行った。落合家文書は、説経節の太夫また人形芝居の座元であった落合家に伝わる史料群で、説経節の台本や説経節や芸能関係者からの書状なども含まれている。説経節に関する資・史料は、「落合家人形芝居及び説経節関連資料」として飯能市の有形民俗文化財に指定されている。

なお、落合家文書の調査は、次年度も継続して実施する予定である。

## 自然調査

当館では、自然情報を発信するために、天覧山・多峯主山及び飯能河原の範囲で季節変化を確認する定期調査を行っている。そのほか、過去に記録が少ない植物や各事業のコースについては別途、状況確認のため下見調査をした。

定期調査の頻度はNPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会が実施しているモニタリングサイト1000里地調査の参加を含めて、1ヶ月に2回程度を目安とした。



自然調査風景

### ◆令和2年度自然調査一覧

回	日にち	コース	目的
1	4/1	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
2	4/7	B天覧入り～B天覧入り	自然観察会
3	4/21	D本郷入り～F御嶽入り	定期
4	5/2	a飯能河原	植物(秋・冬編)
5	5/3	A諏訪沢入り～B谷津田	定期
6	5/17	D本郷入り～E本郷・御嶽入り境	定期
7	5/27	A諏訪沢入り～C天覧・本郷入り境	植物(秋・冬編)
8	5/30	B天覧入り～A東谷津トラスト地	埼玉県未記録種の調査
9	5/31	a飯能河原、B天覧入り～A東谷津トラスト地	定期 埼玉県未記録種の調査
10	6/1	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
11	6/5	A諏訪沢入り～B谷津田	埼玉県未記録種の調査
12	6/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
13	6/14	B天覧入り～B谷津田	モニタリング1000(ホテル)
14	6/26	F御嶽入り～C天覧・本郷入り境	定期
15	7/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
16	7/23	F御嶽入り～B谷津田	定期
17	7/26	B天覧入り～B谷津田	自然観察会
18	8/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
19	8/16	a飯能河原	定期
20	8/29	D本郷入り～A東谷津トラスト地	定期
21	9/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
22	9/22	a飯能河原、C天覧・本郷入り境～D本郷入り	出張授業・希少種確認
23	10/1	D本郷入り～E本郷・御嶽入り境、B天覧入り	植物(秋・冬編)
24	10/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
25	10/20	d谷津田	自然講座
26	10/30	A諏訪沢入り～B谷津田	定期
27	11/6	A諏訪沢入り～B谷津田	出前講座
28	11/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
29	12/3	B天覧入り～A東谷津トラスト地	自然観察会
30	12/7	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
31	1/7	F御嶽入り～B谷津田	定期
32	1/15	a飯能河原	自然観察会
33	1/18	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
34	2/3	E本郷・御嶽入り境～D本郷入り	定期
35	2/8	B天覧入り～A神久山方面	モニタリング1000(鳥)
36	3/1	A諏訪沢入り～C天覧・本郷入り境	定期
37	3/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000

※「植物」は『天覧山・多峯主山の植物』発行に伴うもの。調査区は『きつとすレポート』第1号57P参照

調査対象は主に植物相(維管束植物)とし、その開花・結実情報を集めた。

調査方法は、モニタリングサイト1000里地調査マニュアル植物相(Ver.3.1)で使用しているトランセクト法である。調査コースは、A諏訪入り、B天覧入り、C天覧・本郷入り境、D本郷入り、E本郷・御嶽入り境、F御嶽入りの6つとし、さらに植生や景観の違いから区分けした。区ごとに植物相を調査用紙に記入し、成長段階(蕾・花・花終わり・実・種)を記録した。

また、確認した種は全体や部位の拡大などその種の特徴がわかるように写真撮影を行った。

当該年度は57Pの表のとおり37回実施した。な

おモニタリング1000里地調査の対象は、植物・鳥類・ホタル・チョウである。



自然調査風景

## 研究紀要第2号(通巻10号)の刊行

研究紀要は地域の歴史・民俗・考古及び当館周辺の自然に関する調査・研究の成果等をまとめたもので、当館では隔年の発行となっている。執筆は当館学芸員だけでなく、教育委員会生涯学習課文化財担当職員や当館の収蔵資料の調査を行っている研究者などにも広く依頼している。

研究紀要第2号は、郷土館時代も含めると通巻で10号となる記念すべきものである。研究紀要には平成13年3月に発行された第1号から本号まで

に38本の研究成果を収録しているが、そのうち29件が資料研究、6件が教育活動に関わるものである。

近年は収録した論考のうち1本をホームページにアップし、当館の調査研究成果が少しでも多くの人々の目に触れるように努力している。今後も当館の研究成果が広く利用されるように工夫を重ねていく必要がある。

### ◆飯能市立博物館研究紀要第2号(通巻10号)の内容

タイトル	著者	ページ
地域史料としての台紙付写真活用のためにー写真館ロゴマークによる写真撮影年代の復元・最新版ー	尾崎泰弘(当館館長)	5～19
地域博物館における資料修復についての一考察ー飯能市立博物館令和元年度資料修復の事例からー	金澤花陽乃(当館学芸員)	20～26
自然観察会における新型コロナウイルス感染症対策について	長谷川裕子(当館学芸員)	27～34
調査報告『天覧山・多峯主山の植物』刊行に関する調査について	本橋綾香(当館会計年度任用職員)	35～41
資料紹介「小林拾三宛軍事郵便」	金澤花陽乃(当館学芸員)	42～59



## I 新たな魅力に出会える博物館

当館の活動成果として生み出された地域の新たな魅力は、インターネットなどを利用していつでも広く発信されることで、人々の知的好奇心に応えていくことができる。

## ホームページ・ソーシャルメディア(SNS)

ホームページのアクセス数は漸減傾向。Twitterは当館独自のアカウントの運用を開始

### ○ホームページ

当該年度の特徴的な活動としては、「おうちミュージアム」への参加が挙げられる。「おうちミュージアム」とは、新型コロナウイルス感染症の影響により全国の学校や保育園・幼稚園が休校・休園となったことをきっかけに、北海道博物館が「おうちでミュージアムをたのしもう」という趣旨で発案した企画である。この企画に賛同する全国の博物館が参加し、家で楽しめる様々なコンテンツをそれぞれのホームページなどから配信している。当館は令和2年6月から参加し、「おうちできっとす」と題して変体仮名(くずし字)を使ったクロスワード、歴史・民俗・自然の各分野にまつわる塗り絵、クモの巣を題材にしたワークシートをアップした。休校・休園が解除された後も同企画は継続しており、当館も引き続きコンテンツを充実させていく予定である。

その他、当該年度は以下の2点についてホームページを改変した。1点目は、カテゴリの増設と、それに伴うトップページ上部タブの整理・追加である。これにより特設ページをはじめとした各ページの階層が浅くなり、閲覧者が各コンテンツへより容易にアクセスできるようになった。

2点目は、刊行物案内等既存のページの簡素化である。ページの構成を単純なものにすることで

更新作業にかかる手間を減らした。作業が簡単になった分、従来と比べて見栄えは若干劣るようになったが、これまでほぼ1人で行っていた更新作業を職員の誰もがすぐに行えるようになり、また、最新の情報も即時反映させることができるようになった。

なお、リニューアルオープン後のトップページへのアクセス件数は漸減傾向にある(下表)。

◆平成30年～令和2年度 月別ホームページアクセス件数

年度 月	平成30(2018)		令和元(2019)		令和2(2020)	
	閲覧数	割合	閲覧数	割合	閲覧数	割合
4月	3,191	16.5%	1,360	7.2%	838	5.0%
5月	1,864	9.7%	1,361	7.2%	1,216	7.3%
6月	1,519	7.9%	1,326	7.0%	1,479	8.8%
7月	1,947	10.1%	2,004	10.6%	1,619	9.7%
8月	2,022	10.5%	2,633	13.9%	1,734	10.4%
9月	1,283	6.6%	1,650	8.7%	1,397	8.3%
10月	1,441	7.5%	2,267	12.0%	1,442	8.6%
11月	1,407	7.3%	1,729	9.1%	1,508	9.0%
12月	1,025	5.3%	1,032	5.4%	1,168	7.0%
1月	1,001	5.2%	974	5.1%	1,458	8.7%
2月	1,205	6.2%	1,140	6.0%	1,447	8.6%
3月	1,393	7.2%	1,474	7.8%	1,445	8.6%
合計	19,298	100%	18,950	100%	16,751	100%
1ヶ月平均	1,608.2		1,579.2		1,395.9	
1日平均	52.9		51.8		45.8	

### ○ソーシャルメディア

#### ①Twitter

当館ではこれまで飯能市の公式アカウントを利用する形でツイートしていた。しかし、館の独自アカウントを作ったほうが良いのではないかという意見が聞かれるようになり、前年度より独自ア

カウントの必要性について検討を進めてきた。その中で、独自アカウントを持つメリットについては「当館を個別の施設として認識してもらえる」、「市の公式アカウントでは伝えない細かな情報も発信でき、館としての個性を出せる」、「飯能市に興

味がある人だけではなく博物館を好きな層にアプローチできる」といった点が挙げられた。デメリットとしては、「既に多くのフォロワーを持つ市の公式アカウントから離れることで、情報が届く範囲が狭まる」といった点が挙げられたが、概ね独自アカウントを持った方が良いということで館内の意見は一致した。また、博物館によるTwitter運用について博物館実習生からも意見を募ったところ、「若い人は自治体そのものには興味が無いため博物館の独自アカウントがあったほうが見る気になる」というような意見が聞かれた。このような経緯を踏まえて本市の情報発信を担当している情報戦略課とも協議を進めた結果、11月より独自アカウントの運用を始めることとなった。

運用に際して、まず基本的な規約とツイート内容を定めることとした。規約に関しては、既にアカウントを持っている他博物館のものなどを参考にしつつ、リプライの有無や著作権等について定めた。次に、内容については、展示やイベントの情報を発信するほか、当館が持つビジターセンター的側面も広く知ってもらうため、飯能市の天気予報を天覧山や飯能河原の写真と共に開館日は毎朝ツイートすることとした。また、今月の一品や「That'sきつとす」の更新、そして常設展(歴史展示室)の展示替えを行ったタイミングでもツイートすることを定め、定期的な発信の枠組みを作った。

令和2年度末時点でのフォロワー数は約120人であり、5000人を超える飯能市公式アカウントと比べると圧倒的に少ない。その内訳もハイカーや飯能そのものが好きというような方が多く、当初目指していた博物館好き・歴史好きといった層にはまだまだ届いていないのが現状である。また、宣伝効果についてもどれほどあるのか今のところは不透明である。

ただし、まだ開設から半年と日も浅く、試行錯誤しながら運用している状態でもある。今後より広い層へ情報を届け、当館の存在を知ってもらうためにも、定期的に状況を分析しながら改善を続けていく必要がある。

## ②Facebook

当館独自のアカウントを使って情報発信を行っている。事業や休館情報のほか、館の日常を投稿することもある。

## ◆平成30～令和2年度 Facebook内容別件数内訳

分類	平成30(2018)		令和元(2019)		令和2(2020)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
事業報告	32	60.4%	36	46.8%	7	21.2%
案内	14	26.4%	31	40.3%	24	72.7%
博物館活動	5	9.4%	7	9.1%	1	3.0%
資料情報	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%
学術情報	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%
その他	2	3.8%	1	1.3%	1	3.0%
合計	53	100%	77	100%	33	100%

Facebookについては昨年度と比べて投稿内容など大きく変えたところなどは無かった。これは現在の当館の運用に問題が無いというわけではなく、今後の方向性を定められていないため、というのが実情である。また、今年度は新型コロナウイルス感染症により中止となった事業も多く、改変するのが難しかったという側面もある。

当館の情報発信におけるFacebookの位置づけや方向性については、昨年度から課題となっていることでもある。この状態が続いてしまうことが無いよう、早急に検討し改善していく必要がある。



飯能市のツイッター・公式アカウント  
2020年11月8日に開設

# That's! きつとす

「That's! きつとす」は、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行している番組表にスペースをいただき、地域の歴史や文化、自然を紹介しているものである。ところが同誌が電子媒体への移行に伴い令和2年6月をもって休刊となった。平成13（2001）年からほぼ毎月掲載を重ね20年間にわたり216件の歴史・文化、自然情報などを発信してきたことになる。このような機会を与えてくださった飯能ケーブルテレビ株式会社には心より感謝申し上げたい。

そして「That's! きつとす」は、令和2年7月より、場所を替えて昭和25（1950）年創刊の歴史ある地方紙「文化新聞」上にて掲載することになった。これは同紙への寄稿を求められたため、文字数は1,000字以内、写真3枚以内という枠組みである。

内容は当館職員による資料研究の成果や地域の歴史事象のほか、資料の整理や調査など日常の活動の中で気づいたこと、感じたことなどで、当館にとっては身近な話題を定期的に発信できる貴重

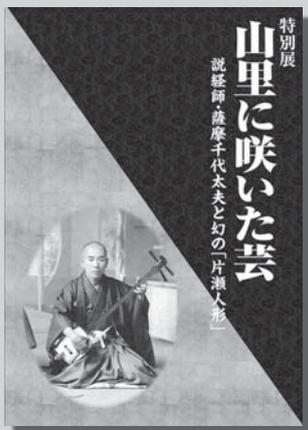
な機会となっている。

なお、この内容は当館のホームページにもアップしている。当該年度の掲載内容は下表のとおりである。

令和2年度「That's! きつとす」掲載記事一覧

月	内 容	担当 学芸員
4月	江戸時代の彗星	金澤
5月	天覧山・多峯主山の代表的な夏鳥 キビタキ	長谷川
6月	20年間ありがとうございました	尾崎
7月	厄病除けの神様・牛頭天王	引間
8月	タデの仲間を紹介します	長谷川
9月	歴史に学ぶ災害 ～関東大震災～	金澤
10月	天覧山周辺に見るとんぐりたち	本橋
11月	幕末に戦場となった双柳	尾崎
12月	冬越しする虫たち	長谷川
1月	暮らしを支えた牛たち ー飯能の牛ー	引間
2月	幕末を駆け抜けた小川香魚	金澤
3月	物語と人形 ～ミニ展示「ひなまつり」から～	引間

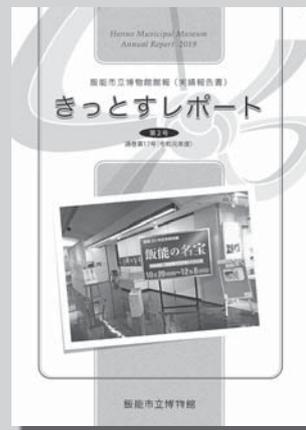
# 刊 行 図 書



特別展図録  
「山里に咲いた芸」  
A4判56P(令和2年10月18日発行)



飯能市立博物館  
研究紀要第2号(通巻10号)  
A4判116P(令和3年3月29日発行)



飯能市立博物館館報  
「きつとすレポート」第2号  
A4判76P(令和2年11月10日発行)

# 事業支援



## Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

各機関、団体による地域の歴史・文化資源を活用した事業は、地域課題の解決をめざすものでもあり、それがさらなる「学び」へとつながっていく。

### コロナ禍ながら、大河ドラマに関連する事業など5件を支援！

平成28(2016)年度から令和7(2025)年度までの飯能市第5次総合振興計画において、まちづくりの基本理念の1つとして「魅力・交流・賑わい創造と経済の好循環」が掲げられ、「古くから培われてきた本市の歴史や伝統、文化などの地域資源を、本市の単なる特性として継承してだけでなく、更に個性を引き出し、新感覚で新たな魅力創造へのステップアップを図る」としている。

こうした理念のもと、市役所内の様々な課所が地域資源を活用し、ブランド化をはかり、シビックプライドを醸成する事業を行っているが、当該年度は、10月に天覧山下の能仁寺隣接地に発酵食品のテーマパーク「OH!!!」がオープンしたことや、2月より渋沢栄一を主人公とした大河ドラマ「青天を衝け」の放送が開始されたことにより、これに関連する事業の支援が多かった。特に大河ドラマは、渋沢栄一の見立て養子で、「幕末のイケメン」として人気がある渋沢平九郎や、渋沢成一郎・尾高惇忠など栄一の従兄弟たちが戦った飯能



(一社)奥むさし飯能観光協会による渋沢平九郎動画撮影協力

戦争が番組に登場する可能性があり、地域の歴史を誘因として本市の魅力を紹介する絶好の機会と捉えられた。

一方、前年度冬より日本でも感染が広がった新型コロナウイルス感染症の影響で、事業自体が中止となったり、いくつかのイベントで、期間中の中断(下表の1)、事業形態の変更(下表の2)などを余儀なくされた。

#### ◆令和2年度事業支援の実績

	支援先	利用期間	内 容
1	埼玉県西部地域振興センター	3月1日(日) ～8月31日(月)	西部地域の魅力あるスポットを周知し、周遊を促すことにより観光客の増加と定住人口の増加に寄与しようとする「Saitama Look Westスタンプラリー」において、当館はスタンプ設置場所として協力するとともに、参加者に自然のポストカードを配布した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大のため3月28日(土)から中断し、6月1日(月)より再開した。
2	西川材フェア実行委員会・飯能商工会議所	8月1日(土) ～8月31日(月)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、毎年行っている西川材を使った木工工作コンクールに代わり、西川材に関連した施設、店舗を巡る「西川材スタンプラリー」を実施するもので、当館はスタンプ設置場所として協力した。
3	(一社)奥むさし飯能観光協会	9月	奥むさし飯能観光協会が実施する飯能森林文化系おとな旅2020「イケメンすぎる幕末の士 渋沢平九郎ゆかりの地を訪ねる旅」の企画及び飯能戦争の動画作成に協力した。
4	飯能市観光・エコツーリズム推進課・(一社)奥むさし飯能観光協会	10月16日(金) ～11月5日(木)	発酵のテーマパーク「OH!!!」のオープンに合わせ、飯能駅観光案内所、店蔵網甚など5箇所をめぐる「まちなかぐるっとスタンプラリー」において、当館はスタンプラリースポットの1つとして参加した。
5	埼玉県産業労働部観光課	2月	リーフレット「埼玉県内の渋沢栄一と尾高惇忠達の足跡を辿る」の作成に協力した。

# 博物館協議会

博物館協議会は、飯能市立博物館条例第11条に基づき、当館の運営に関する事項を調査し、審議するために置かれている。委員は、学校教育及

び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

**任期** 平成30年7月1日～令和2年6月30日

## 【開催状況】

令和2年6月4日(木)

午前10時～

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

## 【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
副会長	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
委員	伊藤 誠	原市場小学校長	令和2年3月31日退任
委員	中井 健一	加治小学校長	令和2年4月1日就任
委員	岡野 民嗣	吾野中学校長	令和元年3月31日退任
委員	岩崎 隆	名栗中学校長	令和元年4月1日就任
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	小槻 成克	飯能市文化財保護審議委員会委員	
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委員	馬場 憲一	法政大学名誉教授	
委員	平良 宣子	毛呂山町歴史民俗資料館学芸員	

**任期** 令和2年7月1日～令和4年6月30日

## 【開催状況】

第1回 令和2年8月21日(金)

午前10時～11時40分

(議事)

協議事項

- ・令和元年度事業報告について
- ・令和2年度事業経過と今後の予定について
- ・第3期教育振興基本計画について

## 【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
副会長	小槻 成克	飯能市文化財保護審議委員会委員	
委員	中井 健一	加治小学校長	
委員	岩崎 隆	名栗中学校長	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	岸 やよい	陶芸指導者	
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	野村 正弘	駿河大学教授	
委員	馬場 憲一	法政大学名誉教授	
委員	平良 宣子	毛呂山町歴史民俗資料館学芸員	

第2回 令和2年11月17日(火)

午前10時～11時20分

(議事)

協議事項

- ・令和2年度主要な事業報告・予定について
- ・令和3年度主要な事業計画(案)について
- ・博物館評価(案)について

第3回 令和3年3月16日(火)

午前10時～11時50分

(議事)

協議事項

- ・令和2年度主要な事業報告・予定について
- ・令和3年度主要な事業について
- ・飯能市立博物館における博物館評価の方法について

# 博物館実習



## Ⅱ 「学び」の入口となる博物館

博物館実習は、実習生たちが博物館の実際を知ること、今後の人生において博物館と関わり豊かに生きていくことの大切さを学んでもらう場でもある。学生たちにとっては、生涯学習の始まりの場ともなる。

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つとされており、登録博物館又は博物館相当施設(大学においてこれに準ずると認めた施設を含む。)における実習により修得される。登録博物館である当館は、文部科学省が平成21年4月に作成した「博物館実習ガイドライン」を参考にしながら博物館実習を実施している。「ガイドライン」は、博物館が学芸員を始めとする博物館に関する人材を育成する責務を有していること、実習の受け入れが博物館の質の向上につながることを指摘しているが、合わせて実習を通して実習生とその周辺の

人々に当館の役割や存在意義に対する理解を深めてもらうことも重要な目的の一つと考えている。

当館では実習を行う年の1月にその年の実施要領をホームページ上で公開することとしている。実習期間は7日間である。受け入れる学生は原則として、本市に本籍もしくは住所を有する方または本市内に所在する大学等に在学する方で、博物館概論の単位を修得済みで、実習を行う年度内に学芸員資格取得に必要な単位を全て修得可能であることを応募の条件にしている。申込みは実習の前年度末までに受け付け、概ね4人以内で実習生を受け入れている。

実習期間 令和2年7月31日(金)～8月7日(金) 7日間

実習生 菅野夢(帝京大学)・松本優輝・齋藤亮太(以上駿河台大学)

### ◆令和2年度博物館実習カリキュラム

	実施日	曜日	午前	午後
1	7月31日	金	オリエンテーション・ 「当館の現状と運営方針」(尾崎)	施設見学・意見交換(金澤)
2	8月1日	土	「今月の一品」展示(金澤)	
3	8月2日	日	自然観察会「さとやまの小さな生きもの 観察会」運営(長谷川・本橋)	自然観察会反省会(長谷川・本橋)
4	8月4日	火	名栗民俗資料保管庫の清掃作業・ 名栗村史史料保管室見学(金澤)	名栗くらしの展示室見学・ 意見交換(金澤)
5	8月5日	水	子ども向けのワークシート作り(金澤)	
6	8月6日	木	典籍移動・古文書整理(金澤)	古文書整理(金澤)
7	8月7日	金	館長講話(尾崎)・古文書整理(金澤)	史料の保存と修復について・SNS発信に ついての意見交換(金澤)

( )は指導者名



令和2年度博物館実習生  
苦勞して作った「今月の一品」の  
展示とともに

# 博物館実習生の声

## 1. 実際に博物館で業務に携わってみてわかったこと

- ・学芸員は、様々な働きが求められるということです。調査研究、教育活動など大学の授業で学んでいたよりも多くの業務があると実習を通して感じました。限られた予算やスペースで、いかに良い展示や行事を行うかなど学芸員は慎重に計画を立てていると知ることができました。また、地域博物館の問題や弱点もわかり、今後の博物館運営についても考える機会を持つことができました。
- ・博物館の業務は、資料の収集、整理、保管、展示、研究、教育事業など様々な物があり、最近では観光などにも力を入れなくてはいけないためとても大変だなと思った。また、業務ではコミュニケーション能力や勉強、身体能力など様々なスキルが求められるので館の職員さんの凄さが分かった。また、限りある時間でこれだけの業務をこなすことは誰でもできることではないためとてもすごいと思いました。
- ・実習を受けた7日間の中だけでも博物館の業務に関わってみて、様々な分野に対応していかななくてはならないと思いました。「今月の一品」の展示で実際に展示を体験してみて、展示一つを作るにしても大変なところもありましたが、協力して行うことでできたときの達成感がありました。教育普及に関しては初めて小学生向けのイベントに参加して、どう子どもたちや保護者の方に対応していけばいいかわからず難しいところもありました。博物館の現状についても話を聞くことができたので、実際に業務に携わら

ないと分からないこともたくさん知ることができました。

## 2. 博物館実習で楽しかったこと

- ・「今月の一品」の展示作業です。民具ファイルの中から、1つの資料を選び展示するというのが楽しかったです。展示に適しているか、季節に合っているかなどを、実習生同士で話し合いながら決定しました。キャプション作りでは、200文字という限られた中で解説文を作る必要あり、大変でしたが全員で協力し魅力的な文章が作れたと思います。
- ・全ての体験が楽しく学びにつながるものでしたが、なかでも1番楽しかったことはワークシート作成です。テーマや対象、ワークシートの意図などを1から考えて作り上げることはとてもやりがいがあり楽しかったです。対象年齢1つ考えても、解説などの分量やルビの振り方、どのような工夫をすれば楽しみ学んでもらえるのかなども考えて作らなければいけないため、それらがやりがいであり楽しい所だったと思います。
- ・名粟民俗資料保管庫や名栗くらしの展示室を見学できたことが楽しかったです。名粟に行くのは初めてで、また違った展示を見学できたことで、分かったことも多かったので、勉強になりました。他にも楽しかったことは多くありますが、自然観察会といった館外で行う実習が特に楽しかったです。天覧山の自然に触れて、子どもたちとも少しは話すことができ、子どもたちと一緒に学ぶことができました。



オリエンテーション (7/31)

## 3. 博物館実習でつらかった(大変だった)こと

- ・自然観察会です。暑い季節なので、体調不良者やケガ人が出ないように気配りするのが大変でした。また、班から離れてしまう子どもたちにどう声がけすれば良いかわからず苦戦しました。ですが、大きなケガ人もなく無事終了できて安心しました。
- ・自然観察会にスタッフとして参加しましたが、相手が元気な子どもたちであったためどのように自分がサポートしてあげれば、子どもたちが安全に楽しめ

るのか、また、学んでもらえるのかななどを常に考える必要があったためとても大変でしたが、とても勉強になりました。また、学芸員の方の対応力の向上やいろいろなリスクに対する準備などもすごく勉強になりました。

- ・実習中に大変だと思ったことは古文書整理でした。古文書にそれぞれ番号を付け、文書の状態や状況を見て史料カードに書いていくのですが、文書は1つ1つ違うものなので、その特徴を書いていくのが大変でした。しかし、古文書をじっくり見たり、触れたりすることはあまりないことなので、貴重な経験でした。

#### 4. 次年度の実習生に向けてのメッセージ (先輩として、実習を受けるにあたっての心構え、ここを楽しんでほしいなど)

- ・授業だけでは、わからない博物館の裏側や実際の業務を知ることができる貴重な機会です。疑問などがあればすぐ質問するなどして有意義な実習にしてほしいです。また、暑い時期なので早めに休んで万全の体調で取り組んでください。
- ・やはり、1番に心がけて欲しいことは館のみなさまがいそがしい中私たち、学生のために大切な時間を割いてくれていることを忘れず、常に敬意をもって失礼のないように接することです。また、あたり前のことですが、時間を守るなどのマナー面での事や、大切な資料などを扱う体験をするため、アドバイスや注意、説明などをしっかりと聞くことが大切だと思います。



施設見学 (7/31)



「今月の一品」の検討 (8/1)

- ・実習期間中は、一日で作業を終わらせて意見交換をすることもあるので、自分なりの自由な発想で物事を決めて集中して行ってほしいです。貴重な経験をさせて頂いているので、1日1日を大切にしていり組み、また館外での実習もあり、様々な分野を学ぶこともできるので、他の実習生とも仲良く協力し合いながら充実した博物館実習にしてください。

#### 5. 当館の博物館実習カリキュラムの内容 についてなどの意見

- ・様々な分野について満遍なく学べたと思います。特に今年は、コロナウイルスの影響で色々制限された中でも幅広く業務を体験できました。7日間楽しく学ぶことができる内容だと思いました。
- ・7日間という機会が多様でボリューム満点な体験、学習をさせていただき、すごくためになる充実した期間だと思いました。学校で学んでいても実際に体験してみないとわからない現場の苦労やおもしろさなどがあったため、とても勉強になりました。また、古文書整理は実物を実際に取り扱える数少ない機会でありとてもよい体験でした。
- ・実習という7日間の中で、博物館実習でしか味わえない貴重な経験をさせて頂き、充実した7日間となりました。業務の中でも難しいことや大変だったこともありましたが、館外での実習があったり、他の実習生とも協力し合いながら課題に取り組めたので、7日間の中で、学ぶ事ができたことは多く、博物館業務に携われたことをうれしく思います。

## 第 3 章

– Chapter 3 –

# 【各種データ】

# 利用者数

## 令和2年度利用者数

単位：人(明記したものを除く)

月	開館日数(日)	入館者数		入館者以外の利用者数						利用者合計に対する割合(%)	利用者合計
		人数	1日平均	出張授業受講者数	資料利用者数	レファレンス件数	講師派遣受講者数	ホームページアクセス件数	合計		
4	5	332	66.4		4	5		838	847	71.8	1,179
5	0	0	0.0		1	9		1,216	1,226	100.0	1,226
6	24	1,968	82.0	15	5	32	15	1,479	1,546	44.0	3,514
7	22	1,392	63.3		9	30		1,619	1,658	54.4	3,050
8	27	2,437	90.3		11	27	81	1,734	1,853	43.2	4,290
9	26	1,998	76.8	288	5	21	65	1,397	1,776	47.1	3,774
10	27	3,110	115.2	105	7	25	31	1,442	1,610	34.1	4,720
11	24	3,232	134.7	175	13	14	127	1,508	1,837	36.2	5,069
12	23	2,036	88.5	95	7	13	33	1,168	1,316	39.3	3,352
1	24	1,707	71.1	326	7	13		1,458	1,804	51.4	3,511
2	22	2,536	115.3	164	7	24	32	1,447	1,674	39.8	4,210
3	26	2,985	114.8		9	26		1,445	1,480	33.1	4,465
合計	250	23,733	94.9	1,168	85	239	384	16,751	18,627	44.0	42,360

開館(平成2年度)から令和2年度末までの

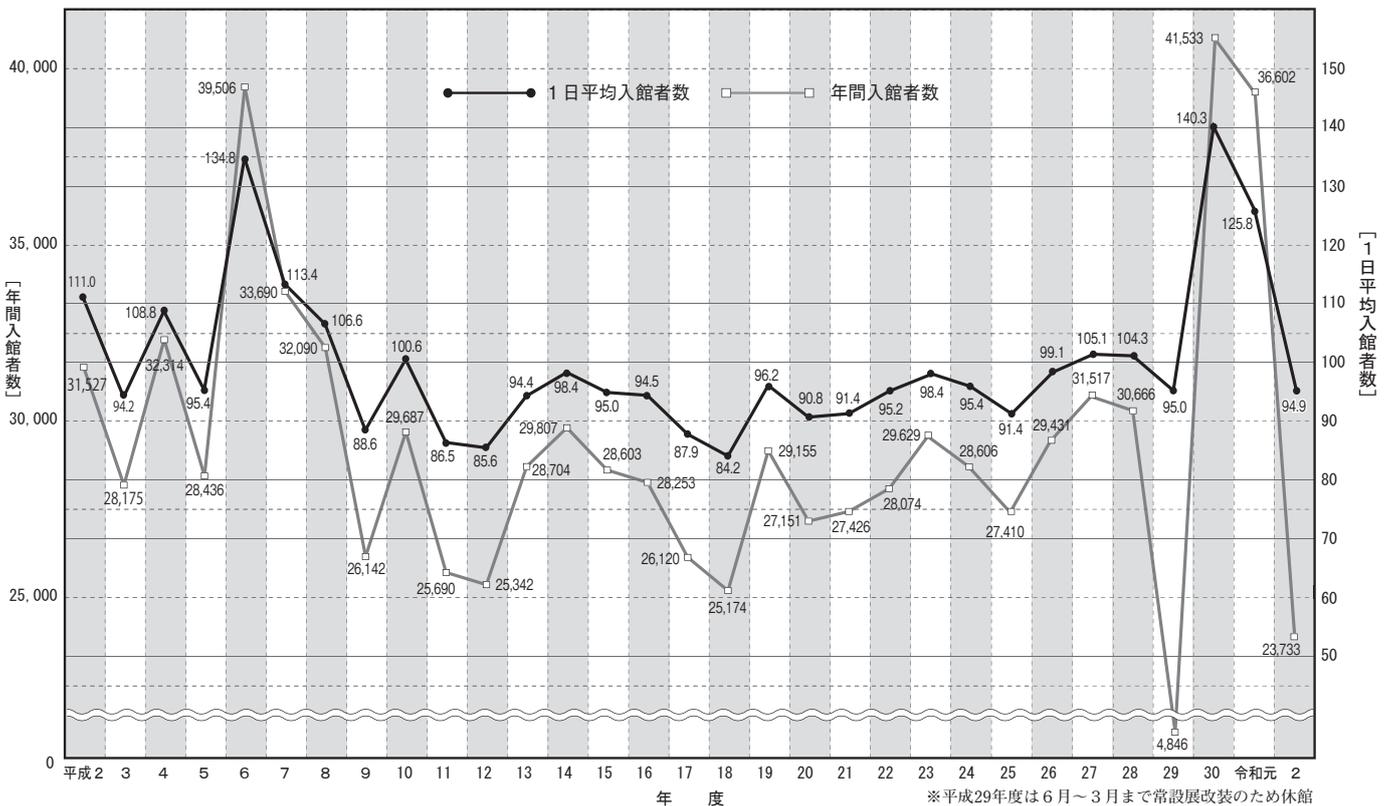
総入館者数 895,039人

開館日数 8,926日

1年平均入館者数 28,872.2人/年

1日平均入館者数 100.3人/日

## 入館者数の推移



# 歳出予算・決算

単位：円（明記したものを除く）

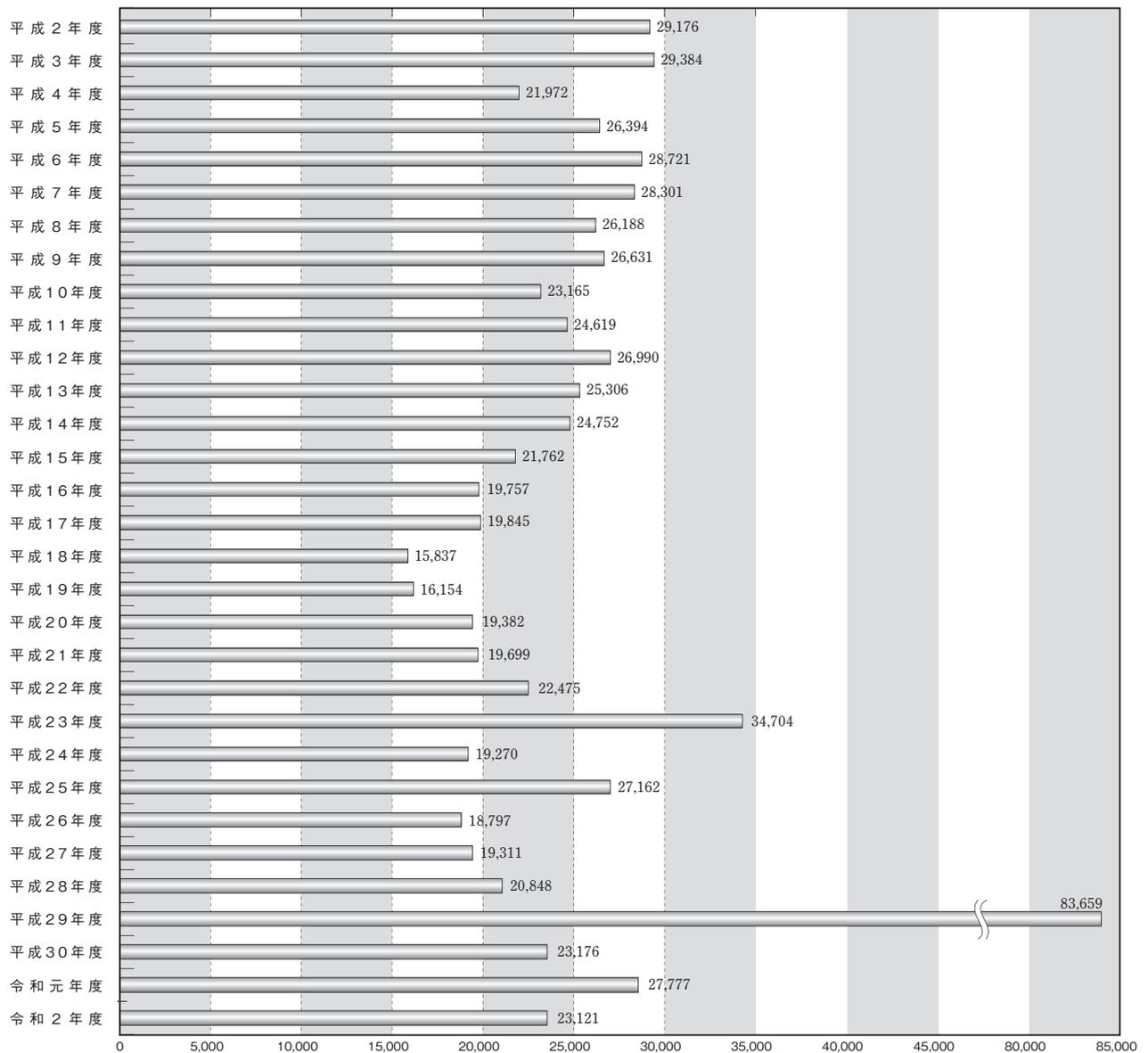
年度	事業名	一般職(会計年度任用)人件費	博物館	展示・学習会	資料収集	調査・研究	博物館施設	博物館費	A(%)	B(円)	C(円)
			事務費	開催事業	・保存事業	事業	管理事業				
平成30	予算額	0	7,913,000	3,554,000	1,371,000	697,000	9,641,000	23,176,000	0.08	290.1	558.0
	決算額	—	7,739,154	2,945,505	1,137,991	561,803	9,194,933	21,579,386	0.08	270.1	519.6
	執行率	—	97.8%	82.9%	83.0%	80.6%	95.4%	93.1%			
令和元	予算額	0	7,975,000	4,778,000	2,027,000	364,000	12,633,000	27,777,000	0.10	348.7	758.9
	決算額	—	7,631,978	4,338,752	1,803,871	309,805	15,295,485	29,379,891	0.10	368.9	802.7
	執行率	—	95.7%	90.8%	89.0%	85.1%	121.1%	105.8%			
令和2	予算額	5,866,000	2,294,000	4,064,000	1,858,000	626,000	8,413,000	23,121,000	0.08	291.4	974.2
	決算額	5,841,241	1,852,034	3,007,888	1,670,700	570,559	33,650,759	46,593,181	0.12	587.2	1963.2
	執行率	99.6%	80.7%	74.0%	89.9%	91.1%	400.0%	201.5%			

当館事業費決算額(正規職員人件費のぞく)

A：飯能市一般会計当初予算及び歳出決算額に対する割合 B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額  
C：入館者1人あたりの金額 ※平成29年度は開館期間が2ヶ月間だったため、例年に比べ数値が非常に高くなっている。

## 飯能市郷土館（飯能市立博物館）当初予算額の推移

単位：千円



※平成29年度は、常設展示改装工事のため予算が大幅に増額した。

## 図書資料寄贈機関

### 埼玉県

上尾市教育委員会  
朝霞市教育委員会（文化財課）  
朝霞市博物館  
入間市  
入間市博物館  
(令和元年度)入間市博物館学校連携事業研究委員会  
(令和2年度)入間市博物館学校連携事業研究委員会  
いろいろ生きものネット埼玉  
小鹿野町教育委員会社会教育課  
小川町教育委員会  
春日部市教育委員会  
春日部市郷土資料館  
加須市教育委員会  
神川町教育委員会  
川口市教育委員会  
川口市教育委員会生涯学習部文化財課  
かわごえ環境ネット  
川越市立博物館  
北本市教育委員会  
行田市郷土博物館  
久林山円福寺  
熊谷市  
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室  
熊谷市立熊谷図書館  
黒田デザイン事務所  
さいたま絹文化研究会  
埼玉県  
埼玉県入間地区公民館連絡協議会  
埼玉県教育局市町村支援部文化資源課  
埼玉県地方自治研究センター  
飯能市役所  
埼玉県文化財保護協会  
埼玉県平和資料館  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
埼玉県立川の博物館  
埼玉県立さきたま史跡の博物館他  
埼玉県立自然の博物館  
埼玉県立文書館  
埼玉県立嵐山史跡の博物館  
埼玉県立歴史と民俗の博物館  
さいたま市  
さいたま市岩槻人形博物館  
さいたま市大宮盆栽美術館  
さいたま植物資料研究会  
さいたま市立博物館  
さいたま文学館  
さいたま緑のトラスト協会  
幸手市教育委員会  
幸手市郷土資料館  
サトエ記念21世紀美術館  
自然誌文庫  
白岡市教育委員会  
駿河台大学  
駿河台大学教務部教務課  
駿河台大学資格課程  
駿河台大学メディア情報学部2020年度野村ゼミナール  
積和不動産  
草加市教育委員会  
秩父市  
鶴ヶ島市教育委員会  
鉄道博物館  
戸田市立郷土博物館  
所沢市教育委員会  
所沢市生涯学習推進センター  
滑川町教育委員会  
新座市教育委員会  
日本工業大学工業技術博物館  
日本高麗浪漫学会  
原田病院  
飯能市  
飯能市教育委員会  
飯能市立各小・中学校  
日高市遺跡調査会  
日高市教育委員会  
深谷市教育委員会  
富士見市立難波田城資料館  
富士見市立水子貝塚資料館  
ふじみ野市立大井郷土資料館  
松伏町教育委員会  
三郷市  
宮代町郷土資料館  
毛呂山町教育委員会  
八潮市立資料館  
吉見町教育委員会

蕨市立歴史民俗資料館

## 東京都

阿豆佐味天神社  
荒川区・荒川区教育委員会  
板橋区教育委員会  
板橋区立郷土資料館  
青梅市  
青梅市教育委員会  
大田区立郷土博物館  
学習院大学史料館  
北区教育委員会  
清瀬市  
清瀬市郷土博物館  
くにたち郷土文化館  
駒澤大学大学院史学会  
渋沢栄一記念財団  
昭和館  
新宿区文化観光産業部文化観光課文化資源係  
杉並区立郷土博物館  
杉並区立郷土博物館分館  
大正大学教務課学芸員課程  
台東区教育委員会  
立川言語文化研究会  
多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト実行委員会  
たましん地域文化財団  
ディア・ライフ  
東京都江戸東京博物館  
東京都教育庁社会教育部文化課  
東京都三多摩公立博物館協議会  
東京都歴史文化財団  
豊島区  
西東京郷土史研究会  
日本財団  
日本博物館協会  
練馬区立石神井公園ふるさと文化館  
野村不動産株式会社  
八王子市  
八王子市教育委員会  
八王子市郷土資料館  
八王子市市史編さん室  
東村山市教育委員会  
東大和市教育委員会  
日野市  
府中市  
府中市郷土の森博物館  
文化財虫菌害研究所  
法政大学・青梅市教育委員会  
町田市教育委員会

武蔵大学学芸員課程

武蔵村山市教育委員会・武蔵村山市立歴史民俗資料館  
明治大学学芸員養成課程  
文部科学省・厚生労働省  
立正大学博物館  
立正大学博物館学芸員課程

## その他

あつぎ郷土博物館  
出雲大社教務本庁内特立百年みかえし委員会  
稲敷市立歴史民俗資料館  
岩宿博物館  
小山市立博物館  
上総古文書の会  
かすみがうら市歴史博物館  
神奈川大学日本常民文化研究所  
かみつけの里博物館  
菊川市教育委員会  
君津市立久留里城址資料館  
熊本県教育委員会  
群馬県立歴史博物館  
国立歴史民俗博物館  
寒川町  
下関市立考古博物館  
吹田市立博物館  
高崎市観音塚考古資料館  
館林市教育委員会  
田原市博物館  
千葉県  
千葉県文書館  
津山郷土博物館  
津山市  
長久保赤水顕彰会  
長野市教育委員会文化財課松代文化施設等管理事務所  
(真田宝物館)  
流山市教育委員会  
流山市立博物館  
野田市郷土博物館  
馬事文化財団・馬の博物館  
榛名町誌刊行委員会  
平塚市博物館  
Hiroshima Peace Culture Foundation  
藤沢市文書館  
松戸市立博物館  
水戸市立博物館  
睦合文化財株式会社  
立命館大学国際平和ミュージアム  
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター

# 飯能市立博物館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、飯能市立博物館(以下「博物館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(管理)

第2条 博物館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第3条 博物館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第4条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第5条 博物館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、博物館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(入館料)

第7条 博物館の入館料は、無料とする。ただし、市長は、博物館が期間を定めて特別の資料の展示をした場合は、入館料として当該展示に係る必要な対価を徴収することができる。

(入館料の減免)

第8条 市長は、特に必要があると認めるときは、入館料を減額し、又は免除することができる。

(入館料の還付)

第9条 既に納めた入館料は、還付しない。ただし、市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することができる。

- (1) 利用者の責めに帰することができない理由により博物館を利用することができないとき。
- (2) その他市長がやむを得ない理由があると認めるとき。

(損害賠償)

第10条 博物館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、博物館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(博物館協議会)

第11条 法第20条第1項の規定に基づき、飯能市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第12条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験者

(委員の任期)

第13条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第14条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第15条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第16条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(委任)

第17条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。

(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

附 則 (平成24年条例第7号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

附 則 (平成29年条例第20号)

(施行期日)

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市立博物館条例の規定により任命された飯能市立博物館協議会の委員とみなす。(飯能市情報公開条例の一部改正)

3 飯能市情報公開条例(平成11年条例第1号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

4 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

# 飯能市立博物館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市立博物館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市立博物館(以下「博物館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、博物館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、博物館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市立博物館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市立博物館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(博物館資料の利用及び許可)

第5条 博物館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市立博物館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市立博物館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(入館手続)

第7条 条例第7条ただし書に掲げる入館料が定められた展示を観覧しようとする者は、入館前にその定められた入館料を納付し、入館券の交付を受けなければならない。

(入館料の減免)

第8条 条例第8条の規定による入館料の減免は、次に定めるところによる。

(1) 本市が直接利用するとき 免除

(2) 本市の区域内に設置された学校又は保育所が利用するとき 免除

(3) 国又は本市以外の地方公共団体が利用するとき 免除

(4) その他教育委員会が特に必要と認めるとき 教育委員会が別に定める割合

2 入館料の減免を受けようとする者は、教育委員会に申請し、その承認を受けなければならない。

(入館料の還付)

第9条 条例第9条ただし書の規定により還付する入館料の額は、次に定めるところによる。

(1) 利用者の責めに帰することができない理由により利用することができないとき 全額

(2) その他教育委員会がやむを得ない理由があると認めるとき 教育委員会が定める額

(資料の寄贈及び寄託)

第10条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市立博物館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市立博物館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市立博物館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市立博物館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、博物館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第11条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

附 則(平成30年教委規則第3号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

様式第1・3・5・6号(74ページ)、様式第2・4・6・7号省略

様式第1号(第4条関係)

担当	館長

館能市立博物館施設利用許可申請書

年 月 日

(宛先)館能市立博物館長

団体名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

申請者 氏名 \_\_\_\_\_

電話番号 ( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり施設を利用したいので申請します。

利用責任者	住所	氏名	電話番号 ( )
利用目的			
利用日時	年 月 日 時 分～ 年 月 日 時 分		
利用施設	<input type="checkbox"/> 学習研修室	人	
	<input type="checkbox"/> 特別展示室	展示品( ) 点	
利用備品	<input type="checkbox"/> スライド映写機 <input type="checkbox"/> ビデオ機器 <input type="checkbox"/> 展示パネル <input type="checkbox"/> 展示ケース <input type="checkbox"/> 展示台 <input type="checkbox"/> その他( )		
その他 特記事項			

※ □内は、該当するところにレ印をつけてください。

様式第1号 施設利用許可申請書

様式第5号(第10条関係)

担当	館長

第 号

館能市立博物館資料寄贈申請書

年 月 日

(宛先)館能市立博物館長

住所 \_\_\_\_\_

申請者 氏名 \_\_\_\_\_

電話番号( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり資料を寄贈したいので申請します。

資 料 名	数 量	備 考

様式第5号 資料寄贈申請書

様式第3号(第5条関係)

担当	館長

館能市立博物館資料利用許可申請書

年 月 日

(宛先)館能市立博物館長

団体名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

申請者 氏名 \_\_\_\_\_

電話番号( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり博物館資料を利用したいので申請します。

利用目的				
利用期間	年 月 日から 年 月 日まで			
利用場所	館 内・館 外( )			
利用方法				
利用資料	分類番号	資 料 名	数 量	備 考
輸送方法	館外利用のみ( )			
利用責任者				
特記事項				

返却日	受領者

様式第3号 資料利用許可申請書

様式第6号(第10条関係)

担当	館長

第 号

館能市立博物館資料寄託申請書

年 月 日

(宛先)館能市立博物館長

住所 \_\_\_\_\_

申請者 氏名 \_\_\_\_\_

電話番号( ) \_\_\_\_\_

次のとおり資料を寄託したいので申請します。

寄託期間	年 月 日から	年 月 日まで	
寄託資料	資 料 名	数 量	備 考

様式第6号 資料寄託申請書

74

# 職員

## 令和2年度

教育長 今井 直己  
 生涯学習スポーツ部長 大野 悟  
 館長(学芸員) 尾崎 泰弘  
 主査(学芸員) 引間 隆文  
 主任(学芸員) 長谷川裕子  
 主事(学芸員) 金澤花陽乃

会計年度任用職員(自然調査) 本橋 綾香  
 会計年度任用職員(資料整理・展示準備ほか) 石田 朋子  
 加藤 緑  
 入子美佐子  
 派遣(施設管理) 野口 修

## ● 市民学芸員(敬称略)

朝倉正浩	浅見敏夫	池田勝造	石井久栄	石原紀子	石森実三	板津沙耶香
伊藤孝文	伊藤美津江	上田明司	宇津木繁生	大津明	大野さく子	大野正一
久津輪社	小暮進	小林利和	小林豊子	子安修二	子安裕子	坂本利二
佐々木初江	佐藤永治	佐藤繁	篠田時男	篠宮敏次	渋谷勝男	嶋崎季子
嶋田恭子	清水芙美子	杉山玉子	須藤みち香	関根秀俊	遠山晴美	遠山光保
富澤武男	永田幸雄	仲舘祐子	中藤栄寿	中山功	双木幸三	西久保治子
根立範子	長谷川志保子	畑中久美	馬場朱美	原田恵子	福嶋信子	藤野英一
別府愛	松田早苗	村岡裕子	柳戸淳吉	山川貞治	山岸忠義	山崎和永
山田栄子	和島和恵	吉沢安宣	渡邊栄子	渡邊雅子	(以上61名)	

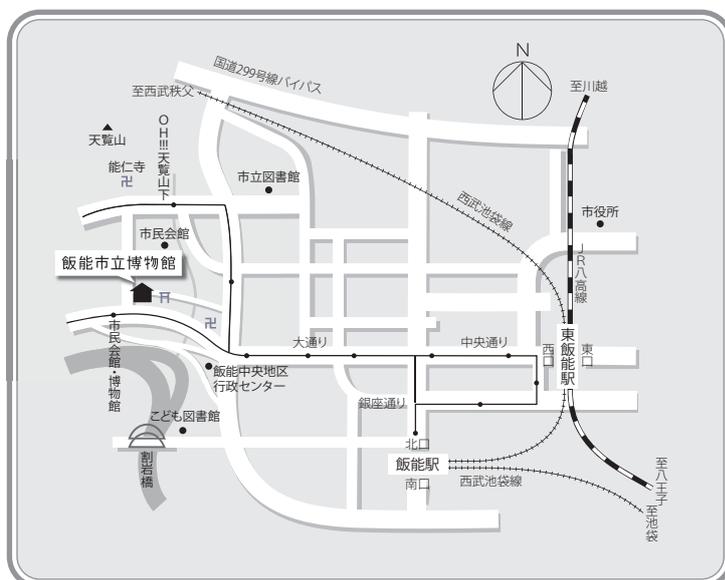


## 利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）  
年末年始（12月28日～1月4日）
- 入館料：無料

### 交通案内

- 自動車：圏央道狭山日高ICより約20分
- 公共交通機関：飯能駅北口より徒歩約15分または東飯能駅西口より徒歩約20分  
飯能駅北口または東飯能駅西口より国際興業バス名栗方面「市民会館・博物館」バス停車下車徒歩3分、または西武飯能日高行「OH!!!天覧山下」バス停徒歩5分



## 飯能市立博物館館報 きっとすレポート

第3号（通巻第18号）

令和3年11月12日発行

発行 飯能市立博物館  
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1  
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431  
E-mail: museum@city.hanno.lg.jp  
http://www.city.hanno.lg.jp/hall/museum.html

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ  
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4  
TEL (042) 974-5260

〈印刷の仕様〉

- |   |         |   |
|---|---------|---|
| 1 | 版 型     | A 4 版   |
| 2 | 紙 質     | (表紙) マットコート紙 菊判111kg<br>(本文) クリームキンマリ菊判62.5kg |
| 3 | 印刷方法    | オフセット印刷1色刷り (本文) 76ページ                        |
| 4 | 印刷内容    | モノクロ写真 74枚                                    |
| 5 | スクリーン線数 | 175線  |
| 6 | 製 本     | 無線綴じ  |



飯能市立博物館  
Hanno Municipal Museum

埼玉県飯能市大字飯能 258-1  
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431